

資料

系列別主要劇場

劇場名	席数	仕様	劇場名	席数	仕様
伝統演劇系列					
国立劇場(大)	1,616	【大】	東京グローブ座	595～713	【中】
国立劇場(小)	526	【中】	スペース・ゼロ	575	【中】
国立文楽劇場	731～751	【中】	新神戸オリエンタル劇場	639	【中】
国立能楽堂	627	【中】	シアター・ドラマシティ	898	【中】
国立劇場おきなわ	578～632	【中】	現代演劇系列Ⅲ		
歌舞伎座	1,808	【大】	紀伊國屋ホール	416	【小】
大劇場演劇系列			紀伊國屋サザンシアター	468	【小】
新橋演舞場	1,428	【大】	博品館劇場	381	【小】
明治座	1,368	【大】	俳優座劇場	300	【小】
中日劇場	1,444	【大】	両国シアターX	172～300	【小】
京都南座	1,086	【大】	本多劇場	386	【小】
大阪松竹座	1,090	【大】	ザ・スズナリ	200	【小】
大阪新歌舞伎座	1,453～1,529	【大】	下北沢駅前劇場	200	【小】
梅田芸術劇場 メインホール	1,905	【大】	OFF・OFFシアター	100	【小】
博多座	1,392～1,474	【大】	下北沢「劇」小劇場	130	【小】
現代演劇系列Ⅰ(国公立系)			シアター・モリエール	186	【小】
新国立劇場(中)	1,010～1,038	【大】	シアター・サンモール	294	【小】
新国立劇場(小)	416～468	【小】	こまばアゴラ劇場	60～130	【小】
東京芸術劇場 プレイハウス	834	【中】	ミュージカル演劇系列		
東京芸術劇場 シアターイースト	286	【小】	TBS赤坂ACTシアター	1,324	【大】
東京芸術劇場 シアターウエスト	259	【小】	日生劇場	1,330	【大】
世田谷パブリックシアター	600	【中】	帝国劇場	1,826	【大】
シアタートラム	240	【小】	宝塚大劇場	2,550	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(大)	776	【中】	東京宝塚劇場	2,069	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(小)	346	【小】	宝塚バウホール	500	【中】
ピッコロシアター	396	【小】	四季劇場「春」	1,255	【大】
兵庫県立芸術文化センター(中)	800	【中】	四季劇場「秋」	907	【大】
あうるすぽっと	301	【小】	電通四季劇場「海」	1,216	【大】
座・高円寺1	238	【小】	四季劇場「夏」	1,200	【大】
座・高円寺2	256～298	【小】	自由劇場	500	【中】
神奈川芸術劇場 ホール	1,300	【大】	大阪四季劇場	1,119	【大】
現代演劇系列Ⅱ			チャンネルシティ劇場	1,144	【大】
シアタークリエ	611	【中】	名古屋四季劇場	約1,200	【大】
三越劇場	543	【中】	北海道四季劇場	994	【大】
サンシャイン劇場	832	【中】			
シアターコクーン	747	【中】			
天王洲銀河劇場	746	【中】			

上の内、大劇場は900席以上、中劇場は899～500席、小劇場は499席以下という基準で規定した。各流能楽堂、新国立劇場(大)、東京芸術劇場(大)、オーチャードホール、日本青年館は除いた。

※(公社)日本演劇興行協会所属劇場：歌舞伎座 新橋演舞場 明治座 中日劇場 南座 松竹座
新歌舞伎座 梅田芸術劇場 博多座 シアタークリエ サンシャイン劇場 帝国劇場

※中劇場協議会所属劇場：三越劇場 サンシャイン劇場 シアターコクーン 天王洲銀河劇場
紀伊國屋ホール 紀伊國屋サザンシアター 博品館劇場 俳優座劇場 両国シアターX
本多劇場 シアターサンモール

2017年松竹株式会社主催公演

会場・劇場	上演作品	公演期間	回数
歌舞伎座	「壽初春大歌舞伎」	1/ 2～ 1/26	50
歌舞伎座	「江戸歌舞伎三百九十年 猿若祭二月大歌舞伎」	2/ 2～ 2/26	50
歌舞伎座	「三月大歌舞伎」	3/ 3～ 3/27	50
歌舞伎座	「四月大歌舞伎」	4/ 2～ 4/ 6	50
歌舞伎座	「七世尾上梅幸二十三回忌 十七世市村羽左衛門十七回忌追善 團菊祭五月大歌舞伎」	5/ 3～ 5/27	50
歌舞伎座	「六月大歌舞伎」	6/ 2～ 6/26	50
歌舞伎座	「七月大歌舞伎」	7/ 3～ 7/27	
歌舞伎座	「八月納涼歌舞伎」	8/ 9～ 8/27	57
歌舞伎座	「秀山祭九月大歌舞伎」	9/ 1～ 9/25	50
歌舞伎座	「芸術祭十月大歌舞伎」	10/ 1～10/25	50
歌舞伎座	「吉例顔見世大歌舞伎」	11/ 1～11/25	50
歌舞伎座	「十二月大歌舞伎」	12/ 2～12/26	75
新橋演舞場	「壽 新春大歌舞伎」	1/ 3～ 1/27	50
新橋演舞場	「芸能生活55周年 舟木一夫シアターコンサート in 新橋演舞場」	1/28	2
新橋演舞場	「二月喜劇名作公演」	2/ 1～ 2/12	12
新橋演舞場	「東×西SHOW 合戦」	2/18～ 2/26	16
新橋演舞場	ブロードウェイ・ミュージカル「コメディ・トゥナイト! ローマで起こったおかしな出来事(江戸版)」	3/ 4～ 3/28	36
新橋演舞場	「滝沢歌舞伎2017」	4/ 6～ 5/14	53
新橋演舞場	熱海五郎一座「フルボディミステリー 消えた目撃者と悩ましい遺産」	6/ 2～ 6/27	37
新橋演舞場	「七月名作喜劇公演」	7/ 3～ 7/25	36
新橋演舞場	「ミュージカル にんじん」	8/ 1～ 8/27	35
新橋演舞場	「レビュー 夏のおどり」	8/31～ 9/ 3	7
新橋演舞場	「松竹新喜劇新秋公演」	9/ 7～ 9/24	36
新橋演舞場	スーパー歌舞伎II「ワンピース」	10/ 6～11/25	78
新橋演舞場	「芸能生活55周年 舟木一夫特別公演」	12/ 2～12/24	40
新橋演舞場	「舟木一夫サンクスコンサート」	12/25	1
浅草公会堂	「新春浅草歌舞伎」	1/ 2～ 1/26	49
三越劇場	「初春新派公演 華岡青洲の妻」	1/ 2～ 1/23	36
三越劇場	「リーディング新派」	1/25	1
三越劇場	「六月花形新派公演 黒蜥蜴」	6/ 1～ 6/24	40
日生劇場	「音楽劇マリウス」	3/ 6～ 3/27	32
日生劇場	「少年たち～Born TOMORROW～」	9/ 7～ 9/28	33
サンシャイン劇場	「アマデウス」	9/24～10/ 9	23
とよはし芸術劇場	「少年たちLIVE」	10/ 7～10/ 9	5
大阪松竹座	「壽初春大歌舞伎」 ※	1/ 2～ 1/26	50
大阪松竹座	「二月花形歌舞伎」	2/ 1～ 2/25	50
大阪松竹座	「三代目桂春團治一周忌追善落語会」	2/26	2
大阪松竹座	「関西ジャニーズJr.春のSHOW合戦」	3/ 4～ 3/28	34
大阪松竹座	「ブロードウェイ・ミュージカル コメディ・トゥナイト! ローマで起こったおかしな出来事(江戸版)」	4/ 2～ 4/25	33
大阪松竹座	「五月花形歌舞伎」	5/ 2～ 5/26	50
大阪松竹座	「銀二貫」	6/ 1～ 6/11	20
大阪松竹座	「OSK日本歌劇団 レビュー 春のおどり」	6/17～ 6/25	16
大阪松竹座	「七月大歌舞伎 関西・歌舞伎を愛する会 第二十六回」	7/ 3～ 7/27	50
大阪松竹座	「関西ジャニーズJr.少年たち」	8/ 2～ 8/27	34
大阪松竹座	「ミュージカル にんじん」	9/ 1～ 9/10	13

※中村橋之助改め八代目中村芝瓶、中村国生改め四代目中村橋之助、
中村宗生改め三代目中村福之助、中村宜生改め四代目中村歌之助 襲名披露

会場・劇場	上演作品	公演期間	回数
大阪松竹座	「芸能生活55周年記念 舟木一夫シアターコンサートin大阪松竹座」	9/16～ 9/17	4
大阪松竹座	九月新派公演「華岡青洲の妻」	9/22～ 9/30	15
大阪松竹座	「大阪松竹座 第四回 五耀會」	10/ 7	1
大阪松竹座	「三喬改メ 七代目笑福亭松喬 襲名披露公演」	10/ 8	2
大阪松竹座	「松本幸四郎 in アマデウス」	10/13～10/22	13
大阪松竹座	「少年たち -Born TOMORROW」	10/27～11/12	27
大阪松竹座	「松竹新喜劇 錦秋公演」	11/17～11/24	16
大阪松竹座	「関西ジャニーズJr.X'MAS SHOW2017」	12/ 1～12/25	35
ロームシアター京都	坂東玉三郎×鼓童「幽玄」	9/21～ 9/23	3
ロームシアター京都	京の年中行事 當る戌歳「吉例顔見世興行 東西合同大歌舞伎」※	12/ 1～12/18	36

2017年東宝株式会社主催公演

会場・劇場	上演作品	公演期間	回数
帝国劇場	JOHNNYS'ALLSTARS ISLAND	1/ 1～ 1/24	38
帝国劇場	Endless SHOCK	2/ 1～ 3/31	78
帝国劇場	王家の紋章	4/ 8～ 5/ 7	40
帝国劇場	レ・ミゼラブル	5/21～ 7/17	79
帝国劇場	ビューティフル	7/26～ 8/26	43
帝国劇場	JOHNNYS'YOU&ME ISLAND	9/ 6～ 9/30	37
帝国劇場	レディ・ベス	10/ 8～11/18	55
帝国劇場	朝陽の中で微笑んで	11/27～12/20	26
シアタークリエ	お気に召すまま	1/ 4～ 2/ 4	41
シアタークリエ	クリエ・ミュージカル・コレクションⅢ	2/ 9～ 3/ 5	32
シアタークリエ	スパークリング・ヴォイスⅡ	3/ 9～ 3/15	12
シアタークリエ	キューティ・ブロンド	3/21～ 4/ 3	19
シアタークリエ	きみはいい人、チャーリー・ブラウン	4/ 9～ 4/25	22
シアタークリエ	ジャニーズ銀座 2017	4/29～ 6/ 4	55
シアタークリエ	CLUB SEVEN-ZERO-	6/ 8～ 6/22	20
シアタークリエ	春風亭小朝のクリエで落語	6/18	1
シアタークリエ	瀬奈じゅん 25th anniversary concert	6/23～ 6/25	4
シアタークリエ	RENT	7/ 2～ 8/ 6	45
シアタークリエ	GACHI	8/11～ 8/27	24
シアタークリエ	VOICARION II	8/31～ 9/ 7	14
シアタークリエ	一路真輝35周年記念コンサート	9/ 8～ 9/10	4
シアタークリエ	ミッドナイト・イン・パリ	9/15～ 9/29	20
シアタークリエ	土佐堀川	10/ 4～10/28	30
シアタークリエ	ダディ・ロング・レッグズ	11/ 1～11/24	29
シアタークリエ	レジェンド・オブ・ミュージカル	11/ 7	1
シアタークリエ	誰か席に着いて	11/28～12/11	18
シアタークリエ	ドッグファイト	12/14～12/30	22
日生劇場	フランケンシュタイン	1/ 8～ 1/29	31
日生劇場	ピック・フィッシュ	2/ 7～ 2/28	30
日生劇場	紳士のための愛と殺人の手引き	4/ 8～ 4/30	29
日生劇場	グレート・ギャツビー	5/ 8～ 5/29	30
日生劇場	ABC座 ジャニーズ伝説2017	10/ 7～10/28	33
日生劇場	屋根の上のヴァイオリン弾き	12/ 5～12/29	33
EXシアター六本木	あさひなぐ	5/20～ 5/31	18

2017年宝塚歌劇団主催公演

会場	組	演目	期間	回数
宝塚大劇場	月組	グランドホテル/カルーセル輪舞曲(ロンド)	1/ 1～ 1/30	43
宝塚大劇場	宙組	王妃の館—Château de la Reine—/VIVA! FESTA!	2/ 3～ 3/ 6	46
宝塚大劇場	星組	THE SCARLET PIMPERNEL (スカーレット ピンパーネル)	3/10～ 4/17	55
宝塚大劇場	雪組	幕末太陽傳/Dramatic “S”!	4/21～ 5/29	55
宝塚大劇場	花組	邪馬台国の風/Santé!!	6/ 2～ 7/10	55
宝塚大劇場	月組	All for One ～ダルトニアンと太陽王～	7/14～ 8/14	46
宝塚大劇場	宙組	神々の土地 /クラシカル ビジュー	8/18～ 9/25	55
宝塚大劇場	星組	ベルリン、わが愛/Bouquet de TAKARAZUKA(プーケド タカラヅカ)	9/29～11/ 6	54
宝塚大劇場	雪組	ひかりふる路(みち)～革命家、マクシミリアン・ロベスピエール～/SUPER VOYAGER!	11/10～12/15	51
宝塚大劇場	—	宝塚舞踊会	10/17	1
東京宝塚劇場	花組	雪華抄(せっかしょう)/金色(こんじき)の砂漠	1/ 2～ 2/ 5	51
東京宝塚劇場	月組	グランドホテル/カルーセル輪舞曲(ロンド)	2/21～ 3/26	50
東京宝塚劇場	宙組	王妃の館—Château de la Reine—/VIVA! FESTA!	3/31～ 4/30	45
東京宝塚劇場	星組	THE SCARLET PIMPERNEL (スカーレット ピンパーネル)	5/ 5～ 6/11	55
東京宝塚劇場	雪組	幕末太陽傳/Dramatic “S”!	6/16～ 7/23	55
東京宝塚劇場	花組	邪馬台国の風/Santé!!	7/28～ 8/27	45
東京宝塚劇場	月組	All for One ～ダルトニアンと太陽王～	9/ 1～10/ 8	55
東京宝塚劇場	宙組	神々の土地 /クラシカル ビジュー	10/13～11/19	55
東京宝塚劇場	星組	ベルリン、わが愛/Bouquet de TAKARAZUKA(プーケド タカラヅカ)	11/24～12/24	45
宝塚パウホール	星組	燃ゆる風—軍師・竹中半兵衛—	1/12～ 1/23	18
宝塚パウホール	雪組	New Wave! —雪—	2/ 9～ 2/19	17
宝塚パウホール	宙組	パーシャルタイムトラベル 時空の果てに	6/ 9～ 6/20	18
宝塚パウホール	専科	神家(こうや)の七人(しちにん)	11/13～11/25	18
宝塚パウホール	月組	Arkadia—アールカディア—	12/ 1～12/12	18
梅田芸術劇場 メインホール	宙組	A Motion (エース モーション)	6/ 6～ 6/11	9
梅田芸術劇場 メインホール	星組	オーム・シャンティ・オーム—恋する輪廻—	7/22～ 8/ 7	25
梅田芸術劇場 メインホール	—	タカラヅカスペシャル2017 ジュテーム・レビュー—モン・パリ誕生90周年—	12/21～12/22	4
梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ	花組	MY HERO	4/ 2～ 4/10	13
梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ	月組	瑠璃色の刻(とき)	4/29～ 5/ 7	13
梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ	星組	阿弓流為—ATERUI—	7/15～ 7/23	14
梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ	雪組	CAPTAIN NEMO	9/16～ 9/24	14
梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ	花組	はいからさんが通る	10/ 7～10/15	14
東京国際フォーラム	星組	オーム・シャンティ・オーム—恋する輪廻—	1/ 6～ 1/18	20
TBS赤坂ACTシアター	花組	MY HERO	3/16～ 3/23	12
TBS赤坂ACTシアター	月組	瑠璃色の刻(とき)	5/13～ 5/21	13
TBS赤坂ACTシアター	花組	ハンナのお花屋さん—Hanna's Florist—	10/ 9～10/29	31
文京シビックホール	宙組	A Motion (エース モーション)	6/23～ 6/28	10
日本青年館ホール	星組	阿弓流為—ATERUI—	7/31～ 8/ 6	11
日本青年館ホール	雪組	CAPTAIN NEMO	8/29～ 9/ 4	11
日本青年館ホール	花組	はいからさんが通る	10/24～10/30	11
全国ツアー	花組	仮面のロマネスク/EXCITER!!2017	3/18～ 4/ 9	29
全国ツアー	雪組	琥珀色の雨にぬれて/“D”ramatic S!	8/25～ 9/18	35
全国ツアー	月組	鳳凰伝/CRYSTAL TAKARAZUKA—イメージの結晶—	11/17～12/10	33
中日劇場	雪組	星逢一夜(ほしあいひとよ)/Greatest HITS!	2/ 4～ 2/28	37
博多座	月組	長崎しぐれ坂/カルーセル輪舞曲(ロンド)	5/ 4～ 5/27	36

※貸切含む。

※台風・大雪による中止は除く。

2017年劇団四季主催公演

会場	上演作品	公演期間 <small>(上演中作品は現時点での公演決定日まで)</small>	公演回数 <small>(17年回数/公演期間中の総回数)</small>
四季劇場[春]	『ライオンキング』	98/12/20～17/ 5/28	131/6327
四季劇場[秋]	『ノートルダムの鐘』	16/12/11～17/ 6/25	166/185
自由劇場	『嵐の中の子どもたち』	16/12/23～17/ 1/ 9	10/20
自由劇場	『エルコスの祈り』	17/ 3/18～17/ 4/ 4	23
自由劇場	『ブラックコメディ』	17/ 4/21～17/ 5/14	22
自由劇場	『嵐の中の子どもたち』	17/ 7/23～17/ 7/31	12
自由劇場	『ガンバの大冒険』	17/ 8/ 6～17/ 8/14	12
自由劇場	『ソング&ダンス 65』	17/10/ 5～17/11/26	50
自由劇場	『王様の耳はロバの耳』	17/12/22～18/ 1/ 8	13/22
電通四季劇場[海]	『アラジン』	15/ 5/24～18/12/31	323/1194
四季劇場[夏]	『リトルマーメイド』	13/ 4/ 7～17/ 4/ 9	91/1350
四季劇場[夏]	『ライオンキング』	17/ 7/16～18/ 6/30	159/318
KAAT神奈川芸術劇場	『オペラ座の怪人』	17/ 3/25～17/ 8/13	134
	小計		1146
大阪四季劇場	『キャッツ』	16/ 7/16～18/ 5/ 6	339/613
	小計		339
京都劇場	『美女と野獣』	16/11/12～17/ 5/21	130/175
京都劇場	『ノートルダムの鐘』	17/ 7/23～17/ 9/28	65
京都劇場	『オペラ座の怪人』	17/12/27～18/ 3/31	4/86
	小計		199
名古屋四季劇場	『リトルマーメイド』	16/10/16～18/ 5/31	334/542
	小計		334
北海道四季劇場	『ライオンキング』	17/ 3/ 5～18/ 5/27	267/353
	小計		267
上野学園ホール	『オペラ座の怪人』	17/ 9/14～17/11/19	63
	小計		63
チャンネルシティ劇場	『アンデルセン』	17/ 6/10～17/ 6/22	10
チャンネルシティ劇場	『リトルマーメイド』	17/ 8/11～18/ 2/28	136/188
	小計		146
1都市／通算72都市	『ウェストサイド物語』	16/ 6/25～17/ 1/ 9	9/133
78都市	『アンデルセン』	17/ 7/15～17/12/24	107
19都市／通算40都市	『王子とこじぎ』こころの劇場	16/ 8/19～17/ 3/15	44/110
14都市／通算33都市	『王子とこじぎ』全国公演	16/ 8/ 6～17/ 3/26	17/37
19都市／通算95都市	『エルコスの祈り』こころの劇場	16/ 4/27～17/ 3/ 3	35/187
5都市／通算37都市	『エルコスの祈り』全国公演	16/ 4/23～17/ 2/26	5/44
64都市／通算84都市	『ガンバの大冒険』こころの劇場	17/ 4/26～18/ 3/16	185/234
23都市／通算34都市	『ガンバの大冒険』全国公演	17/ 4/22～18/ 3/25	26/37
42都市／通算65都市	『嵐の中の子どもたち』こころの劇場	17/ 5/16～18/ 3/ 8	133/182
19都市／通算30都市	『嵐の中の子どもたち』全国公演	17/ 5/13～18/ 3/25	20/32
22都市	『嵐の中の子どもたち』日産労連チャリティ公演	17/11/10～18/12/19	22
	小計		603
	総合計		3097

平成29年 演劇賞 関係各賞受賞者

【平成29年度文化勲章】

▽芝祐靖氏(82) 雅楽奏者

【平成29年度文化功労者】

▽中村吉右衛門氏(73) 歌舞伎俳優

▽竹本駒之助氏(82) 義太夫節浄瑠璃演奏家
▽吉田都氏(51) バレリーナ

【平成29年度春の褒章】

▽紫綬褒章▽柳家さん喬氏(68) 落語家
▽沼尻竜典氏(52) 指揮者▽酒井はな氏(42) バレリーナ

▽黄綬褒章▽三國明雄氏(76) 歌舞伎床山

▽旭日中綬章▽兩宮敦子氏(86) 彫刻家

▽旭日双光章▽常磐津一寿郎氏(70) 常磐津節三味線演奏家

▽旭日小綬章▽福王茂十郎氏(73) 能楽師▽池端俊策氏(71) 脚本家▽前橋汀子氏(73) バイオリニスト▽佐藤愛子氏(93) 小説家▽高樹のぶ子氏(71) 小説家

【平成29年度秋の褒章】

▽紫綬褒章▽三谷幸喜氏(56) 脚本家▽宮川大助氏(68) 漫才師▽宮川花子氏(63) 漫才師

▽旭日小綬章▽大村崑氏(86) 俳優▽三枝成彰氏(71) 作曲家▽竹山洋氏(71) 脚本家

本家

▽黄綬褒章▽蒲雄二氏(80) 歌舞伎小道具製作技術者

【第73回日本芸術院賞・恩賜賞】

▽恩賜賞・日本芸術院賞▽渡辺保氏(評論家)演劇全般の長年にわたる評論の業績▽一柳慧氏(作曲家)幅広い作曲活動

▽芸術院賞▽大槻文蔵氏(能楽師)シテ方)優れた舞台成果、大阪能楽界の発展と後進育成▽市川左團次氏(歌舞伎俳優)「助六由縁の江戸桜」の髷の意匠

役、「仮名手本忠臣蔵」の高師直役と桃井若狭之助役の演技▽鳥羽屋里長氏(歌舞伎長唄唄方)長年にわたる歌舞伎長唄の業績

【芸術院新会員】

▽渡辺保氏(81) 演劇評論家
▽山本東次郎氏(80) 大蔵流狂言方

【平成29年度重要無形文化財保持者】

7月21日、文化審議会は重要無形文化財保持者(人間国宝)を認定するよう答申した。うち演劇関係者は次の3名。

＜能離子方小鼓＞大倉源次郎氏

＜組踊音楽太鼓＞比嘉聡氏

(人形浄瑠璃文楽人形)吉田和生氏

【平成29年度第72回文化庁芸術祭賞】

＜演劇＞
▽大賞▽こまつ座「きらめく星座」の成果▽9代目松本幸四郎氏「AMADEUS」における演技

▽優秀賞▽公益財団法人 武田太加志記念能楽振興財団「関寺小町」の成果

▽善竹隆司氏 第23回照の会「土蜘蛛替間」における成果

▽新人賞▽瀬戸康史氏「関数ドミノ」における演技

▽横山拓也氏「ハイッブリが飛ぶのを」の脚本

【舞踊】

▽大賞▽石井智子氏「石井智子スベイン舞踊団公演」の成果

▽優秀賞▽本間祥公氏「常花」の成果▽一般社団法人 貞松・浜田バレエ団 創作リサイタル29」の成果▽西川充氏「第24回西川充りさいたる」の成果

▽新人賞▽藤田善宏氏「ライトな兄妹」の成果▽奥村唯氏 地主薫バレエ団公演「トリプル・ビル」における演技

【大衆芸能】

▽優秀賞▽松尾敦子氏「まんず開いでけらっしやい」2017-1 松谷みよ子

民話の世界」の成果▽笑福亭銀瓶氏「第7回 笑福亭銀瓶 独演会inピッコロ」における「景清」の成果▽林家染雀氏「染雀暗舞台」芝居噺の世界の成果

▽新人賞▽玉川太福氏「第1回 玉川大福月例木馬亭独演会」の成果▽桂福丸氏「桂福丸独演会2017 大坂公演」の成果

【第67回芸術選奨】

▽文部科学大臣賞(演劇)金剛永謹氏(能楽師)「鞍馬天狗」▽橋爪功氏(俳優)「景清」(映画)▽庵野秀明氏(映画監督、アニメーション監督)「シン・ゴジラ」▽片淵須直氏(アニメーション監督)「この世界の片隅に」(音楽)▽小山実稚恵氏(ピアニスト)「小山実稚恵の世界」▽宮田まゆみ氏(笙奏者)「宮田まゆみ 笙リサイタル」(舞踊)▽近藤良平氏(振付家、ダンサー)「コンドルズ20周年記念」20th Century Boy

Boy(放送)▽宮藤官九郎氏(脚本家)「ゆとりですがなにか」(大衆芸能)▽桂ざこば氏(漫才師)「桂ざこば 独演会」▽鈴木雅之氏(歌手)「アルバム、do I see」(芸術振興)▽衛紀生氏(岐阜県可児市文化創造センター館長)「私のあしながおじさんプロジェクト」

◇新人賞(演劇)▽浦井健治氏(俳優)
「ヘンリー四世」(映画)▽深田晃司氏
(映画監督)「淵に立つ」(音楽)▽山田和
樹氏(指揮者)「山田和樹 マーラー・
ツィクルス」(舞踊)▽米沢唯氏(バレエ
ダンサー)「ロメオとジュリエット」(大
衆芸能)▽ナイツ土屋伸之、埴宜之氏
(漫才師)「ナイツ独演会」

【平成29年度文化庁長官表彰】

▽安里ヒロ子氏(琉球箏曲演奏家)▽清
元延秀佳氏(清元節演奏家)▽豊澤千賀
龍氏(義太夫節演奏家)▽谷田嘉子氏
(琉球舞踊家)▽三代目藤蔭静樹氏(藤
蔭流・藤蔭会)▽新橋耐子氏(文学
座正座員)▽高池克明氏(歌舞伎衣裳着
付技術者)▽竹柴正二氏(歌舞伎狂言作
者)▽三川淳雄氏(能楽師)▽愛宕山人
氏(日本琵琶楽協会会長)▽二代目山岡
哲山氏(一般財団法人全日本吟詠剣詩
舞道連合会副会長)

【第59回毎日芸術賞】

▽山路和弘氏(俳優)

【特別賞】

▽熊川哲也氏(バレエダンサー・芸術
監督)

◇第20回千田是也賞

▽野村萬齋氏(狂言師)

【第68回読売文学賞】

◇戯曲・シナリオ賞▽ケラリノ・サ
ンドロウィッチ氏(「キネマと恋人」)漲

る強度と輝き)

【第25回読売演劇大賞】

◇大賞・最優秀女優賞▽宮沢りえ氏
(NODA・MAP)足跡姫 時代錯誤
冬幽霊、ヴィレッツチ「クヒオ大佐の
妻」、シスカンパニー「ワーニヤ伯父さ
ん」の演技

◇最優秀作品賞▽「午午線の祀り」(世
田谷パブリックシアター)

◇最優秀男優賞▽橋爪功氏(謎の変奏
曲)の演技

◇最優秀演出家賞▽永井愛氏(「ザ・空
氣」の演出)

◇最優秀スタッフ賞▽土岐研一氏(天
の敵)、「散歩する侵略者」の美術)

◇杉村春子賞▽シライケイタ氏(実
録・連合赤軍 あさま山荘への道
程)、「袴垂れはどこだ」の演出)

◇芸術栄誉賞▽仲達達矢氏

◇選考委員特別賞▽「ピリー・エリ
オット」リトル・ダンサー」

【第68回NHK放送文化賞】

▽加古隆氏(作曲家)▽タモリ氏(タレ
ント)▽三田佳子氏(俳優)

【平成29年度第46回大谷次郎賞】

▽該当作品なし

【第42回菊田一夫演劇賞】

◇大賞▽麻実れい(「8月の家族たち
August..Osage County」

のバイオレット、「炎 アンサンデー」
のナワルの役の演技に対して)

◇演劇賞▽中川晃教氏(「ジャージー・
ボーイズ」のフランキー・ヴァリの役
の演技に対して)▽小池徹平氏(「17
89」パスティーユの恋人たち)の
ロナン、「キンキーブーツ」のチャリ
ー・ブライスの役の演技に対して)▽
新橋耐子氏(「食いしん坊万歳」)正岡
子規青春狂詩曲」の八重役の演技に
対して)▽藤田俊太郎氏(「ジャ
ージー・ボーイズ」)「手紙2017」の演
出の成果に対して)

◇特別賞▽勝柴次朗氏(永年の舞台照
明デザインにおける功績に対して)

【第52回紀伊國屋演劇賞】

◇団体賞▽劇団「イキウメ」(天の敵
「散歩する侵略者」の優れた舞台成果
)◇個人賞▽大竹しのぶ氏(「フェード
ル」)欲望という名の電車」の演技
▽温水洋一氏(「管理人」)の演技
▽佐川和正氏(「食いしん坊万歳」)正岡
子規青春狂詩曲「屠殺人ブッチャー」
の演技

▽森尾舞氏(「屠殺人ブッチャー」)「ペル
リンの東」の演技

▽乗峯雅寛氏(「プレイヤール」)「冒した
者」の美術)

◇田辺茂一賞▽川辺久造氏(長年にわ
たる演劇活動の成果に対して)

【第62回岸田國士戯曲賞】

▽神里雄大氏(「バルライソ」の長い坂
をくだる話」
▽福原充則氏(「あたらしいエクスプ
ロージョン」

【第23回ニッセイバックステージ賞】

▽田村恵氏(舞台音響効果)
▽望月廣幸氏(パイプオルガンの設
置・調律・保守)

【第21回鶴屋南北戯曲賞】

▽岩松了氏(薄い桃色のかたまり」

【第39回松尾芸能賞】

◇大賞▽坂東玉三郎氏(演劇)
◇優秀賞▽猿若清方氏(舞踊)
◇優秀賞▽藤田六郎兵衛氏(能楽)
◇優秀賞▽森昌子氏(歌謡)

◇新人賞▽嘉数道彦氏(舞踊)
◇新人賞▽尾上右近氏(演劇)
◇特別賞▽高田次郎氏(演劇)
◇功労賞▽坂入清子氏(舞台技術)

【第34回浅草芸能大賞】

◇大賞▽石坂浩二氏(俳優)
◇奨励賞▽市川中車氏(歌舞伎俳優)
◇新人賞▽ホンキートンク(漫才コンビ)

【第65回菊池寛賞】

◇岸恵子氏(国内外の映画界で活躍。
市川崑ら多くの名監督と日本映画の一
時代を築き上げた。エッセイ、ルポル

タージュ、小説と、作家としても注目を集め、表現者として存在感を示し続けている。

【平成28年度第36回日本照明家協会賞】
〔舞台部門〕

◇**文部科学大臣賞・大賞**▽吉本有禪子氏(フリーランス) 維新派「アマハラ」

◇**スタッフ賞**

▽岩元さやか氏(フリーランス)、吉田一弥氏・吉津果美氏(GEKKENStaffroom)、手塚匠氏・飯塚浩之氏(㈱ビーエーシーウエスト)

◇**審査委員特別優秀賞**▽清水淳氏(ライティングビッグワン)㈱「KIKKAWA KOKJI Live2016 WILD LIPS」 TOUR FIN

◇**優秀賞**▽日下靖順氏(㈱ASG)「JERSEY BOYS」シアタークリエ▽山本高久氏(㈱オー)NBAバレエ団公演「くるみ割り人形」所沢市民文化センター ミューズマーキーホール

▽河野福彦氏(㈱エスエルアイ)「舞響踊る」○太鼓「キャナルシティ劇場」

◇**新人賞**▽山由梨氏(㈱ほりぞんとあーと)札幌シティパレエ 2016 Anniversary公演「ラ・フィューユ・マル・ガルテ」わくわくホリデーホール(札幌市民ホール)▽関宮庸介氏(㈱彩創屋)SCSミュージカル研究所公演 オリジナルミュージカ

ル「プリアンの秘密 仙台電力ホール」▽辻谷佳弘氏(㈱トウオーテイクデザイン)星野源 LIVE TOUR 2016「YELLOW VOYAGER」日本武道館▽須賀智己氏(㈱GLORY CREATION)「ペーロスの母に会いに行く」中日劇場他▽久松夕香氏(㈱大阪共立)劇団solidated第10回公演「シンデレラストーリー」Art Theater Kobe

◇**奨励賞**▽森島都絵氏(㈱インブレッション)黒田育世レバトリードダンス公演「ラストパイ」愛知県芸術劇場小ホール▽塚本巖氏(フリーランス)塚本洋子テアトル・ド・パレエカンパニー公演「春の祭典」真夏の夜の夢「愛知県芸術劇場大ホール」▽松村忠氏(㈱東京舞台照明大阪)「ドラゴンクエストライブスペクタクルツアー」さいたまスーパーアリーナ他4ヶ所 ▽塩見勘太郎氏(㈱エスエルアイ) HKT48 5th Anniversary「39時間ぶつ通し祭り!みんなサンキューったい!」西鉄ホール

◇**努力賞**▽田中弘子氏(公財)新国立劇場運営財団「新国立劇場演劇研修所第9期生修了公演」囁みついた娘「新国立劇場小劇場」▽横山和宏氏(フレックス テック デザイン)「吉田拓郎 LIVE 2016」東京国際フォーラムホールA▽迫上真弓氏(㈱カラメリ) いひむろなおきマイムカンパニー「doubt」タワー」AI・HALI伊丹市立演劇ホール

◇**功労賞**▽阿部千賀子氏(有)第一ステージサービス(人形劇団アーク公演)「アーク人形劇場誕生45周年記念公演 古典落語より「死神」アーク人形劇場」金子修樹氏(㈱スペース・ラボ)第14回寛穂乃会「鬼子母續乱」国立劇場小劇場

「ドクターY 外科医 加地秀樹」▽大野
通平氏(株)フジテレビジョン)フジテレ
ビ2016 FNS 歌謡祭 第2夜)▽
松尾郁栄氏(日本放送協会)NHK総合
テレビ「SONGS THE YELLOW
MONKEY」

◇特別技術賞▽水野暁夫氏(株)テレビ
東京 テレビ東京・BSジャパン 新
本社スタジオ照明設備

◇技術賞▽北村匡浩氏(日本放送協会)
停電時照明バックアップ装置の開発▽
宮田和氏(株)テレビ東京アート)ai e
dim(相制御LEDコンパクトス
ポットライト)▽木村伸氏(株)フジ・メ
デア・テクノロジ)マルチ黒フラッ
グ

【第44回伊藤薫賞】

(日本舞台美術家協会)
◇伊藤薫明賞▽鈴木俊朗氏(静岡県民
オペラ「イリス」の装置)
◇新人賞▽秋山光洋氏(核散ラズ…
の装置など)
◇奨励賞▽松生絃子氏(ミュージカル
「Dance with Devils」の
装置)

【第44回伊藤薫明賞】

(テレビ日本美術家協会)
◇伊藤薫明賞▽山口類児氏・松本利奈
氏 日本放送協会 (株)NHKアート
神林篤・岸聡光 フリー 小島規子
大河フアンタジー「精霊の守り人2」

悲しき破壊神)
◇協会賞▽船山和歌子氏(TBSテレ
ビ火曜ドラマ「逃げるは恥だが役に立
つ」)

◇新人賞▽宇野宏美氏(株)アックス)
◇特別賞▽山田満郎氏

【第33回日本舞台芸術家組合賞】

▽石坂慎二氏(日本児童青少年演劇協
会事務局 局長 アシテジ日本センター事
務局長)
▽熊倉正博氏(人形劇場花かご代表)
▽鈴木邦夫氏(劇団よこはま彦座・音
響効果)
▽山根宏章氏(人形劇団ポポロ代表・
人形遣い)

【第25回橋田賞】

◇橋田賞II▽土曜ドラマ「夏目漱石の
妻」(NHK)▽「ふつうが一番」作家・
藤沢周平氏の一言」(TBS)▽「人生
フルーツ」東海テレビ)▽「NHKこど
も幼児番組」(NHK)▽船越英一郎氏
(俳優)▽新垣結衣氏(俳優)
◇新人賞▽高畑充希氏(俳優)「とと姉
ちゃん」(NHK)での演技に対して)
◇特別賞▽中村吉右衛門氏(俳優)
◇特別賞▽吉永春子氏(故人・ドキュ
メンタリスト)

【第35回向田邦子賞】

▽矢島弘一氏(「毒島ゆり子のせきらら
日記」)

【第41回全児演賞】

◇正賞▽高平和子氏(人形劇団クラ
ル)
◇奨励賞▽小原美紗氏(人形劇団ブ
ク)

【日本児童青少年演劇協会賞】

▽半谷邦雄氏(人形劇団ひとみ座)

【第27回O夫人児童青少年演劇賞】

▽吉田明子氏(人形劇団むすび座)

【第55回演劇教育賞】

▽藤田尚子氏(東京・和光幼稚園・教
員)「五歳児の劇づくり」
▽谷村昌昭氏(東京・多摩少年院・法
務教官)「多摩少年院での演劇活動」

【第73回読売映画・演劇広告賞】

◇最優秀賞 「東海道四谷怪談」劇団前
進座五月 国立劇場公演
◇優秀賞 「コロッケ特別公演」株式会
社明治座

【両部門共通企画賞】

「ONE PIE
CE FILM GOLD」パノラ
マ新聞 東映株式会社

【第5回市川森一脚本賞】

▽黒岩勉氏(「僕のヤバイ妻」フジテレ
ビ系列)

【第9回伊丹十三賞】

▽星野源氏(音楽、エッセイ、演技の
ジャンルを横断し、どこか息の詰まる
時代に、エンタテイナーとして驚くよ
うな風采をあげてしまった星野的表現
世界に)

【第37回伝統文化ポニーラ賞】

◇優秀賞▽竹本葵太夫氏(歌舞伎竹本
の伝承)

【地域賞】

▽千葉之家花駒座(檜枝岐歌
舞伎の保存・伝承)(福島)▽鶴見田祭
り保存会(鶴見の田祭りの保存・伝承)
(神奈川県)▽NPO法人奈良芸能文化協
会(奈良の伝統芸能の調査・研究)(奈
良)

【第21回日本伝統文化振興財団賞】

▽菊史雄司氏(地歌筆曲)

【第6回中島勝祐創作賞】

▽常磐津東蔵氏(宝船売り)

【第29回高松宮殿下記念世界文化賞】

▽ミハイル・パリシニコフ氏(ロシア
のバレエダンサー、振付家、俳優)

【第22回AICT演劇評論賞】

▽山本健一氏(劇作家 秋元松代)荒
地にひとり火を燃やす」

【第10回小田島雄志・翻訳戯曲賞】

▽水谷八也氏(怒りをこめてふり返れ」
の翻訳)▽小山ゆうな氏(「チック」の翻訳)

【若手演出家コンクール2016】

◇最優秀賞▽観客賞▽h i c o p r o・永野拓也氏(ツクリバナシミュージカル)

【第48回舞踊批評家協会賞】

▽石井智子スベイン舞踊団▽小林嵯峨氏▽藤岡洋子氏▽牧阿佐美バレエ団
◇新人賞▽木村優里氏▽花柳秀衛氏▽舞踏派 Z E R O

【第65回舞踊芸術賞】

◇藤陰静枝氏(邦舞)
◇大原永子氏(洋舞)

【第23回劇作家協会新人戯曲賞】

▽出口明・太田雄史氏「うかうかと終焉」

【第24回OMS戯曲賞】

◇大賞▽山崎彬氏「メロメロたち」(悪い芝居)
◇佳作▽植松厚太郎氏「午前3時59分」(立ツ鳥会議)

【第45回日本新劇製作者協会賞】

◇鈴木瑞穂氏(劇団銅鑼)

【日本の戯曲賞2017】

◇最優秀賞▽該当作なし
【第47回JXTG音楽賞】

▽豊竹呂太夫氏(文楽太夫)

【第8回谷谷時子賞】

▽加山雄三氏(歌手・俳優)
奨励賞▽瀧山久志氏(俳優)▽野田あすか氏(ピアノリスト)▽生田絵梨花氏(歌手・女優)
特別賞▽斉藤由貴氏(俳優)

Foundation for Youth

▽服部百音氏(ウイオリニスト)

【第26回モンブラン国際文化賞】

▽小林武史氏(音楽プロデューサー)

【第5回ハヤカワ悲劇喜劇賞】

▽「荒れ野」(穂の国とよはし芸術劇場 PLAT、アル☆カンパニー企画制作、桑原裕子作・演出)

【第28回アトロ口新人戯曲賞】

▽中村暢明氏「ぎくろのような」
作品賞▽「No.9―不滅の旋律―」(ストレート部門)

【勝手に演劇大賞2017】

作品賞▽「いやおうなしに」(ミュージカル部門)
男優賞▽城田優氏(ミュージカル)「エリザベート」
女優賞▽大島優子氏(No.9―不滅の旋律―)

演出家賞▽白井晃氏(No.9―不滅の旋律―)

【第36回国立劇場文楽賞】

◇大賞▽竹本千歳太夫氏
◇優秀賞▽鶴澤藤蔵氏 吉田勘彌氏
◇奨励賞▽吉田養紫郎氏 鶴澤寛太郎氏
特別賞▽吉田文雀氏

【文楽協会賞】

◇大夫の部▽豊竹靖太夫氏
◇三味線の部▽鶴澤清丈氏
◇人形の部▽吉田養太郎氏

【第39回親世寿夫記念法政大学能楽賞】

▽小田幸子氏(能・狂言研究家)▽片山九郎右衛門氏(シテ方親世流)

【第27回催花賞】

▽柳沢新治氏(能楽ジャーナリスト)

【第72回毎日映画コンクール】

◇日本映画大賞▽「花筐」/HANAGATAMI
◇日本映画優秀賞▽「あゝ、荒野」
◇外国映画ベストワン賞▽「わたしは、ダンエル・ブレイク」
◇監督賞▽富田克也氏(バンコクナイッ)

◇脚本賞▽石井裕也氏(映画「夜空はいつでも最高密度の青色だ」)

◇撮影賞▽鎌苅洋一氏(映画「夜空はいつでも最高密度の青色だ」)

◇美術賞▽竹内公一氏「花筐」/HANAGATAMI

◇音楽賞▽S o i 48(宇津木景一、高木)

紳介)

◇録音賞▽加藤大和、高須賀健吾氏
「映画「夜空はいつでも最高密度の青色だ」
◇男優主演賞▽菅田将暉氏(「あゝ、荒野」)
◇女優主演賞▽長澤まさみ氏(「散歩する侵略者」)

◇男優助演賞▽役所広司氏(「三度目の殺人」)

◇女優助演賞▽田中麗奈氏(幼な子われらに生まれ)

◇スポニチグランプリ新人賞▽高杉真宙氏(「散歩する侵略者」)▽伊東蒼氏(「烏々清しや」)

◇田中絹代賞▽水野久美氏

◇ドキュメンタリー映画賞▽「三里塚のイカロス」

◇アニメーション映画賞▽「こんぶれつくす×コンプレックス」

◇大藤信郎賞▽「夜明け告げるルーのうた」

◇特別賞▽佐藤忠男氏

【第30回東京国際映画祭】

◇観客賞▽犬丸明子氏(勝手にふるえてろ)(映画監督)
◇作品賞▽藤元明緒氏「僕の帰る場所」(映画監督)

◇国際交流基金アジアセンター特別賞▽藤元明緒氏「僕の帰る場所」(映画監督)

日本映画スプラッシュ

◇作品賞▽戸田ひかる氏「Of Love and Law」(映画監督)

◇サムライ賞▽坂本龍一氏(音楽家)

【第42回報知映画賞】
◇作品賞・邦画「あゝ、荒野」(岸善幸監督)

◇作品賞・海外「美女と野獣」(ビル・コンドン監督)

◇作品賞・アニメ「SING/シング」(ガース・ジェニングス監督)

◇監督賞▽三島有紀子氏「幼な子われらに生まれ」

◇主演男優賞▽菅田将暉氏「キセキ―あの日のソビト―」(帝一の國)「あゝ、荒野」

◇主演女優賞▽蒼井優氏「彼女がその名を知らない鳥たち」

◇助演男優賞▽役所広司氏「関ヶ原」

◇助演女優賞▽田中麗奈氏「幼な子われらに生まれ」の演技に対して

◇新人賞▽北村匠海氏「君の膝臓をたべたい」の演技に対して

◇特別賞▽アウトレイジ」3部作(北野武監督)

◇特別賞▽Ryuichi Sakamoto:CODA」(ステイプン・ノムラ・シブル監督)

【第60回ブルーリボン賞】

◇作品賞▽「あゝ、荒野」(岸善幸監督)

◇監督賞▽白石和彌監督「彼女がその名を知らない鳥たち」

◇主演男優賞▽阿部サダヲ氏「彼女がその名を知らない鳥たち」

◇主演女優賞▽新垣結衣氏「ミックス」

◇助演男優賞▽ユースケ・サンタマリア氏「あゝ、荒野」(泥棒役者)

◇助演女優賞▽斉藤由貴氏「三度目の殺人」

◇新人賞▽石橋静河氏「映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ」

◇外国作品賞「ドリム」

【第41回日本アカデミー賞】

◇最優秀主演女優賞▽蒼井優氏「彼女がその名を知らない鳥たち」

◇最優秀主演男優賞▽菅田将暉氏「あゝ、荒野」(前編)

◇最優秀助演女優賞▽広瀬すず氏「三度目の殺人」

◇最優秀助演男優賞▽役所広司氏「三度目の殺人」

◇最優秀監督賞▽是枝裕和氏「三度目の殺人」

◇最優秀脚本賞▽是枝裕和氏「三度目の殺人」

◇最優秀撮影賞▽柴主高秀氏「関ヶ原」

◇最優秀照明賞▽宮西孝明氏「関ヶ原」

◇最優秀録音賞▽矢野正人氏「関ヶ原」

◇最優秀音楽賞▽鈴木慶一氏「アウトレイジ」最終章

◇最優秀編集賞▽是枝裕和氏「三度目の殺人」

◇最優秀美術賞▽倉田智子氏「花戦さ」

◇最優秀作品賞▽「三度目の殺人」

◇最優秀アニメーション作品賞▽「夜は短し歩けよ乙女」

◇最優秀外国作品賞▽「ラ・ラ・ランド」

◇新人俳優賞▽中条あやみ氏「チア☆ダン」女子高生がチアダンスで全米制覇しちゃったホントの話」▽浜辺美波氏「君の膝臓をたべたい」▽北村匠海氏「君の膝臓をたべたい」▽竹内涼真氏「帝一の國」

【第26回日本映画批評家大賞】

◇主演男優賞▽小林薫氏「続・深夜食堂」

◇主演女優賞▽宮沢りえ氏「湯を沸かすほどの熱い愛」

◇助演男優賞▽東出昌大氏「聖の青春」

◇助演女優賞▽杉咲花氏「湯を沸かすほどの熱い愛」

◇新人女優賞▽高畑充希氏「植物図鑑」

◇新人男優賞▽岩田剛典氏「植物図鑑」

◇Gグロリー賞▽奈良岡朋子氏

◇Gグロリー賞▽小松政夫氏

◇ダイヤモンド大賞▽樹木希林氏

◇監督賞▽中野量太氏「湯を沸かすほどの熱い愛」

◇編集賞▽穂垣順之助氏「ちはやふる」

◇ドキュメンタリー賞▽日比遊一氏「健さん」

◇映画音楽賞▽加古隆氏「エヴェレスト 神々の山嶺」

◇脚本賞▽西川美和氏「永い言い訳」

◇撮影賞▽北信康氏「エヴェレスト 神々の山嶺」

◇特別賞▽佐藤忠男氏

◇特別賞▽岩波ホール

◇アニメーション声優賞▽野沢雅子氏「風のように」

◇アニメーション監督賞▽新海誠氏「君の名は」

◇アニメーション作品賞▽「聲の形」

◇アニメーションダイヤモンド大賞▽松本零士氏

【第57回日本映画監督協会新人賞】

▽小路紘史氏「ケンとカズ」

【東京ドラマアウォード2017】

◇連続ドラマ部門グランプリ「逃げるは恥だが役に立つ」(TBS)

◇単発ドラマ部門グランプリ「破獄」(テレビ東京)

◇主演男優賞▽堺雅人氏「真田丸」(NHK)

◇主演女優賞▽新垣結衣氏「逃げるは恥だが役に立つ」(TBS)

◇特別賞「精霊の守り人II 悲しき破壊神」(NHK)▽「コールドケース」真実の扉」(WOWOW)

催

【オフィシエ(仏の芸術文化勲章)】

▽勅使河原三郎氏(ダンサー・振付家)

【シユバリエ(仏の芸術文化勲章)】

▽河瀬直美氏(映画監督)

【第35回川喜多賞】

▽山田宏一氏(映画評論家)

【第11回アジア・フィルム・アワード(AFA)】

◇最優秀主演男優賞▽浅野忠信氏(淵に立つ)

◇最優秀視覚効果賞▽大屋哲男氏(シン・ゴジラ)

【第41回モントリオール世界映画祭】

◇審査員特別賞「幼な子われらに生まれ」(三島有紀子監督)

【第20回上海国際映画祭】

▽アジア新人賞部門

◇最優秀監督賞▽斎藤工氏「blan k13」

【第10回したまちコメディ映画祭】

◇グランプリ▽「Windows Updateは突然に」(大北栄人監督)

◇コメディ栄誉賞▽小松政夫氏(タレント)

【第36回藤本賞】(映画演劇文化協会主

催)▽新海誠・川口典孝・古澤佳寛・川村元氣氏「君の名は。」の製作

◇特別賞▽山内章弘・佐藤善宏氏「シン・ゴジラ」の製作

◇奨励賞▽丸山正雄・真木太郎氏「この世界の片隅に」の製作

【第35回川喜多賞】

▽山田宏一氏(映画評論家)

【第32回下町人間庶民文化賞】

▽池辺晋一郎氏(音楽家)

▽恩田鳳昇氏(舞踊家)

【第36回京都府文化賞】

◇特別功労賞▽井上かづ子氏(日本舞踊家)

◇功労賞▽桂塩鯛氏(落語家)▽中村玉緒氏(俳優)▽西尾智子氏(芸術文化プロデューサー)▽野田弥生氏(筆曲家)

◇奨励賞▽杉原邦生氏(演出家・舞台美術家)▽豊嶋晃嗣氏(能楽師)

【第66回神奈川文化賞】

▽樹木希林氏(俳優)

【第33回芸術創造賞】(名古屋市文化振興事業団)

▽「人形劇団むすび座」

【平成29年度名古屋芸術賞】

▽山村菜乃氏(伝統芸能・日本舞踊)

【関西元氣文化圏賞ニューパワー賞】

▽竹本織太夫氏(竹本映甫太夫改め)

(人形浄瑠璃文楽座太夫)

【第52回大阪市市民表彰】

▽片岡富十郎氏(歌舞伎俳優)▽京山小圓嬢氏(浪曲師)▽鳥江三也氏(芸能プロデューサー)▽藤間良太郎氏(日本舞踊家)▽湯浅雅子氏(演劇文化の振興と発展)

【平成29年度咲くよこの花賞】

▽晴の会(歌舞伎)

【平成29年度小田原市民功労賞】

▽杉本博司氏(現代美術作家)

【高円宮殿下記念地域伝統芸能賞】

▽浜田石見神楽社中連絡協議会(鳥根県浜田市)

【地域伝統芸能大賞保存継承賞】

▽石井芸能保存会(福島県二本松市)

【地域伝統芸能大賞活用賞】

▽仙台・青葉まつり協賛会(宮城県仙台市)

【地域伝統芸能大賞支援賞】

▽伊藤よし(山形県飯豊町)

【地域伝統芸能大賞地域振興賞】

▽安来節保存会(鳥根県安来市)

【地域伝統芸能奨励賞】

▽葦永校区青年団(鹿児島県南種子町)

平成二十九年劇壇時事(一月〜十二月)

一月

・初春歌舞伎は歌舞伎座、国立劇場、新橋演舞場、浅草公会堂の四座と大阪松竹座、の東西五劇場で競演が繰り広げられた。

歌舞伎座は吉右衛門が「沼津」で呉服屋十兵衛を庄巻の演技。玉三郎は、「井伊大老」で側室のお静の方を42年ぶりに演じた。2018年1月に「十代目松本幸四郎」となる染五郎が「松浦の太鼓」の松浦侯など昼夜4演目に出演し、染五郎としての最終年に向け意欲を見せた。

国立劇場は、幕末から明治初期にかけて流行した長編小説を題材にした、「しらぬい譚」を上演した。菊之助が客席の上空を斜めに飛ぶ筋交いの宙乗りや化け猫退治の立廻りなどで大活躍。新橋演舞場は右近が、三代目右團次を襲名し、長男タケルが二代目右近を名乗って、初舞台を踏んだ。

浅草公会堂恒例の「新春浅草歌舞伎」は松也を座頭とする世代に移って3年目。多彩な魅力を発揮した松也。「吃又」で巳之助が熱演。

大阪松竹座は八代目中村芝翫らの襲名披露。大阪松竹座新築開場二十周年記

念 壽初春大歌舞伎。

・東京日本橋の三越劇場は初春新派公演「華岡青洲の妻」を上演。市川春猿改め河合雪之丞が青洲(喜多村緑郎)に献身的につくす妻加恵を演じた。23日

・5日、狂言方泉流の野村萬斎の長男裕基(17)が、格式高い能の儀礼曲「翁」に出演し、修業の大きな節目でつとめる大役「三番叟」を披いた。東京・国立能楽堂

・東京バレエ団はベルギーの首都ブリュッセルで、モリス・ベジャールが振付をしたベートーベン「第九交響曲」を上演した。6〜8日、フォレスト・ナショナル

・7日、狂言方泉流の野村万蔵の長男虎之介(20)が、六世野村万之丞を襲名し、「翁」の三番叟」を披いた。東京・国立能楽堂

・日本演出者協会主催による「演劇大学 in 大阪」は表現の自由と私たちの演劇」をテーマに現代思想・教育・民主主義の観点から様々な分野で活躍する有識者を招き、関西を拠点に活動する演劇人・表現者との対話の場を設けた。会場…ドーンセンター 7日吉田美彦(日本学校演劇教育会関西支部

事務局長) 19日西谷文彦(フリージャーナリスト) 2月19日永井愛(劇作家・演出家 二兎社主宰)

・日本演出者協会主催の「演劇大学 in くだまつ」が山口県下松市のスタジアムくだまつ(下松市文化会館)を会場にして開催された。7〜9日

・前進座は創立八十五周年・京都初春公演四十周年記念 前進座初春特別公演「雪月花源氏旗本」―牛若丸―人情噺「文七元結」を先斗町歌舞練場で上演した。9〜24日

・楳図かずおのSF漫画「わたしは真悟」が、連載から30年を経てミュージカルになった。演出・振付はフランスの鬼才フィリップ・ドゥクフレ。谷賢一脚本、白井晃演出協力。8〜26日、東京・初台の国立劇場。横浜、浜松、富山、京都でも上演。

・東京・渋谷の劇場「シアターコクーン」で11日から上演予定だった舞台「世界」の11〜13日の計3公演が中止となった。出演者の女優、鈴木砂羽がインフルエンザを発症したため。初日は14日となり、28日まで上演。

・13日、女優・市原悦子(80)が自己免疫性骨髄炎と診断され、入院治療に専念するため当面休養すると所属事務所

を通じて発表した。

・13日夜に投稿サイト「YouTube」で公開した国立劇場制作の長唄版「ピコ太郎」風ダンス動画が、16日までに100万視聴を突破した。同劇場で上演中の歌舞伎「しらぬい譚」でもピコ太郎風のキャラクターが登場した。

・江戸系あやつり人形「結城座」の「ドルズタウン」(鄭義信作・演出)が10年ぶりに再演された。15〜22日、東京・下北沢のザ・スズナリ

・NODA・MAPが「足跡姫・時代錯誤冬幽霊」(野田秀樹作・演出)を上演した。中村勘三郎へのオマージュ。宮沢りえ、妻夫木聡、古田新太らが出演。18〜3月12日、東京芸術劇場プレイハウス

・20日、東京高裁は、花柳流の四代目家元から除名処分を受けた青山貴彦が地位保全を求めた仮処分の申し立てに対し、会員だと認めた決定をした。

・パリを拠点に、世界を舞台に活躍する俳優で演出家の笈田ヨシが、日本で初めてオペラを演出した。「蝶々夫人」全国4劇場による共同制作。22日、金沢劇座 26日、大阪・フェスティバルホール 2月4日、群馬音楽センター 18、19日、東京芸術劇場

・24日、松竹は「菊翁祭五月大歌舞伎」(3〜27日)で坂東彦三郎が初代坂東楽善を襲名、彦三郎の長男亀三郎が九代目彦三郎を、次男亀寿が三代目亀蔵を襲名。亀三郎の長男侑汰(4)が六代目亀三郎を名乗り初舞台を踏むと発表された。

・25日、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、能楽界が丸で取り組む「能楽フェスティバル2017-2020」が開かれた。特別公演(第一部)、シンポジウム(第二部)東京・国立能楽堂

・「体が続かない」と脚本家で創作集団「富良野GROU P」を主宰する倉本聰。ラスト公演として「走る」倉本聰作・共同演出 中村龍史 倉田信雄音楽を全国17会場で上演した。倉本は「全国からの応募者より厳選した役者、アスリート40名を一年近いワークショップとトレーニングで鍛え、漸く仕上げた汗と感動のドラマである。この芝居が皆様の心に、夢と涙と明日へのエネルギーを喚起してくれば、うれしい」と話した。25日、北海道・札幌市教育文化会館大ホール、福島三重、東京、静岡、岡山、京都、愛知、大阪、滋賀、鳥取、広島を巡演後、3月6日、北海道・富良野演劇工場

・JR川崎駅西口の多目的ホール「ラゾーナ川崎プラザソル」の開館10周年を記念した舞台「ハムレット」(西沢栄治演出)が上演された。新国立劇場演

劇研修所修了生を中心に若手俳優14人が出演した。25〜2月1日

・25日、川崎市川崎区内の小学6年生約1700人が参加する「狂言鑑賞教室」が開かれた。舞台鑑賞に続いて大藏流の狂言師、善竹大二郎らから構えや発声の指導を受けた。川崎教育文化会館

・演劇集団「すずしろ」が折口信夫作「死者の書(等井賢)」演出を能の手法も使って舞台化。観世鏡之丞が大津皇子と阿弥陀ほとけて特別出演した。26、27日、東京・表参道の鉄仙会能楽研修所

・日本演出者協会主催の「日本の近代戯曲研修セミナーin東海2016」(歌古屋市北文化小劇場を会場にして開かれ、朗読劇が上演された。岡本綺堂作「番町皿屋敷」(演出：神谷尚吾)丸知亜矢、真山青果作「頼朝の死」(演出：岡田一彦)かこまさつぐ)。27、28日

・2017年が夏目漱石と正岡子規の生誕150年となるのを記念した新作ミュージカル「52ファイブティーツー」(デイズ)と「愚陀佛庵(ぐだぶつあんでん、二人の文豪)」が、松山市の愚陀佛庵で過ごした52日間を描いた。宝塚歌劇団の演出家、石田昌也が脚本・演出を初めて担当。上演は28日から1

年間の予定。
・復活から22回目となる「盛岡文士劇」

が、盛岡文化のPRや、東日本大震災への復興支援への感謝を込めて東京で上演された。井沢元彦、内館牧子、金田一秀穂、ロバート・キャンベル、平野啓一郎、久美沙織、袖月裕子、高橋克彦(声の出演)他が出演。28、29日、東京・紀伊國屋ホール

・29日、福祉作業所のパン店・カフェで働く障害者と地域の住民らが一緒に創り上げるミュージカル「ゼロ弾きのゴースト」が上演された。4歳から67歳までの老若男女が入り交じり、型にとられない自由な演技で、障害者と共に生きる社会の豊かさを伝えた。横浜市緑区の区民センター「みどりアートパーク」

・30日、国立文楽劇場などは、2018年1月に同劇場、2月に東京・国立劇場小劇場で、「八代目竹本綱太夫の五十回忌追善公演」を開くと発表した。同時に豊竹咲甫太夫が綱太夫の名である竹本織太夫を六代目として襲名する。追善と襲名披露の演目として綱太夫の息子の咲太夫と弟子の咲甫太夫が「摂州合邦辻」を語る。

二月
・第27回下北沢演劇祭は「下北沢の演劇シーンに新たな波をおこす団体を発掘する／育てる」劇場公演のあり方を再発見する」を命題にして開かれた。応募多数の中からA M D「孤高の動物」

蔵下右京×洲上夏帆二人芝居「月光町月光丁目三日月番地」 ゆうめい「弟兄」が選ばれ上演した。1〜5日、東京・下北沢の小劇場楽園

・演劇企画「heart more n e d」の旗揚げ公演「GO ON」(中村暢明脚本・演出)が上演された。1〜5日、東京・新宿のSPACE梟門

・「猿若祭二月大歌舞伎」で中村勘九郎の長男七緒八(5歳)が「勘太夫」を次男若(3歳)は「長三郎」をそれぞれ名乗り祝いの演目「門出三人桃太郎」で父子共演した。2〜26日、東京・歌舞伎座

・創立75周年を迎える劇団文化座の記念公演「命どう宝」(杉浦久幸作 鶴山仁演出)が上演された。米軍占領下での沖繩の農民たちの土地闘争を描いた新作。2〜12日、東京・池袋の東京芸術劇場シアターウエスト

・劇団民藝が新作舞台「野の花もがたり」(ふたくちつよし作、中島裕一郎演出)を上演した。エッセイストで、鳥取市でホスピス診療所を開く医師の徳永進をモデルに、終末期の患者との交流を描いた。杉本次が、モデルの徳久医師を演じた。4〜14日、東京・新宿のサザンシアター TAKASHI M A Y A

・4日、横浜能楽堂のシリーズ公演「能の五番 朝薫の五番」に琉球舞踊の「ホープ」とされる新垣悟が登場し、沖繩の伝統芸能「組踊」の名作「孝行の巻」

で人間国宝の宮城能鳳と共に主要な役「おめなり」を演じた。能では、人間国宝の梅若女祥が「生贄」を30年ぶりに演じた。

・日本演出者協会主催の日本の近代戯曲研修セミナーin大阪が劇団未来ワークスタジオで開かれた。4日、「火あぶり」谷底（鈴木泉三郎作、増田雄演）5日、「出家とその弟子」倉田百三作、島原夏海演出）両日とも終演後シンポジウム。

・5日、東日本大震災で岩手県大槌町の町民劇団員であった父を亡くした女性、横浜千尋が脚本「民宿へ行く！」の筆を執り、公募の町民らと出演した。大槌町城山公園体育館

・宝塚歌劇団は2016年全公演の観客動員数で新記録を達成した。2014年の100周年から3年連続で全公演の観客動員数が270万人を超えた。17年度は、全国の映画館で公演を生中継するライブビューイングをさらに充実させる。5日、同歌劇団小川友次理事が発表。

・90歳の石井ふく子が、1968年に父の伊志井寛を相手に初演出した同じ原作を再演出した。4月に創立90周年を迎える東京・日本橋の三越劇場の舞台「君はどこにいるの」(小島政二郎原作、砂田量爾脚本)。妻に先立たれた作家(西郷輝彦)と一人娘みこ(一路真輝)の心の交流を描いた舞台。父の恋人牙(竹下景子)。11、20日。大阪、

岡山、山口、熊本、福岡、愛知、静岡、福島でも上演。

・12日、歌人の馬場あき子の新作能「利休―江之浦」が静岡県熱海市のMOA美術館のリニューアルを記念して上演された。現代美術作家の杉本博司が着想し、企画・監修した。出演は浅見真州(老人)、利休の霊・演出も、観世鏡之丞(利休の弟子の細川忠興)ら。

・東海大学付属高輪台高校吹奏楽部には「日本舞踊隊」があり、部員137人のうち、24人が管楽器と打楽器が繰り出すマーチに合わせ、日本のみならず、海外でも吹奏楽舞踊を披露、注目を集めている。

・15日、長唄唄方の杵屋佐喜が「午後」の音楽会「花鳥風月―花」に出演。「越後獅子」をアレンジしてバンドネオンの三浦一馬と共演した。東京・紀尾井小ホール

・宮崎県立芸術劇場が「土地の魅力や課題を再発見し、全国水準の作品を創作しよう」と初めた企画。宮崎を舞台に地域の人々の日常や葛藤を描いた演劇「板子乗降臨」(永山哲行演出)が同劇場で上演された。15、17日

・16日、アイルランドのケルト音楽と能を融合した異色の公演「ケルティック能 鷹姫」が上演された。アイルランドの文豪W・B・イェーツの「鷹の井戸」が原作。多彩なジャンルとの競演に実績のある梅若女祥がケルト神秘の精神を体現するコーラス・グループ

「グアターナ」による新たな演出でコラボレーションした。東京・渋谷のBunkamuraオーチャードホール

・戦前の思想家、養田胸喜をモデルにした舞台「原理日本」(久板栄二郎作、大谷賢治演出)を、青年劇場がスタジアムで上演した。1970年に俳優座に書き下ろされた作品。思想家養田を通し、戦争へ向かう狂気を生み出した時代の空気に迫る。17、26日

・文学座の創立80周年と正岡子規の生誕150年の記念の年。食べまくった俳人の正岡子規を描いた文学座の公演「食いしん坊万歳!正岡子規青春狂詩曲」(西川信廣演出)が上演された。

同座の俳優で劇作家の瀬戸口郁の書き下ろし新作。子規と同郷の松山出身の佐川和正が主演。土族出身の子規の母八重を演じた新橋耐子が存在感を發揮した。18、27日、東京・新宿の紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYA

・40人ほどの子どもが自由に書いた台本を元に、劇作家の岩井秀人、俳優の森山未來、シンガーソングライターの前野健太の3人が1つの芝居に仕上げたコードモ発射プロジェクト「なむはむだはむ」が上演された。東京芸術劇場芸術監督の野田秀樹が発案。18、3月12日、東京・池袋の東京芸術劇場シアターウエスト

・22日、「共謀罪」法案の要件を変えた「テロ等準備罪」法案について、日本劇

作家協会(鴻上尚史会長)は、「自由な表現活動を維持する立場として、懸念を表明する」と反対する緊急アピールを出した。また、日本新劇製作者協会(水谷内助義会長)も23日付で緊急アピールに賛同した。

・劇団民藝が「三好十郎の戯曲」をさの音(渾大坊一枝演出)を上演した。戦地から目を負傷して復員した青年・緒方次郎(吉岡扶敏)が、弟に将来を誓った恋人への手紙の口述筆記を頼む。23、27日、川崎市の劇団民藝稽古場

・狂言、尺八、和太鼓、津軽三味線、殺陣などの芸を披露するエンターテイメントショー「THE FACTORY」が上演された。日本の文化力を高めたいと狂言方の大藏基誠が初の脚本・演出を担った。24、26日、東京・渋谷のCBGKシブゲキ!!

・関西を拠点とする俳優で作る、関西俳優協議会の創立50周年記念作品「人生まわり舞台」(梅林貴久生原案、脚本)が上演された。24、26日、大阪府吹田市のメイシアター

・従軍慰安婦を取り上げたNHK番組「改変問題を題材にした、白い花を隠す」(小笠原響演出)を演劇集団「カンパニー」が上演した。劇作家石原燃が書き下ろした。25、26日、兵庫・アイホール伊丹市立演劇ホール 28、3月5日、東京・池袋のシアターグリーン

・障害者と健常者が手話を主体にした芝居やダンスを上演している山辺ユリ

コ主宰の劇団「はくとふる♥はんど」が

劇」ありがとう、またね…」(石井ふく子監修、菊村禮作、山辺演出)を上演した。2016年に入団した櫻井ようこは自身の指導犬スカイと出演した。

25、26日、東京・日本橋の三越劇場

・北九州芸術劇場が新作の「ご当地演劇『しなやかな見渡す穴は森は雨』(ノゾエ征爾作・演出)を上演した。オーディションには、過去最高の113人が参加し、その中から男女16人が選ばれた。26〜3月5日、北九州芸術劇場小劇場 10〜12日、東京・あうるすぽっと

・28日、映像制作会社のスタジオオアルタが7月、東京の有楽町センタービル内に、主に外国人観光客をターゲットにした劇場をオープンさせると会見で明らかにした。名称は「オルタナティブシアター」で客席数462席。観客席の真上でワイヤアクションができる設備を採り入れ、日本語がわからなくても楽しめる音楽劇を中心に上演する。・国立劇場が作製した「歌舞伎名ざりふかるた」が、異例のヒット商品となった。一月下旬には同劇場内の一室で会員組織「あぜくら会」のメンバー58人が三人一組に分かれるた会を行った。詠み人と解説を歌舞伎俳優の中村萬太郎とフリーアナウンサーの山川静夫が担当した。

三月

・30代の気鋭の演出家3人が、昭和30年代の名作3作に挑む新国立劇場のシリーズ「かさなる視点―日本戯曲の力―」の第一弾。三島由紀夫作「白蟻の巣(谷賢二演出)」が上演された。劇作家三島由紀夫と、刈屋義郎を演じる元華族の農園主、刈屋義郎を演じる平田満は三島作品初出演、妻の妙子は安蘭けい。2〜19日、東京・新国立劇場小劇場 西宮・豊橋でも上演。

・2日、宝塚音楽学校で103期生の卒業式があり、声楽やダンスなどの練習に励んだ40人が、2年間を過ごした校舎を巣立った。4月21日に宝塚大劇場で初日を迎える雪組公演で初舞台を踏む。

・京舞・狂言・茶道・華道・箏曲・雅楽・文楽など七つの伝統芸能を一度に鑑賞できる文化観光施設、京都の「ギオンコナー」が改装され、リニューアルオープンした。2020年の東京五輪に向け増え続ける外国人観光客らに、花街と伝統文化に、より親しんでもらうのが狙い。

・雀石衛門が「歌舞伎十八番」の人気狂言「助六由縁江戸桜」の揚巻を初役で演じた。助六は海老蔵。3〜27日、東京・歌舞伎座

・国立劇場開場50周年記念の最後を飾る3月歌舞伎公演「伊賀越道中双六」が上演された。1931年以来、86年

ぶりに「円覚寺」が復活した。主人公の剣術の達人、唐木政右エ門は吉右衛門。他に錦之助、菊之助、東蔵、歌六、雀石衛門らが出演。4〜27日

・ブロードウェイ・ミュージカル「コメディ・トゥナイト!ローマで起ったおかしな出来事(江戸版)」で歌舞伎俳優の愛之助が、ミュージカルに初出演した。宮本亜門が演出・上演台本を手がけた。「ブロードウェイ」の歴史上、海外で違う設定で公演するというのは初めて」と言う。4〜28日、東京・新橋演舞場 4月2〜25日、大阪松竹座

・全国的な実力を持つ福岡の精華女子高校吹奏楽部の活躍をモチーフにした舞台「熱血!ブラバン少女」(G2作・演出)が博多座で上演された。同部もゲスト出演し、生演奏した。座長を務めるお笑いタレントの博多華丸は2回目の博多座出演。4〜26日

・狂言の流派や家の垣根を超えて次代を担う若手の狂言師が集い研鑽を積む公演。第三回「立合狂言会」は計10家がそろい開催された。4日、東京・水道橋の宝生能楽堂 19日、京都・金剛能楽堂

・5日、シテ方喜多流の粟谷能夫といとこの明生が主催する「粟谷能の会」が100回目を迎えた。能夫は長く喜多流で途絶えていた「伯母捨」の復曲。明生は「石橋」で喜多流独特の赤い巻き毛のひとり獅子を舞った。東京・国立能楽堂

・映画「男はつらいよ」の下敷きになった喜劇「マリウス」(山田洋次脚本・演出)に今井翼が主演した。フラメンコや歌も登場する音楽劇。6〜27日、東京・日生劇場

・7日、宝塚歌劇団は宙組のトップスター朝夏まなとが11月に退団すると発表した。退団公演は、宝塚大劇場で8月18日に始まる「神々の土地」〜ロマノフたちの黄昏〜、クラシカル ビジュー。最後の舞台は、11月19日の東京宝塚劇場

・8日、八王子市内の学生演劇グループ「劇衆オの組」のメンバーらが、第二次大戦直後、ドイツで伝染病治療に尽力した同市出身の医師、肥沼信次の生涯を描いた「七一年目の桜」を上演した。八王子市本町のいちようホール

・9日、宝塚歌劇団は、雪組の新しいトップスターに望海風斗が、トップ娘役に真彩希帆が就任すると発表した。

・東京演劇アンサンブルが「沖繩ミルクプラントの最后」(坂手洋二作、松下重人演出)を上演した。戦争に加担した従業員の葛藤や基地の矛盾を浮き彫りにする。9〜19日、東京・練馬のブレヒトの芝居小屋

・若松孝二監督の生誕80年祭特別企画「実録・連合赤軍 あさま山荘への道程」が同名作として舞台化された。シライケイタ(劇団「温泉ドロン」代表)が上演台本、演出を担当。出演者は約230人の応募者からオーディショ

ンで選んだ。劇ならではの見せ方を工夫して密室の群像劇に挑んだ。9日〜22日 東京・新宿のSPACE E 難遊・池田成志が2016年10月22日に急逝した平幹二郎の代役としてストリンドベリ作の舞台「死の舞踏」(小川絵梨子演出)に主演した。シス・カリン・ニーが、東京・シアターコクーン内に2つの小劇場を特設し「令嬢ジュリー」と交互上演するプロジェクトの一環。10〜4月1日

・劇団銅鑼の創立45周年記念公演「彼の街」(青木豪作、大谷賢治郎演出)が上演された。チェーホフが若き医学生時代に手がけた短編を基に、現代日本とも重ね合わせながら描いた。60余年に及ぶ役者人生をチェーホフ作品とともに歩んできた鈴木瑞穂が企画・出演。15〜20日、東京・六本木の俳優座劇場

・16日、人形浄瑠璃文楽の太夫で人間国宝の竹本住大夫に大阪市立大学の特別客員教授の称号が授与された。住大夫は14年に現役を引退した。

・南極で大規模な芸術祭「南極ビエンナーレ」が初めて開かれた。平和や環境保護などの理念の発信をめざし13カ国から現代美術家のほか、ミュージシャン、思想家、科学者、ジャーナリストら約80人が参加。一行を乗せた船は南極近海を周遊しながら時折接岸し、写真やインスタレーション(空間芸術)などの作品を展示した。船上では参加

者が議論を交わした。17〜28日

・兵庫豊岡の市民劇団「演劇FAC TORY」が旗揚げ公演オリジナル作品「土の詩」時の記憶」を上演した。2016年の9月から週2回の練習会などで技術を磨いた約30人が俳優やスタッフとして参加した。18、19日、豊岡市民プラザ

・日中国交正常化四十五周年記念事業の歌舞伎公演「松竹大歌舞伎 北京公演」が北京天橋芸術中心 中劇場で行われた。鷹治郎、芝翫、孝太郎らが出演した。演目は「義経千本桜 鳥居前」「封印切」「藤娘」18〜20日

・坂手洋二主宰の劇団「燐光群」が捕鯨一族の子孫たちの幻想と現実が交錯する「くじらの墓碑2017」(坂手作・演出)を上演した。18〜31日、東京・吉祥寺シアター

・18日、横浜能楽堂が普及公演「パリアフリー能」を上演した。聴覚障害者には字幕メガネや字幕が表示されるiPadを貸し出し、手話通訳も配備。視覚障害者にはイヤホンガイドや能舞台の触図を準備、触れる能面も展示。「パリアフリー能」は2000年に始まる、累計5千人以上が参加。終演後には意見交換会を開き、改善策や提案を生かしてきた。

・山本周五郎の18作品を舞台化してきた前進座。「柳橋物語」を29年ぶりに再演した。いまむらいずみが演じた主人公おせんを、新たに姪の今村文美が演

じた。20日、鳥取 21日、米子 22日、島根 23日、出雲 25〜26日、倉敷 30〜31日、岡山 4月1〜4日、岡山 6日、福山 7日、尾道 8日、倉敷 9〜10日、11〜12日、広島 14日、呉 15日、柳井(山口) 16〜17日、周南(山口) 18〜20日、岡山 8月31〜9月5日、大阪・国立文楽劇場 9月7〜8日、名古屋 13日、岡崎 14日、知多(愛知) 15〜16日、岐阜 17日、江南(愛知) 20日、三重 21日、伊勢 22日、四日市 24日、稲澤(愛知) 25〜27日、豊橋 29日、魚津(富山) 10月1日、金沢 2日、野々市(石川) 3〜4日、富山 5〜6日、高岡(富山) 9日、七尾(石川) 10〜11日、砺波(富山) 14〜25日、東京・三越劇場 27日、東京・武蔵野市民文化会館

・22日、歌手でタレントの研ナオコが、甲府市で行われた舞台「アツ!とおどろく『夢芝居』で転倒し、右大腿骨警部骨折の怪けを負って休養すると所属事務所が発表した。

・23日、梅若文祥が、東日本大震災の復興へ思いを込めて、東北が舞台の世阿弥作の復曲「阿古屋松」を5年ぶりに再演した。東京・国立能楽堂

・大阪の「K S A L O N 表現者工房」が、韓国・ソウルで活躍する「劇団チャイム」代表のミン・ボッキを招き、同氏作・演出の2人芝居「恋する3世代」を日本人俳優で上演。その

後・シンボジウムで交流を深めた。23〜27日

・劇団四季のミュージカル「オペラ座の怪人」が横浜のK A A T 神奈川芸術劇場で上演された。四季の「地元」での長期公演に役者たちも意気込みを新たにして臨んだ。25日〜8月13日

・川崎市麻生区に拠点を置く劇団民藝が、近隣の子どもたちを招待して絵本を読み聞かせる会を開いた。25、26日、稽古場

・28日、日本俳優協会再建設六十周年記念第三十八回「俳優祭」が、歌舞伎座で行われた。

・劇団☆新感線のチャンバラアクション活劇「髑髏城の七人」Season花(中島かずき作、いのうえひでのり演出)が上演された。東京・豊洲に誕生した客席が360度回転する「IH I ステージアラウンド東京」のこけら落し。小栗旬、山本耕史、成河らが出演。30〜6月12日

・人間関係が希薄になったといわれる今日。他人同士が力を合わせて一つの出し物を作る、演劇の手法を取り入れた「コミュニケーション教育」が注目を集めている。兵庫豊岡市が2017年度から全ての市立小中学校で授業に導入。「楽しみながら、合意形成する力や伝える力が身につけられる」と劇作家の平田オリザが協力する。

・20日、鳥取 21日、米子 22日、島根 23日、出雲 25〜26日、倉敷 30〜31日、岡山 4月1〜4日、岡山 6日、福山 7日、尾道 8日、倉敷 9〜10日、11〜12日、広島 14日、呉 15日、柳井(山口) 16〜17日、周南(山口) 18〜20日、岡山 8月31〜9月5日、大阪・国立文楽劇場 9月7〜8日、名古屋 13日、岡崎 14日、知多(愛知) 15〜16日、岐阜 17日、江南(愛知) 20日、三重 21日、伊勢 22日、四日市 24日、稲澤(愛知) 25〜27日、豊橋 29日、魚津(富山) 10月1日、金沢 2日、野々市(石川) 3〜4日、富山 5〜6日、高岡(富山) 9日、七尾(石川) 10〜11日、砺波(富山) 14〜25日、東京・三越劇場 27日、東京・武蔵野市民文化会館

・22日、歌手でタレントの研ナオコが、甲府市で行われた舞台「アツ!とおどろく『夢芝居』で転倒し、右大腿骨警部骨折の怪けを負って休養すると所属事務所が発表した。

・23日、梅若文祥が、東日本大震災の復興へ思いを込めて、東北が舞台の世阿弥作の復曲「阿古屋松」を5年ぶりに再演した。東京・国立能楽堂

・大阪の「K S A L O N 表現者工房」が、韓国・ソウルで活躍する「劇団チャイム」代表のミン・ボッキを招き、同氏作・演出の2人芝居「恋する3世代」を日本人俳優で上演。その

・東日本大震災の直後に仙台の舞台関係者が中心となり、復興支援団体を立ち上げた、「Art Revival Connection Tohoku (アートリバイバルコネクション東北)」が、震災から6年を経て、最初の1年間の活動記録をまとめた報告書を出版した。

・和泉流狂言師の小笠原匡がパリ日本文化会館から讀われ、2016年1月から約四か月に一回、ワークショップと講義、実演の三本立ての講座を担当。狂言だけでなく、文楽の技芸員や能楽師、囃子方ら数人を日本から毎回呼び、和の芸の普及に努め、約300人収容の会場を満員にしている。約半数がフランス人。

・5回目となる、「赤坂大歌舞伎」。勘九郎と七之助が劇作家蓬萊竜太作・演出の「夢幻恋双紙ゆめまぼろしかこいぞうし」赤目の転生に出演した。長屋を舞台に気弱な太郎(勘九郎)が妻の歌(七之助)を幸せにするため、転生を繰り返す人間ド라마。赤坂大歌舞伎で初の新作。6月25日、東京・TBS赤坂ACTシアター

・滝沢秀明が主演する舞台「滝沢歌舞伎」が、12年目に入り、5月4日の昼の部の公演で通算600回を迎えた。2006年に歌舞伎の演目をジャニーズ風にアレンジして「滝沢演舞城」

として始まったシリーズ。当時最年少座長だった滝沢は役者としても、座長としても大きく成長した。6月5月14日、新橋演舞場

・1997年春に開場した東京・三軒茶屋の世田谷パブリックシアターが、4月で開場20周年を迎えた。その記念公演が、公募で選ばれた一般人を含む約50人が出演する狂言「唐人の撲」と、ラベルの「ボレロ」で三番叟を軸にした野村萬斎の独舞を披露する「MANSAIボレロ」で上演された。7月9日

・脚本家の市川森一の呼びかけでスタートしたテレビ、ラジオ番組の脚本や台本を収集・保存する一般社団法人「日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム(代表理事山田太一)」が集めた総数は8万冊を超え、国立国会図書館や川崎市市民ミュージアムなどに収蔵され、一般公開も始まっている。放送史を物語る貴重な資料の活用に向け、コンソーシアムでは新たな取り組みも検討しているが、資金繰りなどの課題に直面している。

・人形浄瑠璃文楽の豊竹英太夫が六代目豊竹呂太夫を襲名する公演がおこなわれた。口上に続く「菅原伝授手習鑑 寺子屋(節)」を語った。8月30日、大阪・国立文楽劇場 5月13日、東京・国立劇場小劇場

・五代目を襲名した中村雀右衛門の掉尾を飾る披露興行が香川県琴平町の芝

居小屋「旧金比羅大芝居(金丸座)」で上演された。雀右衛門は「将門」と「葛の葉」を演じた。又仁左衛門が「お祭り」と「身替座禅」で15年ぶりの金丸座出演を果たした。8月23日

・8日、京都で唯一の喜多流単独の演能会「喜多流涌泉能」が京都で唯一残る明治時代創建の大江能楽堂で開かれた。喜多流の中でも京風の古格を伝える高林家。親子孫三代そろつての演能となった。

・10日、千葉県浦安市舞浜の東京デイズ二丁目ゾート一角の多目的ホール・劇場「舞浜アンフィシアター」で、パフォーマーの吉野和剛が高さ16メートルから吊り下げられ舞台機器の点検作業中に10メートルの高さから転落・死亡する事故が起きた。

・12日、文学座が創立80周年を迎え明治記念館で記念祝賀会を開いた。劇団代表の江守徹(73)、角野卓造(68)ら座員や演劇評論家など約550人が出席した。

・13日、吉本興業や在阪放送局などで創る「クルルジヤパンパーク準備株式会社」は大阪市内で2017年度中にエンターテイメント発信事業を始めると発表した。大阪城公園周辺を中心に候補地を選び、3劇場を設置する。

・劇団俳優座が新作「北へんろ(堀江安夫作、眞鍋卓嗣演出)」を上演した。東日本大震災の被害にあった岩手県の海辺に、ポツンと立つ旅館「清和館」に

集う人々の魂の交流を描く。83歳の川口敦子が戻らない息子の帰りを待ち続ける旅館のおかみのいわねを演じた。演出の眞鍋は「被災地の想いに誠実に」を心掛けた。13月22日、東京・両国のシアターX

・日本最大のクルーズ客船「飛鳥II」を運航する郵船クルーズが宝塚歌劇団と初めてコラボしたプレミアムアクルーズ「TAKARA ARAZUKA ONLINE ASUKA II」を実施。二星組トップスター北翔海利らが出演し、スペシャルショーをはじめ、華やかな衣装の展示、背負い羽などの体験コーナーなど2泊3日の無寄港クルーズで約800人のファンと交流した。14月16日、横浜発着

・津山市の劇団「みゅーじかる劇団きんちやい座」が演劇を通して環境問題を学び、地球温暖化防止などを訴える「出前環境劇」を10年以上にわたって、披露している。市からの依頼がきっかけ。

・劇団昂のベテラン俳優北村総一郎(81)が「きな臭い世の中になつた今こそ、二度と戦争を起こしてはならない」との強い思いを伝えたい」と新藤兼人監督が90歳を超えてメガホンを取った映画「ふくろう」を、舞台化。自ら企画し、初演出した。17月23日、東京・板橋のPit 18

・18日、宝塚音楽学校で、第105期生の入学式があり、26倍の難関を突破した40人がタカラジェンヌへの道

を歩み始めた。

・20日、能楽シテ方の最大流派、観世流の本拠となる「観世能楽堂」が東京・銀座の松坂屋銀座店跡地にできた複合ビル「GINZA SIX」の地下3階に開場した。正式名称には「二十二世観世左近記念」の名を冠し先代の遺徳を顕彰した。記念祝賀能では480人の観客の前で二十六世観世宗家の観世清和が「翁」を披露した。

・29日、狂言大蔵流五家中の堅、若手による「大蔵流五家狂言会」が三年目を迎え、初めて五家混合の陣容で計5演目を披露した。東京中野の梅若能楽学院会館

・30日、新内節富士元派家元新内仲三郎が四世宗家を継ぎ、長男の剛士が多賀太夫を襲名して七代目家元となる「四世宗家新内仲三郎披露、七代目家元新内多賀太夫襲名披露演奏会」が東京・国立劇場大劇場で催された。「蘭蝶」では仲三郎の弟子の津川雅彦が新内を語った。

五月

・七代目尾上梅幸の二十三回忌と十七代目市村羽左衛門の十七回忌追善「團菊祭五月大歌舞伎」が催された。坂東彦三郎が初代坂東東善を名乗る。彦三郎の長男亀三郎が九代目彦三郎を、次男亀寿が三代目亀蔵をそれぞれ襲名。亀三郎の長男佑次(4)が六代目亀三郎

を名乗り初舞台。菊之助が夜の部の「伽羅先代萩」で大役、乳人政岡に九年ぶりに挑んだ。また昼の部の「魚屋宗五郎」では菊五郎の孫で、俳優寺島しのぶの長男眞秀(4)が初お目見え。3

・27日、東京・歌舞伎座
 ・東京・明治座の公演「五月花形歌舞伎」で片岡愛之助が座頭をつとめ、「月形半平太」と、南総里見八犬伝」で初役に挑んだ。3/27日
 ・内戦が続くシリアを描いた舞台「ダマスカス While I Was Waiting」が静岡芸術劇場で日本初演された。首都ダマスカスで暮らすシリア人の演出家オマル・アブーサアダと亡命した劇作家ムハンマド・アッタールが手がけ、シリア人俳優6人が演じた。現体制への批判を含んでいるためシリアでは上演できず、ベルギー、フランスなど欧州などで上演している。静岡公演は静岡県舞台芸術センターの宮城聡・芸術総監督の招きで実現。3、4日

・3日、椎木樹人(みきひと)が主宰する福岡の劇団「万能グループ ガラパゴスダイナモス(ガラパ)が、キャナルシティ劇場に初進出し、青春群像劇「星降る夜になったら」(川口大樹作・演出)を上演した。

・5日、観世流シテ方の野村四郎が傘寿の記念公演「第二十七回 野村四郎の会」で、能「羽衣 彩色之伝」を舞った。東京・銀座の観世能楽堂

・ダンサーの笠井瑞丈(4)が、父で舞踏家の叡(73)の代表作「花粉革命」を踊った。海外でも高い評価を得、再演を繰り返してきた人気作に挑んだ。5

・7日、東京・シアターラム
 ・バーチャルリアティを題材にした手塚治虫の漫画「上を下へのジレット」(倉持裕樹本・演出)が妄想歌謡劇として上演された。関ジャニ∞の横山裕が主演。銀粉蝶、竹中直人ら出演。7/6月4日、東京・Bunkamuraシアターコクーン

・9日、二枚目俳優の代名詞だったフランスの俳優、アラン・ドロン(81)が近く引退すると表明した。最後に映画と舞台作品にそれぞれ1本ずつ出演してから引退する意向。

・観世流シテ方能楽師で人間国宝の梅若玄祥が2018年3月、梅若実を四世として襲名することになった。三世は、父の故五十五世梅若六郎に追贈される。
 ・日本舞踊の最大流派「花柳流」から除名された舞踊家の青山貴彦が、4代目家元の花柳寛らを相手に、「名取」であることの確認を求めた訴訟の上告審で、青山貴彦を名取と認めた一、二審判決が確定した。最高裁第三小法廷が9日付の決定で4代目家元の上告を退けた。
 ・映画監督の山田洋次が落語(井戸の茶碗「らくだ」)の2題をなймаぜにした脚本を書き、監修する劇団前進座

による喜劇「裏長屋騒動記」(小野文隆演出)が上演された。嵐芳三郎が演じる長屋出入りの紙屑屋の久六が狂言回し。11/22日、東京・国立劇場大劇場
 ・青年劇場が、1924年に日本初の新劇の常設劇場「築地小劇場」を劇作家の小山内薫とともに開いた演出家の土方与志(船津基)と舞台衣裳家の妻梅子(池田咲子)の物語「梅子とよっちゃん」(福山啓子作 瀬戸山美咲演出)を上演した。12/21日、東京・紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYA

・時代劇専門チャンネルのオリジナル時代劇「果し合い」が国際的テレビ賞「ニューヨークフェスティバルドラマスペシャル部門」(2017)で最高賞の金賞を受賞した。

・マリリン・モンローやエディット・ピアフらの歌声を再現できる天才的な少女をめぐる舞台「Little Voice」(リトル・ヴォイス)。(ジム・カートライト作、日沢雄介演出)に大原櫻子が初主演した。15/28日、東京の天王洲銀河劇場 富山、福岡でも上演。

・15日、2016年5月12日に亡くなった嵯川幸雄の一周忌の法要が、芸術監督を務めた「彩の国さいたま芸術劇場」で営まれた。また死を悼むメモリアルプレートが披露された。
 ・17日、劇場運営や紀伊國屋演劇賞の創設など演劇の振興や文化・芸術の進展に寄与している紀伊國屋書店が創業

90周年を迎え、八芳園(東京港区)にて、記念祝賀会を開いた。多くの文化人や演劇人が集った。

・人間って何?と問いかける4人の劇作家集団「劇作家女子会。」による新作ミュージカル「人間の条件」が上演された。(赤澤ムック演出)リーダーの坂本鈴、オノマリヨ、黒川陽子、モスクワカヌの4人による初共作ミュージカル。幕間に一般から公募した9人が「人間の条件」をそれぞれ発表した。18

・21日、東京の座・高円寺1
・18日、中村獅童が定期的な健康診断で初期の肺腺がんを患っていることが分かり、出演を予定していた博多座「六月博多座大歌舞伎」、歌舞伎座「七月大歌舞伎」を休演した。

・黒澤プロダクションによると、中国のジンカ・エンターテインメント社が、黒澤明監督の未映像化脚本のうち10本を対象に中国語訳を進め、映像化を検討しており、第一弾として「どっこい!この槍」の製作を決めたという。これとは別に、中国の大手配給会社が、黒澤監督が残した未映像化脚本

「黒き死の仮面」の映像化を進めている。2020年の公開を目指している。

・市川染五郎のアイデアによる歌舞伎とフィギュアスケートがコラボレーションした氷上の新作歌舞伎公演「氷艶 hyoen 2017-1 破沙羅」

(染五郎主演、演出が上演された。仁木弾正(染五郎)と源義経(高橋大輔)の

時空を超えた対決を描く。岩長姫(市川笑也)、女神(荒川静香)らが出演。2022日、東京・国立代々木競技場第一体育館のスケートリンク
・人気漫画「あさひなぐ」(板垣恭一脚本・演出)がアイドルグループ乃木坂46のメンバーを中心に据えた舞台として上演された。元宝塚歌劇団トップスターの真琴つばさが共演。2031日、東京・E X シアター六本木。大阪、名古屋でも上演。
・脚本家の池端俊策が「放送人グランプリ2017」で、最高賞のグランプリに輝いた。

・21日、開場90周年を迎えた三越劇場が創立記念の演芸会を開いた。題して「90なんてまだ若い! 内海桂子・桂米丸」2人が名前を冠した舞台で競演するのはこれが初めて。

・23日、福岡県田川郡川崎町の大衆演劇「見聞劇場」で2周年を記念した座長大会が開かれ、全国の座長12人が共演した。同劇場は炭鉱全盛期に同町にあつたが、火災で焼失、40年ぶりに復活させた。

・23日、宝塚歌劇団は萩尾望都の人気漫画「ボー」の一族を2018年1月に花組で舞台化すると発表し、明日海りおが主演し、小池修一郎が演出を手がける。

・1987年に国内で帝劇で初めて上演され、3千回を超えた東宝製作のミュージカル「レ・ミゼラブル」(V・

ユゴ(原作)が日本初演30周年記念として上演された。主役のジャン・バルジャンは、トリプルキャスト(福井晶一、韓国の俳優ヤン・ジュンモ、吉原光夫)で共演された。257月17日、東京・日比谷の帝国劇場。福岡、名古屋、大阪でも上演

・落語フアンの豊原功補が、三遊亭円朝の長編人情噺「名人長二」を舞台化。初の脚本・演出、そして主演長二役に挑んだ。256月4日、東京・紀伊國屋ホール

・次代を担う演歌歌手の一人として注目されている三山ひろしが初の座長公演を開いた。芝居「若様弥次喜多七変化」と歌のステージの2部構成。266月4日、大阪・新歌舞伎座

・26日、吉本新喜劇の酒井藍が初の女性座長に就任することが決まり、上方芸能発祥の地、大阪・生国魂神社を参拝した。新座長就任公演は7月2631日までなんばグランド花月で開催。

・27日、「共謀罪」の法案成立阻止を訴えるピアニストや弁護士らが、国会審議を音読劇で再現するイベントを神奈川県の藤沢駅北口で開いた。

・28日、初代中村勘三郎の像が名古屋市中の村公園に建立された。勘九郎と七之助が出席して除幕式が行われた。

・劇団四季は、人気ミュージカル「ギヤツ」のロングラン公演を2018年夏から東京・品川区のJ R 大井町駅近くで行うことを発表した。同

作の首都圏公演は、0912年の横浜以来、6年ぶり。

六月

・名古屋城本丸御殿公開ブレイベント歌舞伎公演「名古屋平成中村座」が勘九郎、七之助をはじめ、扇屋、彌十郎らが出演して、8年ぶりに上演された。126日、名古屋城内二之丸広場・特設劇場

・「二月花形新派公演」で喜多村祿郎と河合雪之丞が江戸川乱歩原作の「黒蜥蜴」に挑戦した。齋藤雅文が原作を新たに脚色し、演出も担当。永島敏行、劇団E X I L E の秋山真太郎らも出演。124日、東京・三越劇場

・17世紀、ドイツ人医師ケンペルによって日本から持ち出され、ロンドンの大英博物館に1冊だけ残る貴重な古浄瑠璃本「越後国柏崎 弘知法印御伝記」が2、3日、ロンドンの大英図書館にて「越後猿八座(越後角太夫)による弾き語り」によって復活上演された。ドナルド・キーン(コロンビア大学名誉教授、発見者の鳥越文蔵早稲田大学名誉教授)による講演もあつた。国際交流基金主催

・国立劇場の歌舞伎鑑賞教室が50年を迎えた。上演に先立つ解説コーナー「歌舞伎のみかた」は単人が担当。単人の父錦之助は「歌舞伎十八番」の一つ「毛拔」で弾正を務めた。224日。

16日は三年目となる外国人のための鑑賞教室「Discover KABU KI」が開催された。

・東京の喜劇の継承を掲げる「熱海五郎一座」(三宅裕司座長)が、藤原紀香をゲストに迎え、4年連続となる東京・新橋演舞場公演をおこなった。題名は「消えた目撃者と悩ましい遺産」。「本格的な喜劇の舞台は初めてで、学ぶことが多いです。稽古場で笑いをこらえるのが大変です」と藤原。2/27日

・俳優の青山勝が1997年に旗揚げした劇団道学先生。20周年の記念公演「梶山太郎氏の憂鬱と微笑み」(中島淳彦作・演出)を上演した。7/18日、東京・赤坂レッドシアター

・8日、俳優の左とん平(80)の所属事務所は、急性心筋梗塞で入院したとん平の手術が無事成功。快方に向かっていると報告。2つの舞台の降板と、しばらくの間、休養すると発表した。

・川崎市のアマチュア劇団「劇団企てプロジェクト」が、現実の選挙を想起させる人情喜劇「タスキとダルマと白い手袋と」を上演した。別府寛隆代表が8年前、横須賀市内の劇団のために書き下ろした作品に加筆修正した。

9/11日、川崎H&Bシアター

・作家、池波正太郎が新国劇の若手のために書き下ろした「黒雲峠」を新国劇出身で劇団若獅子代表を務める笠原章が演出した。9/11日、東京・カメリ

アホール

・地人会新社が、もう一つの「アンネの日記」といわれる舞台「これはあなたのもの 1943-ウクライナ-鶴山仁演出)を上演した。ノーベル化学賞を受賞したユダヤ系ポーランド人の科学者オールド・ホフマンが、少年のときにナチス・ドイツの迫害を逃れ、母と共にウクライナ一家の屋根裏に身を潜めていた体験をもとに描いた作品。八千草薫が母親、吉田栄作が息子役で出演。15/25日、東京・新国立劇場小劇場

・共謀罪法が成立した近未来をコメディイタツチで描いた劇団チャリT企画の新作「キョーボーですよ!」が上演された。主宰の榎原拓作・演出。9/13日、東京・新宿眼科画廊スペース地下

・演歌歌手の田川寿美が大阪・新歌舞伎座で俳優の梅沢富美男との特別公演に出演した。10/19日

・がんで死去してから10年。「命を守るのが政治家の仕事」を口癖にがん対策に奔走した参院議員、山本孝史。その生涯をたどる朗読劇「兄のランドセル」が上演された。妻のゆきによる脚本。11日、東京・NHKホール

・11日、大蔵流狂言師、茂山千三郎が主宰する「三ノ会」が、ゴリラ研究の第一人者、京都大の山極寿一学長の指導を受けて2010年に初演した創作狂言「ゴリラ(かく)」を能舞台で初め

て演じた。京都市の金剛能楽堂

・岐阜県の県立東濃高校と県立不破高校では文学座の講師陣を招き、演劇表現を用いたワークショップ(WS)を実施。遅刻や中退が減ったという。人との距離感や度胸、自己肯定が得られるなど、WSが学校現場や支援団体で注目されている。文部科学省は10年度から学校に芸術家を派遣し、WSを実施する事業を始めている。

・生物・民俗学者の南方熊楠の生誕150年。劇団民藝が、小幡欣治作の舞台「熊楠の家(丹野郁弓演出)を22年ぶりに再演した。千葉茂樹が熊楠を主演した。15/26日、東京・紀伊國屋ザンシアターTAKASHIIMAYA

・活動20周年を迎えた演劇カンパニー・チエルフィッチュの「部屋に流れる時間の旅」の東京公演が行われた。主宰の演劇作家岡田利規が作・演出を手がけた。16/25日、東京・シアタートラム

・アンクラ演劇を継承する劇団「新箱梁山泊」が創立30周年記念公演として、唐十郎作「腰巻おぼろ妖鯨編」を42年ぶりに上演した。17/26日、東京・花園神社境内特設祭テント

・佐賀を拠点に活動する「スタジオ風」のたねが、45歳以上の中高年劇団「SAGA パーフエクトシアター」が演じる芝居「佐賀んから騒ぎ」(17日)と10歳/19歳までの役者だけが所属する「ティーンズミュージカルSAGA」

が演じるミュージカル「ヒトツノカケラ」(18日)をそれぞれ上演した。東京・全労済ホールスペース・ゼロ

・19日、モスクワ国際バレエコンクールで男性シニア部門のデュエットで大川航矢(25)が1位の高賞、女性シニア部門のデュエットで寺田翠(24)が3位の銅賞に入賞した。このほか男性ジュニア部門のソロでは、千野円句(18)が1位の高賞に入った。

・宝生流唯一のキリスト教の演目「復活のキリスト」(イエズス会のドイツ人宣教師で、上智大学長も務めたヘルマン・ホイヴェルスの原作)が54年ぶりによみがえり、カトリックの総本山であるバチカン市国で上演された。日本とバチカンの国交樹立75周年の記念公演で、シテのキリストを二十世宗家、宝生和英がつとめた。23、24日、カンチエレリア宮殿。

・23日、「文化芸術振興基本法の一部を改正する法律(文化芸術基本法)が施行された。16年ぶりの改正で「振興」の文字を削りズバリ文化芸術基本法とした。文化芸術を社会の基礎に据えることを明確にした。

・乳がんと闘病を続けてきたフリーアナウンサーの小林麻央(34)が22日夜に自宅で死去。夫の海老蔵は「人生で一番泣いた日です。お察しください」と自身のブログにつづった。

・蜷川幸雄一周忌追悼公演「NINA GAWA・マクベス」が再演された。

主演は2年前に続き市村正親。妻は田中裕子。23、25日に香港・Grand Theatre Hong Kong Cultural Centre
7月13日、29日に彩の国さいたま芸術劇場大ホールで上演後、鳥栖市、英国ロンドン及びプリマス、シンガポールでも上演。

・日本演出者協会主催の国際演劇交流セミナー2017①デンマーク特集。26、7月1日、デンマーク演劇の古典で知られるホルベアの戯曲「丘のイエツペ」を演出することを念頭においてワークショップと発表。2日、リーディングによる戯曲紹介、シンポジウム「古典喜劇を演出する」。東京・芸能花伝舎

・28日、5月15日に逝去した劇団四季の創立メンバー、俳優の目下武史を偲ぶ会が自由劇場(東京・浜松町)でおこなわれた。

・神奈川県教育委員会が、県立高校改革の一環として、2020年度から県立高校に「舞台芸術の専門学科を新設する方向で検討している。

・文学座、文化座、民藝、青年座、東演の5劇団が力を持ち寄って現状を打ち破り、創造的な舞台を作ろうと企画した。初の新劇交流プロジェクト「その人を知らず」(三好十郎作、鶴山仁演出)が上演された。キリスト教の信仰を貫き招集を拒否する青年の葛藤を描いた舞台。29、7月10日、東京・あ

るすぽっと
・文学座が「中橋公館」(上村聡史演出)を上演した。終戦を北京で迎えた真船豊の作。家族の絆や二つの「祖国」への思いを描いた。1946年の俳優座による初演から71年ぶりの再演。30、7月9日、東京・紀伊國屋ホール

・中村橋之助改め八代目中村芝翫、国生改め四代目中村橋之助、宗生改め三代目中村福之助襲名披露の巡業が公文協の東コース(30、7月31日)と西コース(8月31日、9月25日)で行われた。ほかに、梅玉、歌六、扇雀、錦之助、高麗蔵、芝喜松改め梅花らの出演。東コース..30日、江戸川区。7月1日、綾瀬。2日、東金。3日、越谷

6日、札幌。8日、青森。9日、北上。11日、宇都宮。12日、横浜。14日、高崎。15日、塩尻。16日、上田。17日、富山。18日、金沢。19日、越前。21日、舞鶴。22日、大津。23日、春日井。25日、知立。26日、富士。27日、立川。28日、熊谷。29日、水戸。30日、練馬区。31日、横須賀。西コース..8月31日、小平。9月2日、愛知県丹羽郡。3日、岐阜。5日、鹿児島。6日、宮崎。8日、周南

9日、呉。10日、福山。12日、松山。13日、徳島。14日、姫路。15、16日、岡山。18日、安来。19日、高梁。20日、神戸。21日、赤穂。22日、津。23日、浜松。24日、静岡。25日、富士見
・中村芝翫改め五代目中村雀右衛門襲名披露の巡業が公文協の中央コースで

行われた。雀右衛門は「妹背山婦女庭訓 三笠山御殿」のお三輪に初挑戦した。ほかに、吉右衛門、友右衛門、又五郎、歌昇、種之助、米吉、吉之丞らの出演。30日、大田区。7月1日、府中。3日、相模原。4日、郡山。5日、仙台。7、9日、秋田県「康楽館」。10日、秋田。12日、山形。14日、前橋

15日、新潟。19日、蒲郡。21日、和歌山。22日、岸和田。24日、倉敷。25日、観音寺。27日、三次。29日、白河市。30日、厚木

七月

・東京・三軒茶屋の世田谷パブリックシアターが開場20周年を記念して木下順二の傑作戯曲「子午線の祀り」を上演した。38年前に初演された壮大な叙事詩劇。野村萬斎芸術監督が新演出し知盛役(3回目)で出演。義経を成河、弁慶を文学座の星智也。影身の内侍を若村麻由美が演じた。1、23日

・大阪砲兵工廠跡地に兵器の鉄くずを盗みに入り、警察と衝突した在日朝鮮人たちの「アパッチ族」を描いた新作舞台「S.C.R.A.P.」(シライケイタ作・出演)が上演された。流山児★事務所や俳優座などから俳優が参加した。演出は日沢雄介、プロデューサーは流山児

田
・歌舞伎俳優の市川右之助が、東京・

歌舞伎座の「七月大歌舞伎」昼の部の「加賀鷹」の女按摩お兼で二代目市川齊入を襲名。海老蔵は、昼の部「加賀鷹」で道玄に初役で挑み、夜の部「通し狂言 駄右衛門花御所異聞」で息子堀越勸玄(4)と共に宙乗りを披露した。歌舞伎史上最年少の宙乗り。3、27日

・新派の波乃久里子と歌舞伎の市村萬次郎が「七月みやげ公演」で、川口松太郎作「お江戸みやげ」に初挑戦した。「紺屋と高尾」では、藤山直美が初期の乳がんで降板したため、浅野ゆう子が花魁役、高尾太夫で新橋演舞場初出演。3、25日、東京・新橋演舞場
・女優の米倉涼子が5年ぶりにブロードウェイのミュージカル「シカゴ」のステージに立った。3日、13日。8月には東京で日本公演が予定されている。

・4日、「音楽教育を守る会」は、日本音楽著作権協会(JASRAC)が音楽教室から著作権料の徴収方針を決めたことに対し、徴収に反対する55万7357人分の署名と、「要望及び質問書」を文化庁に提出した。

・先天性聴覚障害のある俳優・ダンサーの大橋ひろえが主宰する演劇集団「サイン・アクト」プロジェクト「アジアン」が聴覚障害者たちの被爆体験を基にした物語「残夏1945」(米内山陽子脚本、野崎美子演出)を上演した。出演者10人のうち、5人が聴覚障害者。セリフは手話や声のほか、

スクリーンに吹き出しを投影、いろいろな身体表現も採り入れた。5〜9日、東京の座、高円寺1

- ・こまつ座が初演以来29年ぶりに「イヌの仇討」を上演した。大谷亮介が、吉良役でこまつ座に初出演した。演出は劇団数敷童子の東憲司。5〜23日、東京・紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYA
- ・5日、文楽人形遣いの吉田幸助と落語家の笑福亭生喬が、初のコラボ公演「古似士の会」を開いた。上演したのは「仮名手本忠臣蔵」の名場面が登場する「斬藏丁稚」。大阪・天満天神繁昌亭
- ・6日、東京芸術劇場シアターウエストの初日の舞台「アザー・デザート・シティーズ」(寺島しゅうが舞台上から転落、救急搬送され、病院で死亡が確認された。急性大動脈解離を発症していた。公演は俳優の斎藤歩が代役を務め、13日から再開。東京公演は26日まで。大阪でも上演。
- ・7日、宝塚歌劇団は、宙組の次期トップスターに真風涼帆が就任すると発表した。トップ娘役には星風まどかが抜擢された。お披露目公演は2018年1月12日に開幕する東京国際フォーラム公演。
- ・有吉佐和子作の舞台「ふるあめりかに袖はぬらさじ」(原田諒潤色・演出。大地真央が芸者お園を主演した。音楽劇の要素を全面に出した。「芸者役も

三味線の弾き唄いも、初挑戦がたくさん。作品の品位は保つよう心がけます」7〜8月6日、東京・明治座

- ・藤田貴大が主宰する劇団「マームとジブシー」が、結成10周年を迎え全国6都市をツアーで巡った。この10年間にあける10編を網羅する4作品を上演した。7〜30日、彩の国さいたま芸術劇場小ホール、上田、札幌、北九州、豊橋、伊丹でも上演。
- ・三谷幸喜作・演出の新作舞台「子供事情」に天海祐希が主演した。大人の俳優ばかりの出演だが、役は全員が10歳の小学生。大泉洋、吉田羊、小池栄子、伊藤蘭らも出演。8〜8月6日、東京・新国立劇場中劇場
- ・9日、「文学座」が21年ぶりに福井県で公演。小浜市に復元された明治期の木造芝居小屋「屋座」で。「驟雨ーラジオドラマよりー」(岸田國士作)と、「一周忌」(久保田万太郎作)の2部構成。演出は黒木仁
- ・9日、能楽師笛方の一噌幸政の十三回忌を追善する会「受け継がれる伝統創造する伝統」が催された。息子の方、一噌幸弘が中心になって企画した。東京・国立能楽堂
- ・10日、名古屋の御園座が、2018年4月開業予定の新劇場の運営方針を発表した。客席数は旧劇場より約300席減の1302席、客席での飲食を認める。こけら落とし公演4月1〜25日)は、松本幸四郎改め二代目

松本白鸚、長男で市川染五郎改め十代目松本幸四郎の親子襲名披露興行を行う。2018年3月末で閉館する中日劇場からスタッフ11人を受け入れるほか、中日劇場で行われてきた公演の一部を引継ぐ。新劇場は分譲マンションと一体の40階建てビルの中に整備される。

- ・10日、岩手県奥州市水沢区佐倉河で行われている田んぼアート「祝勢揃壽連獅子」を、モデルとなった歌舞伎役者の芝翫と息子の橋之助、福之助が鑑賞に訪れた。
- ・12日、吉本興業は、拠点劇場「なんばグランド花月」を改装するため、9月25日から12月20日まで休館すると発表した。休館中はJR大阪駅駅近くに仮設の「よしもと西梅田劇場」をオープンさせ、本公演を連日上演する。
- ・17日、坂本龍馬の生涯を描くミュージカルとオペラが融合した舞台「龍馬」(ジエームス三木脚本、江守徹演出)が8年ぶりに上演された。高知コーラス合笑団、県立大太鼓部らも友情出演。高知市文化プラザかるぼと
- ・日本演劇者協会主催国際演劇交流セミナー2017②韓国特集が現代、韓国演劇界のトップランナーパク・クニョンを招聘して開かれた。19〜23日、大阪・劇団未来ワークスタジオ
- ・「非戦を選ぶ演劇人の会」による21回目のピースリーディング「引き返せない夏」が上演された。木内みどり、高

橋長英、中山マリアらが出演。19、20日、東京・全労済ホール/スペース・ゼロ

- ・トニー賞をはじめ80以上の演劇賞を獲得しているミュージカル「ピリー・エリオット・リトル・ダンサーズ」(パレトを指す主人公の少年役には、1346人の応募者から4人が選ばれた。主人公ピリー役は小学4年から中学2年の4人が交代で演じる。父親役は吉田鋼太郎と益岡徹のダブルキャスト。19〜10月1日、東京・TBS赤坂ACTシアター。15日〜11月4日、大阪・梅田芸術劇場
- ・文学座が、なつやすみ こどもフェスティバルを開催。親子で楽しめる「かぐや姫」(さいとうゆういち台本、高橋正徳演出)、「ねずみの嫁いり」(さいとうゆういち・たかやなぎあやこ台本)の2作品を上演。3歳以上が対象。芝居前に工作の時間がある。21〜24日、東京・信濃町の文学座新モリヤビル1階
- ・K A A T神奈川芸術劇場のキッズプログラム。森山開次が、ルイス・キャロルの「不思議の国のアリス」をモチーフにした作品に演出・振付・出演として挑んだ。衣装はひびのこづえ、音楽は松本淳一が担当。22〜8月6日、横浜・K A A T神奈川芸術劇場中スタジオ
- ・桶川淳二の怪談ナイトが四半世紀連続公演。全国を巡演した。22日、栃木

23日、群馬 29日、埼玉 30日、静岡 8月3日、西東京 4日、山形 5日、秋田 7日、三浦 9日、苫小牧 10日、札幌 12日、愛知 13日、大田区 15日、福島 16日、盛岡 20日、千葉 24日、岐阜 25〜27日、大阪 29日、徳島 30日、高知 31日、愛媛 9月1日、香川 2日、広島 3日、岡山 9日、埼玉 10日、横浜 15日、新宿区 16日、奥州 17日、宮城 18日、新潟 22日、静岡 23日、港区 28日、福井 29日、石川 30日、京都 10月1日、大阪 5日、山口 6日、長崎 7〜9日、福岡 13日、府中 14日、長野 15日、富山 21日、山梨 22日、相模原 25日、那覇 29日、石垣 11月2日、川崎

・23日、野村万蔵と歴史学者の磯田道史がタッグを組んだ新作狂言の第一弾「信長古い」が万蔵が主宰する「萬狂言」夏公演で上演された。東京・千駄ヶ谷の国立能楽堂

・劇団青年座が古川健の新作「旗を高く掲げよ（黒岩亮演出）」を上演した。第2次世界大戦中、ナチス親衛隊（SS）に入隊したドイツ人の一市民がナチスに傾倒、変貌する過程を描いた。「ナチスだけが悪かったわけではなく、人間と、その集合体の国家が道を謝るメカニズムを書きたかった」と古川。石母田史朗がナチス親衛隊員を演じた。28〜8月6日、東京・青年座劇場

・28日、OSK日本歌劇団時代から、数々のステージで真田幸村を演じてきた桜花昇ぼるの「幸村役10周年」を記念するステージトーク&ライブ「いざっ!」が行われた。大阪・あべのハルカス内の近鉄アート館

・日本演出者協会による演出家・俳優養成セミナー2017演劇大学in横手が蔵のまち増田で開かれた。28〜30日

・5月に初期の肺腺がんを公表した中村獅童が退院。28日、平成29年度秋季公演「松竹大歌舞伎 製作発表」に臨んだ。同舞台で舞台復帰を果たす。演目は「義経千本桜すし屋」「釣女」。獅童は「すし屋」でいがみの権太を初役で務める。

・29日、東京の紀尾井ホール（小ホール）がシリーズ公演「邦楽 女もしてみむとて」を始めた。第一回公演は女流義太夫で、サブテーマは「御殿をめぐる女たち」竹本越孝、三味線の鶴澤津賀花ほか出演。今後、長唄、常磐津節、清元節などを取り上げる予定。

・セリフがない劇「ノンバーバルパフォーマンス」が台頭。東京・有楽町に7月、スタジオオールドによるノンバーバルパフォーマンス劇場「オルタナティブシアター（462席）」がオープンした。12月まで劇作家横内謙介作の70分間のサムライ・エンターテインメント「アラタク〜ALATTA〜」を上演。音楽・映像・ダンスで表現。

八月

・大竹しのぶが38年ぶりに音楽劇「にんじん（ジュール・ルナル原作、山川啓介脚本・作詞、栗山民也演出、山本直純音楽）」の主人公の少年役を演じた。1〜27日、東京・新橋演舞場 9月1〜10日、大阪松竹座

・3日、2018年1月、2月、東京・歌舞伎座での市川染五郎らによる松本幸四郎家の三代襲名披露興行の演目が、松竹から発表された。1月の披露演目は昼の部が「車引（新幸四郎の松王丸）」「寺子屋（新白鸚の松王丸）、夜の部が「勸進帳（新幸四郎の弁慶、新染五郎の義経。2月の昼の部が「一條大蔵譚（新幸四郎の一條大蔵長成）、夜の部が熊谷陣屋（新幸四郎の熊谷直実（仮名手本忠臣蔵 祇園一力茶屋（新白鸚の由良之助、新染五郎の力弥）。

・前川知大（作）、長塚圭史（演出）が初タッグを組み「プレイヤール」が上演された。2006年に「イキウメ」で上演された「PLAYER」を劇中劇として取り込み、前川が新たに書き下ろした。藤原竜也は俳優の役で、劇中劇では謎を解明していく刑事を演じた。4〜27日、東京・渋谷のBunkamuraシアターコクーン 大阪、静岡でも上演。

・東日本震災をテーマに創作劇を上演している教師の劇団「創芸」が、新作

「帰還〜2017春（小野川州雄作・演出）」を上演。春に帰還困難区域を除いて避難指示が解除された福島県富岡町が舞台。4〜6日、紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYA

・文化庁、日本劇作家協会による劇作家協会公開講座2017年夏が座・高円寺2で開かれた。5、6日

・坂東彌十郎が東京・歌舞伎座の「八月納涼歌舞伎 第二部、歌、初世坂東好太郎の三十七回忌、兄、二世坂東吉弥の十三回忌追善狂言、修禪寺物語」で、夜叉王を初役で演じた。9〜27日

・劇団民藝が稽古場公演、人種や宗教など異なる文化の人間同士が直面する葛藤を描いた芝居「負傷者16人（ユダヤ系米国人のエリアム・クライエム作）」を上演した。団員の西部守が企画、演出家デビュー。稽古場公演は市民に民藝を知ってもらう目的で93年に始まった。9〜13日、川崎市麻生区の稽古場内スタジオM

・創立80周年を迎えた日本演劇教育連盟は第66回全国演劇教育研究会in東京を開催した。子どもの劇の上演とシンポジウム「すべての子どもに演劇教育を!」地域で「学校で」。8、9日、東京家政大学板橋キャンパス

・劇団「大人計画」を主宰する松尾スズキ作・演出の「業音」が初演以来15年ぶりに、新たなキャストで上演された。10〜9月3日、東京芸術劇場シアターイースト 名古屋、福岡、大阪、松本で

上演後、10月5〜7日、バリ・フェスティバル・ドートンヌ参加(初の海外公演)
 ・日本演出者協会による演出家・俳優養成セミナー2017 演劇大学inやまがたが開かれた。11〜13日、山形市市民会館

・文化芸術の魅力で地域のにぎわいをつくりだす「神奈川県地劇ミュージカル」公開コンペで1月に優勝した「地劇ミュージカル『日本国 横浜 お浜様』」が上演された。演出家・舞台監督の笹浦暢大と劇作家の河田唱子による本牧「チャブ屋」の歴史を題材にしたオリジナル。12、13日、横浜・神奈川県立青少年センターホール

・ドイツ演劇界の大ヒット作「チック」が日本初演。ヴォルフガング・ヘルンドルフ原作、ロベルト・コアル上演台本 小山ゆうな翻訳・演出。柄本時生と篠山輝信が14歳の少年役を演じた。13〜27日、世田谷パブリックシアターシアタートラム。9月5、6日、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール
 ・文化庁、日本劇作家協会が劇作家と俳優のためのせりふの読みかたワークショップを川村毅(劇作家・演出家)を講師に迎え開催した。17日・22日 座・高円寺 18日・21日 東京芸術劇場

・犬や猫が年間約8万頭も殺処分されている中、殺処分をなくそうと青森県立三本木農業高校の動物科学科の生徒たちが、犬猫の骨を細かく砕き土に混ぜて肥料にし、花を育てて配り、啓発している。劇団銅鑼は生徒たちの活動を題材に「いのちの花」向井愛実・龍晴己原作 畑澤聖悟脚本 劇団青年座の齊藤理恵子演出)を舞台化、上演した。17〜27日、東京都板橋区の銅鑼アトリエ

・藤沢から芸術文化を発信している「遊行かぶき」が寺山修司作の「瓜の涙」を11年ぶりに上演した。18日には「遊行かぶきと瓜の涙」をテーマに特別シンポジウムを開いた。17、18日、藤沢市民会館小ホール

・創立80周年を迎えた日本演劇教育連盟が「全国演劇教育研究会in宮城 登米」を開催した。19、20日

・文化庁、日本演出者協会主催の国際演劇交流セミナー2017③インドネシア特集。アジアの演劇を学ぶシリーズ「舞台表現における身体と言葉」インドネシアを代表する俳優、作家、演出家のグナワン・マルヤントを講師に詩、テクストから身体表現へのプロセスを体験するワークショップ。24〜27日、東京芸術劇場シンフォニースペース(27日はリハーサル室) 30〜9月2日、福岡県立もち文化センター小ホール

・フランス芸術文化勲章の「オフィシエ」がダンサーで振付家の勅使河原三郎に授与され、叙勲式が24日、新作「月に吠える」の終演後に東京・池袋の東京芸術劇場で行われた。

・演出家の佐藤信が長年構想してきたという小劇場とスタジオ、宿を兼ね備えた複合施設「若葉町WHARF」(横浜市中区若葉町)で、滞在型プログラム第1弾「絶対飛行機2017」が上演された。20〜27日

・2011年から劇作家のケラリーノ・サンドロロウィッチがチェリホフ4大戯曲の上演台本と演出を担うシリーズの第3弾。「ワーニャ伯父さんのタイトルロールを段田安則が務めた。ソーニャ(黒木華)、セレブリャコフ(山崎一)、エレナ(宮沢りえ)。伏見螢によるギターの生演奏がそれぞれの心情を盛り上げた。27〜9月26日、東京・新国立劇場小劇場

・1980年創部の大妻中学高校(東京都千代田区三番町)の日本舞踊部。中学1年から高校1年までの16人が西川流師範の西川裕子の指導の下「美しく美しく」をモットーに稽古に励んでいる。2015年には全国高校総合文化祭の優秀校に選ばれた。

・31日、河野外相はジャニーズの人気タレント、滝沢秀明に日本とアラブ首長国連邦(UAE)の親善大使を委嘱した。任期は1年間。日本文化を紹介する行事などに出席する。

九月

・初代中村吉右衛門の功績を顕彰する

恒例の「秀山祭九月大歌舞伎」が10回目を迎え、当代吉右衛門は「極付幡随長兵衛」と「ひらかな盛衰記 逆櫓」に出演した。1〜25日、東京・歌舞伎座
 ・文化庁、日本演出者協会主催の演劇大学in 函館が函館アリーナで開催された。1〜3日

・2日、横浜能楽堂が能舞台を使って新たな創造を目指す「能舞台とコラボ」の企画。ジャンルの異なる3人のダンサー(舞踏の笠井劔、クラシックバレエの中村恩恵、コンテンポラリーダンスの鈴木ユキオ)と能の囃子方の長山凜三がダンス作品「左右」で競演した。ジャパソサエティーとの共同制作による能の「翁」と「羽衣」に基づく新作。ドナルド・キーンが原案指導。イタリア出身の振付家、ルカ・ベジエッティが振付・演出。藤田六郎兵衛(笹と大倉源次郎)小鼓が作曲。

・盟友の浅利慶太が、5月に亡くなった劇団四季創設者の一人(下武史)の追悼公演「思い出を売る男」(加藤道夫)を演出、上演した。日下が演じた乞食役は山口嘉三。6〜10日、東京・自由劇場

・東京バレエ団がビゼーの音楽によるバレエ「アルルの女」を全編初演した。8〜10日、東京・東京文化会館
 ・関西の女優たちが所属団体の枠を超えて作る「大阪女優の会」。「戦争の経験を風化させない創造活動」と、2003年から、毎夏、朗読劇を上演し

てきた。15回目となる今回は、演劇に
対する検閲、放送禁止歌、現代の紛争
などに光を当て、岩崎正裕、小原延
之、伊地知克介の3人が脚本を担当し
た。8〜10日、大阪・ドーンセンター
・ノンフィクション作家の堀川恵子が
『戦禍に生きた演劇人たち』演出家・
八田元夫と、『桜隊』の悲劇』を出版し
た。桜隊の演出家だった八田元夫の人
生をたどり、彼の視点から戦前、戦
中、戦後に至る新劇史を立体的に描い
た。

・日本近世演劇を研究すること半世
紀。武井協三が、約5年を費やし『歌
舞伎とはいかなる演劇か』を出版し
た。歌舞伎の本質として①かぶき者②
当代性③断片性④好色性⑤饗宴性⑥女
方⑦見立ての七つ概念を抽出して
論述。

・井上ひさしが創作したこまつ座の舞
台『円生と志ん生(鶴山仁演出)』に、ラ
サル石井が志ん生役で出演した。円
生は大森博史。8〜24日、東京・新宿
の紀伊國屋サザンシアターTAKAS
HIMAYA 30〜10月1日、西宮
8日、仙台
・9日、日本新劇製作者協会賞を受賞
した鈴木瑞穂が、同会の研究会で『新
劇とは、その精神とこれからの課題』
と題して講演会をおこなった。新宿の
芸能花伝舎

・9日、狂言師の野村萬斎が作家、石
牟礼道子の新作狂言「なごりが原」を演

出、シテとして出演した。構成は笠井
賢一。熊本県立劇場

・劇団昂の俳優自らが企画・制作する
『ザ・サード・ステージ』が、劇団チヨ
コレイトケイキの劇作家・古川健と演
出家・日澤雄介を招き、書き下ろし作
品『幻の国』を上演した。文芸作品の多
い劇団昂の俳優が社会派劇に挑戦。12
〜24日、東京・Pitpit

・文化庁、日本演出者協会の国際演劇
交流セミナー2017④フランス特
集。パネリストにロラン・クルタン
(演出家、俳優、トレナー)を招聘し、
〈声〉をめぐるワークショップとシンポ
ジウムを実施した。14〜18日、東京・
新宿のラ・ケヤキ

・脚本家岡田恵和が舞台2作目『ミッ
ドナイト・イン・パリ』史上最悪の結
婚前夜〜(深川栄洋演出)を書き下ろ
してきた人たちに光を当てた。15〜29
日、東京・シアタークリエで上演後、
静岡、愛知、大阪、福岡、鹿児島、山
口、岡山、新潟、岩手、千葉、石川各県
でも上演。

・15日、宝塚大劇場(兵庫県宝塚市)の
舞台を彩る緞帳が8年ぶりに新調さ
れ、公開された。緞帳は開演、幕間、終
演用の3種類があり、このうち1枚が
新しくなった。

・第45回大阪劇団協議会フェスティバ
ルが10の劇団が参加して開かれた。16
〜2018年1月21日

・19日、人形浄瑠璃文楽座の人形遣
い、吉田幸助が、記者会見。2018
年4月に祖父の三代目吉田玉助の名
跡を継ぎ、『五代目玉助』を襲名する。
『四代目玉助』は2007年に死去し
た幸助の父の二代目吉田玉幸に追贈さ
れる。

・俳優座代表の岩崎加根子が2年ぶ
りに本公演に出演した。詩森ろば(風
琴工房)と初タッグを組み、書き下ろ
し作品『海の凹凸(真鍋卓嗣演出)』を
上演。水俣病に立ち向かっていく人々の
姿が描かれる。岩崎が演じるのは石邑
水奈子。『苦海浄土』などを著した石牟
礼道子をイメージして描かれた。20
10月1日、東京・俳優座劇場

・高齢者が輝けば、世界はもっと楽し
くなる!世界のムーブメントをつな
ぎ、交流によって熱気と知見の交換・
発展を目指した『世界ゴールド祭』が開
催された。超高齢社会に突入した今、
そして未来に向けて、芸術文化は何か
できるのか。劇場は地域に何をもちら
すことができるのか。多くの先進的な
プログラムを擁する英国の事例を紹介
し、彩がその可能性を探った。21〜24
日、彩の国さいたま芸術劇場小ホール

・英国の女性作家バージニア・ウルフ
の傑作『オーランド』(白井晃演出)
が、日本初演。一夜にして女性へと変
貌し、時を越えて真実の愛を追求する
美貌の青年貴族オーランドに多部未
華子が主演。オーランドを愛するエ

リザベス女王に小日向文世が出演。サ
ラ・ルール翻案・脚本。小田島恒志・
小田島則子翻訳。23〜10月9日、横
浜・K A A T神奈川芸術劇場で上演
後、松本、西宮、東京でも上演。
・2018年に『松本白鷺』を襲名す
る松本幸四郎が幸四郎名での歌舞伎以
外の劇への最後の出演となる『アマデ
ウス(ピーター・シェファー)』に主
演・演出した。24〜10月9日、東京・
サンシャイン劇場で上演後、大阪、久
留米でも上演。

・24日、ロンドンの大英図書館に1冊
だけ残る『幻』の浄瑠璃本『越後国柏崎
弘知法印御伝記』が、本年6月のロン
ドン公演を経て、ゆかりの地・新潟県
柏崎市で上演された。

・劇団若獅子 結成三十周年記念公演
『新劇百年』に猿之助が賛助出演し
た。澤田正二郎の演出による、名作『二
本国定忠治』と『月形半平太』が上演さ
れた。笠原章、伊吹吾郎、瀬戸摩純ら
が出演。25日、横浜・杉田劇場。26、
27日、東京・新橋演舞場で上演後、愛
知、大阪でも上演。

・25日、JR大阪駅前の旧大阪中央郵
便局跡地、西梅田スクエアに、吉本興
業の新劇場『よしと西梅田劇場』が開
館した。新劇場は平屋建てで席数7
00。

・27日、ベテラン講談師の神田紅が芸
道40年を迎え、記念の独演会を開い
た。東京・国立演芸場

・新宿区の漱石旧居跡に「漱石山房記念館」が24日に開館するのに合わせ、愛媛の地域密着型劇場「坊ちゃん劇場」が初の東京公演を果たした。文豪夏目漱石と俳人正岡子規の生誕150周年を記念したオリジナルミュージカル「52 days × 愚陀仏展」、二人の文豪と。脚本・演出は宝塚歌劇団の石田昌也。27、28日、新宿文化センター

・文化庁、日本演出者協会主催の日本の近代戯曲研修セミナーin札幌2017は北海道出身の劇作家久保菜の「林檎園日記」に焦点を当てて研究した。27、10月1日、シアターZOO

・高齢者介護をテーマにした舞台を統ける演劇集団「ピット番長」が認知症になっても鮮やかな記憶とシルバード世代の意味を掛け合わせたタイトル「ギンノキヲク」を上演した。豊島区のあるすぼつとで「介護福祉フェス」として行われた。29、31日

・10回目を迎える国際舞台芸術祭「フェスティバル／トーキョー17」が開幕した。東京芸術劇場など10会場で、国内外の14主催作品を上演した。30、11月12日

・2008年から毎年、海外で落語公演を続ける三遊亭竜楽。使用するのは英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、中国語。渡航先の言語で口演し、字幕も通訳もつけない。笑いのツボや反応の仕方にお国柄を感じながら、これまで九

カ国の約五十都市で約百七十公演を重ねている。

・「日本新劇全集 第一巻 明治〜終戦（白水社）演劇評論家大笹吉雄著発刊。全3巻を予定。明治から昭和の終わりまでの新劇の通史を描く。新劇を「劇」という芸術形式に対する革新を持続的に目指す演劇」と定義。

十月

・世界三大叙事詩の一つといわれる古代インドの神話的叙事詩「マハーバーラタ」が新作歌舞伎「極付印度伝 マハーバーラタ戦記」(青木豪脚本、宮城聰演出)として上演された。主演の尾上菊之助は2014年にK.A.A.T(神奈川芸術劇場)で見たこの叙事詩を題材にした宮城演出の舞台をきっかけに歌舞伎化を構想した。東京・歌舞伎座の「芸術祭十月大歌舞伎(昼の部)10月1、25日

・歌舞伎俳優の片岡仁左衛門が四代目鶴屋南北作の仇討物「通し狂言 霊験亀山鉾」亀山の仇討)に主演した。東京・国立劇場では15年ぶりの再演。藤田水右衛門・古手屋八郎兵衛の二役で悪の華を咲かせた。3、27日

・李麗仙が源氏物語に題材を採った能「葵上」と「野宮」を一体化して創作、上演台本を書き下ろした「六条御息所」(等井賢一演出)が上演された。李は御息所を演じ、文学座の小林勝也が旅僧

役で出演した。語は野村四郎が声で出演。5、8日、東京・鉄仙会能楽堂

・新国立劇場開場20周年記念公演「トロイ戦争は起こらない」(ジャン・ジロドゥ作、栗山民也演出)が上演された。王子エクトルを演じた鈴木亮平は「歴史に名を残す英雄はみんな侵略者。僕は戦争を止めた名もなき人物こそヒーローだと思っています」と言う。弟パリス(川久保拓司)ギリシャ王妃エレノ(一路真輝)。5、22日、東京・新国立劇場中劇場

・初演、再演と好評を博したスパー歌舞伎II「ワンピース」(尾田栄一郎原作、横内謙介脚本・演出、市川猿之助演出)市川猿翁スパーババイヤザ)が10、11月の2ヶ月にわたり、上演された。新企画として、若手を抜擢した特別マチネ「麦わらの挑戦」を上演。6、11月25日、新橋演舞場

・熊川哲也が率いる「Kバレエカンパニー」が「クレオパトラ」(熊川演出・振付)を世界初演した。6、9、28、29日、東京・Bunkamuraオーチャードホール 12日、愛知県芸術劇場 14日、大阪・フェスティバルホール 20、22日、東京文化会館大ホール

・俳優・スタッフが岐阜県可児市に滞在しながら作品を制作し、全国へ発信する可児市文化創造センター「Area Collection」シリーズ第10弾。過去の優れた戯曲を再評価、岸田

部作「坂の上の家」(高橋正徳(文学座)演出)が上演された。文学座の亀田佳明、鈴木陽丈、大野香織らが出演した。6、12日、可児市文化創造センター小劇場 14、15日、筑後 16日、長岡18日、小野 21日、阪野 26日、舞鶴11月3、10日、東京・吉祥寺シアター

・文化庁、一般社団法人日本演出者協会主催の演出家・俳優養成セミナー「演劇大学inさかい」で坂出市勤労福祉センター・市民ふれあい会館で開かれた。7、9日

・わかぎるぶが、「わ芝居」シリーズとして、落語も含めた古典芸能と小劇場の交流の場を設けた。わかぎの作・演出で、新作時代劇を芝居と落語で別々に披露する「わ芝居」その壱「カラサワギ」。主宰する、リリパットアミーIIの劇団員らが出演する芝居版と、桂吉弥と笑福亭銀瓶が語る落語版が交互に上演された。7、15日、大阪・東心斎橋のウイングフィールド 21、29日、東京・下北沢のシアター711

・9日、午後3時15分ごろ、新橋演舞場でスパー歌舞伎II「ワンピース」に出演していた市川猿之助の衣装が、電動式の昇降装置「せり」に乗って舞台上に降りる際巻き込まれ、猿之助は左腕を骨折し、病院に運ばれた。診断は全治6か月。骨が皮膚を突き破る左腕の開放骨折だった。10日以降の公演は尾上右近が代役。

・歌舞伎俳優の尾上松也が、落語家桂

9日、午後3時15分ごろ、新橋演舞場でスパー歌舞伎II「ワンピース」に出演していた市川猿之助の衣装が、電動式の昇降装置「せり」に乗って舞台上に降りる際巻き込まれ、猿之助は左腕を骨折し、病院に運ばれた。診断は全治6か月。骨が皮膚を突き破る左腕の開放骨折だった。10日以降の公演は尾上右近が代役。

歌丸の人生をドラマ化したBS日テレ「BS笑点ドラマスペシャル 桂歌丸」(10月9日放送)に主演した。若き日の歌丸を演じた。

・移動式の組み立て舞台で上演するプロジェクト「つぼん文案」(日本財団主催)が5回目を迎え人形遣いの吉田和生、吉田玉男らが出演して上演された。演出は「万才・関寺小町」と、増補大江山」。創立130年を迎えた東京芸大も参加練り歩いた。14〜17日、東京・上野公園の噴水前広場。

・「市川海老蔵 古典への誘い」公演が全国17か所で開催された。12〜14日、熊本県八千代座 17〜19日、高知県弁天座 21日、成田 23日、北九州 25日、松山 30日、宮野湾 11月11日、奈良 12日、守山 13日、神戸 14、15日、豊橋 18日、山形 19日、郡山 21日、川崎 22日、松戸 23日、水戸 24日、群馬 25日、長野

・名取事務所が「奈落のシャイロック」(堤春恵作、小笠原響演出)を上演した。明治時代、歌舞伎俳優として初めてシェイクスピア劇に挑んだ二代目市川左團次らを巡る物語。13〜22日、東京・下北沢の小劇場B1

・ジャパソサエティが1〜10周年を記念して横浜能楽堂との共同制作「SAYUSA「左右左」」をアメリカ初演した。13、14日、米ニューヨーク、マンハッタン。ジャパソサエティ・国内外の先鋭的な舞台作品を紹介す

る「KYOTO EXPERIMENT 2017」(京都国際舞台芸術祭)が開催された。8日目を迎え、11の公式プログラムが京都市内各所で上演され、中韓のアーティストも初参加。14〜11月5日

・仲代達矢率いる、無名塾がブレヒトの戯曲で戦場が舞台の「肝っ玉おっ母と子供たち」(丸本隆訳、降呂演出)、池辺晋一郎音楽を上演した。仲代は1988年初演時に初めて女優を演じて話題となったおっ母役に再度挑んだ。14〜11月12日、石川県七尾市の能登演劇堂

・白石加代子の俳優生活50周年記念公演は、佐野史郎との2人舞台「笑った分だけ、怖くなるvo1・2」。筒井康隆「乗越駅の刑罰」と井上荒野「ベコン」の2作で2人が瞬時に何人もの役を演じた。小野寺修二演出。17〜22日、東京・あうるすぽっとで上演後、愛知・新潟、北海道、埼玉、東京、大阪、兵庫、神奈川、茨城、富山各県で上演。

・ルーミアのシルビウ・ブルカレリテの演出・上演台本の「リチャード三世」(シェイクスピア作 木下順二翻訳)に佐々木蔵之介が主演した。キャストは渡辺美佐子を除き、全員男性。18〜30日、東京芸術劇場プレイハウスで上演後、大阪、盛岡、名古屋でも上演。

・劇作家、横山拓也が主宰する演劇ユニット「iakū」が新作「ハイツブリ

が飛ぶのを」(上田一軒演出)を上演した。廃屋となった仮設住宅に記憶障害となった一人の女性が行方不明の夫を待っているという設定。「頼るものがない生活の中で、人が何を大切にしていきていくのかを浮かび上げさせた」と横山。19〜24日、東京・こまばアゴラ劇場 11月2〜6日、大阪・ウインフィールド

・創立80周年を記念して文学座代表の江守徹が、初の別役実作品「鼻」(鶴山仁演出)に挑戦した。別役がロスタンの「シラノ・ド・ベルジュラック」の構造を下敷きに1994年に劇団に書き下ろした不条理劇。21〜30日、東京・紀伊國屋サザンシアターTAKAZUMIA 11月5日、八尾プリズムホール

・21日、能楽観世流シテ方の浅見真州が「道成寺」の原曲「鐘巻」を25年ぶりに再演した。東京・国立能楽堂

・「ショールカンパニー」(阪上めいこ代表)がミヤコ蝶々を描いた大阪弁ミュージカル「蝶々さんの日記」を上演した。笑福亭生喬らが出演。21、22日、大阪・近鉄アート館

・文化庁と日本演出者協会主催による第16回「日本の近代戯曲研修セミナー」(N東京が開催された。今回は木下順二の「風浪」(福田善之演出)を課題戯曲として研修、リーディング&シンポジウムを行った。23〜11月5日、東京・芸能花伝舎

・作曲家の三枝成彰が新作オペラを初演した。作家・林真理子の書き下ろし台本によるオペラ「プッファ」(狂おしき夏夏の一曰く)フィガロの結婚、または狂おしき日「ぼらの騎士」へのオマージュ。作詞家の秋元康がオペラ初演出、舞台美術千住博、演奏は大友直人指揮、新日本フィルハーモニー交響楽団、三枝オペラ8作目にして初

・日本劇作家協会がワークショッップ「俳優のための戯曲レッスン」をおこなった。講師・渡辺えり、中津留章仁、マキノノゾミ、古川貴義。27〜12月4日、東京・芸能花伝舎 創造スペースB1a

・29日、マルティン・ルターによる宗教改革から500年になるのを記念して、「楽劇「ルター」文案とルネサンス・ダンスの邂逅」が上演された。宗教改革に突き進んだルターの情熱を豊竹呂太夫と竹澤團吾が素浄瑠璃で語り、修道院を脱走してルターと結婚した妻カタリナの半生をダンサーの湯浅宣子がルネサンスダンスで表現した。ルーテリ学院大学の上村敏文准教授が詞章と演出を手がけた。大阪・日本福音ルーテル大阪教会

・29日、アンステイチュ・フランセ関西の創立90周年を記念し、フランスの劇作家・詩人、ポール・クロデルの戯曲「女と影」を翻案した新作能「面影」

が上演された。金剛流宗家の金剛永誼がシテ、若宗家の龍謹がツレを務めた。能楽ワキ方高安流の有松遼一ほか、詞章を監修し、能に書き改めた。京都・金剛能楽堂

十一月

・劇団文化座が乃南アサ原作の小説「しゃぼん玉」を舞台化上演した。斉藤祐一、西川信廣演出。自暴自棄になり、犯罪を繰り返していた青年が、山奥の村で優しさに触れ、変貌する。青年の翔人を藤原章寛が演じた。25日、東京・シアター1118

・戦時下最大の思想・言論弾圧とされる「横浜事件」を劇団「青年劇場」が舞台化し、「事件」という名の事件という作品名で上演した。特高に逮捕された当時の中央公論編集長、故藤田親昌の長男で劇作家のふじたあさやが書き下ろし、演出も担当した。25日、新宿区の青年劇場スタジオコト

・国際交流基金バンクオク日本文化センターとチュラロンコン大学文学部演劇学科は、日タイ友好130周年を記念し国際交流基金アジアセンター事業として、日タイ現代演劇共同制作「バンクオクト」公演を開催した。平田オリザの代表作「東京ノート」のタイ翻案版。タイの演劇界を代表するベテランの俳優・女優から現役の大学生まで、総勢21名のキャストで上演。25

4日、9日、11日、チュラロンコン大学文学部演劇学科ソツサイパントウム・コーモン劇場

・「中村勘九郎 中村七之助全国芝居小屋錦秋特別公演2017」が、全国に現存する芝居小屋のうち八か所で開催された。3日、岐阜県 かしも明治座 4日、岐阜県 東座 5日、岐阜県 相生座 10日、11日、香川県 金丸座 14日、愛媛県 内子座 16日、17日、熊本県 八千代座 18日、19日、福岡県 嘉穂劇場

25、26日、群馬県 ながめ余興場

・オランダの劇団が上演するイボ・パン・ホーベ演出の「オセロー」が、日本初演された。黒人が演じるオセローが一般的だが、ホーベは白人の俳優ハンス・ケステイングを起用した。「肌の色は関係ない。潜んでいる人種差別を掘り起こせたら良い」。3日、5日、東京芸術劇場プレイハウス

・国立劇場で長谷川伸作「沓掛時次郎」と山本有三作「坂崎出羽守」の新歌舞伎2本が上演された。「沓掛時次郎」の歌舞伎上演は1976年4月に明治座で三代目市川猿之助(現二代目猿翁)が主演して以来、41年ぶり。中村梅玉が博徒の時次郎を初役で演じた。「坂崎出羽守」では尾上松緑が悲運の武将出羽守を初役でつとめた。祖父から父へと引き継がれた「尾上松緑家」ゆかりの役柄。81年、東京・歌舞伎座で初代辰之助(三代目松緑)が演じて以来36年ぶりの上演。3日、26日

・近畿最古の芝居小屋、兵庫県豊岡市の出石永楽館で10回目となる「永楽館歌舞伎」が上演された。片岡愛之助を座頭に「仙石騒動(水口一夫作・演出)」が新たな構想のもと、約130年ぶりに上演された。ほか、「弥栄出石賑」。

・劇団昂が「ポーランドの人形遣い」(シル・セガル作、角山元保訳、村田元史演出)を上演した。主演の中西陽介は人形を遣いながら、家族、収容所仲間、ナチなどを演じた。9日、26日、東京・Pit 昴

・オフィスコット・ネのプロデュースで、オマチの嘘や駆け引きをスリリングに描く「取引、THE DEAL」(マシュー・ウイッテン作、名和由理翻訳、松本祐子(文学座)演出)が上演された。おとり捜査でわなにかげようとするFBI捜査官ビクターを田中荘太郎が演じた。男性ばかり4人の芝居。10日、20日、東京・シアター711

・ケラリノ・サンドロウイッチ(KERRA)が主宰する劇団「ナイコン100°C」の3年ぶりの新作「ちよつと、まっつてくたさい」が上演された。10日、12月3日、東京・本多劇場で上演

後、三重、兵庫、広島、福岡、新潟各県で上演

・12日、歌舞伎俳優の中村芝翫が、最新の情報通信技術を使い、先斗町歌舞練場と宮川町歌舞練場を結んで、別の劇場で踊る長男橋之助ら息子3人と

親子で「連獅子」を共演した。2020年の東京五輪・パラリンピックへ向け、その場にいるような臨場感のライブ中継を目指してNTTが開発中の映像技術を使った試み。

・12日、佐賀県小城市牛津町の住民による自主製作映画「ふたつの巨星」善蔵と与四右衛門」の演劇版が、同市の牛津産業まつりで上演された。牛津小学校6年生3人も演劇に初挑戦した。

・劇団前進座が1987年に初演した井上ひさし作の「たいごんどん」を30年ぶりに再演した。12日、埼玉、13日、福井、15日、三重 18日、長野・木曾 19日、長野・中野 20日、新潟 23日、新潟・柏崎 25日、青森・弘前 26日、青森・下北 27日、秋田 12月3日、福島 9日、岩手・大船渡 10日、岩手・宮古 12日、大分 13日、福岡・北九州 14日、福岡・八女 19日、兵庫

・川崎のアマチュア劇団「京浜協同劇団」が58年間の劇団史上初めて、不条理劇「で知られる別役実の脚本作品「病氣」に挑戦した。17日、19日、23日、25日、スペース京浜

・文化庁・日本演出者協会主催の演出家・俳優育成セミナー2017 演劇大学in大阪が開かれた。テーマは「表現の自由と私たちの演劇」17、22、24日、2018年2月7、10、18日、大阪・ドーンセンター

・「観る側も、演じる側も、バリアフリー」を理念に、福祉コメディを中心に演じてきた劇団演劇結ばつかりばかりが、旗揚げ10周年記念の舞台「悪い人じゃないんだけど：アナザー」（鈴木大輔戯曲・演出）を上演した。17、20日、東京・龍福寺会館

・クジラと捕鯨に関する作品を多く手がけてきた坂手洋二。主宰する劇団「燐光群」が創立35周年を迎え新作「くじらと見た夢」を上演した。17、26日、東京・高円寺1で上演後、名古屋、伊丹、岡山でも上演。

・青森県八戸市でオリジナルの舞台を創り続けている劇団やませが創立47年を迎え、八戸市制施行88周年を記念して、市長として八戸港築港の礎を築いた神田重雄を描いた舞台「海を拓く」―八戸築港 神田構想―（佐々木功作・演出）を上演した。17、18日、八戸市公会堂文化ホール

・ベテラン俳優・坂本長利、88歳。50年間、同じ一人芝居を演じ続けている。独演劇「土佐源氏」。老いた盲目の元馬喰が若き日の情事を見つめる舞台。依頼を受けて各地に出向く「出前芝居」を中心にこれまでの上演回数は1189回。同じ役を最も長く演じてきた俳優としてギネス世界記録に申請した。2018年2月1日、東京・高円寺2でも上演予定。

・文化庁・日本演出者協会主催の演出家・俳優育成セミナー2017演劇

大学いっおおいたが開かれた。23、25日、コンパルホール

・水戸芸術館ACM劇場プロデュース公演「斜交 昭和40年のクロスロード」（古川健一劇団チヨコレイトケキ）作 高橋正徳（文学座）演出）が上演された。1963年に起きた「吉展ちゃん誘拐事件」を解決した茨城県出身の平塚八兵衛刑事がモデル。23、26日、水戸芸術館ACM劇場 12月8、10日、東京・草月ホール

・世界的な舞踏家天児牛大が率いる舞踏カンパニー「山海塾」が新国立劇場に初登場。「海の賑わい 陸の静寂」めぐりを上演した。25、26日、東京・新国立劇場中劇場

・25日、師走恒例の歌舞伎公演「吉例 顔見世興行」を前に、出演者の名前を入れた看板を掲げる「まねき上げ」が、ロームシアター京都で行われた。南座が耐震工事中のため、会場を同シアターに移した。「まねき」が南座に掲げられないのは、松竹が南座の運営を始めた1906年以降初めて。

・25日、東京・新橋演舞場で、人気公演「スーパードンパル」が千秋楽を迎えた。同公演の事故で左腕を骨折し休演していた歌舞伎俳優市川猿之助がカーテンコールに登場した。尾上右近が代演したが、客足は衰えず、松竹によると全78公演で10万人超を動員した。

・1957年12月に「北九州労演」と

して発足した演劇鑑賞団体「北九州市民劇場（5343人）が創立60周年を迎え記念祝賀会を催した。榎山文枝（劇団民藝）、川口敦子（俳優座）、栗原小巻（エイコーン）ら、約300人が出席し、支援に感謝し祝った。

・26日、台風21号で床上浸水などの被害に見舞われた三重県度会郡玉城町で、「開催される」と演劇フェスティバル」が開催された。演劇を通じて世代を超えた交流を深め、町の活性化につなげようと「たまき演劇愛好会」が毎年主催している。21回目の演目は「幸せだんご ことぶき町（美並文美会長による脚本、中北幸宏演出。小学生から70代後半まで約40人が出演した。玉城町中央公民館ホール

・27日、能楽囃子葛野流大鼓方家元の亀井広忠、歌舞伎囃子田中流家元の田中傳左衛門、田中流の田中傳次郎の3兄弟が主宰する「第9回三響會20周年記念公演」が東京・観世能楽堂で催された。

・現代の海外戯曲の上演や、日本の演劇のルーツとされる名作を現代演劇として再構成する上演に取り組んでいる劇団「エイチエムビー・シアターカンパニー」が、鶴屋南北作品をベースにした「四谷怪談 雪ノ向コウニ見夕夢」（30、12月3日）と「盟三五大切」（12月7、10日）を連続上演した。くるみざわしん作。笠井友仁演出。女優版、男優版、混合の3バージョンで上演。兵

庫伊丹市のアイホール

・開館5年目の穂の国とよはし芸術劇場PLATは、芸術文化アドバイザーを務める平田満と井上加奈子のユニット「アルカカンパニー」との共同制作で「荒野」（桑原裕子（KAKUTA）主宰）作・演出）を上演した。来年（2018年）は、桑原は平田に代わり芸術文化アドバイザーに就任。30、12月6日、豊橋 9、10日、北九州 14、22日、東京・SPACE雑遊

十二月

・2012年に歌舞伎界入りした市川中車。歌舞伎座の「十二月大歌舞伎」で上方落語が原作の「らくだ」の紙屑屋久六、14年に日本演劇協会の「演劇人祭特別篇」で朗読劇として玉三郎（母水熊のおはま）と演じた「臉の母」長谷川伸作の「股旅物」の番場の忠太郎と同じ配役で初演した。また夢枕獯の舞踊「楊貴妃」（玉三郎）では方士をつとめた。2、26日

・2日、横浜みなとみらい21地区で地域に親しまれてきた短編専門の映画館「プリリアシヨントシヨートシアター」が入居するマンションの10年間契約満了に伴い、閉館した。代表を務める俳優の別所哲也は、今後も横浜市で映画祭を開くなど、横浜との縁を大事にしつつ、ウェブ上での短編映画上映など次のステップを目指すという。

・短い場面の積み重ねで主題を浮かび上がらせる「構成演劇」に取り組んできた仙台市の劇団「仙台シアターラボ」(野々下孝代表が関西で初公演。芥川龍之介の短編小説をカラージュシ、地方都市における芸術のあり方を描く舞台「特別な芸術」)。2、3日、兵庫県尼崎市のピッコロシアター中ホール

・中村吉右衛門が初代吉右衛門が得意とした梅の由兵衛を初役で演じた。並木五瓶作「隅田春妓女性性 御存梅の由兵衛」3、26日、東京・国立劇場

・「屋根の上のヴァイオリン弾き」が日本初演50周年を迎え記念公演が、市村正親と風蘭の夫婦役で演じられた。演出は寺崎秀臣。5、29日、東京・日生劇場 2018年1月、2月、大阪、静岡、愛知、福岡、埼玉でも上演。

・日韓文化交流企画世田谷パブリックシアター開場20周年記念公演・世田谷パブリックシアターと兵庫県立芸術文化センターの共同制作公演「ペール・ギュント」が日韓20人のキャストで上演された。上演会場・演出は、韓国のみならず世界的に活躍し、平昌冬季五輪開閉会式の演出も手がけたヤン・ジョンウン。夢みがちな青年(浦井健治) 母(マルシア) ソールヴェイ(趣里)。6、24日、東京・世田谷パブリックシアター 30、31日、兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール

・加藤健一事務所が第100回公演となる「夢一夜」(カトリヌ・フィ

ユイ作 常田景子訳、堤泰之演出)を上演した。LGBTなど性的少数者らさまざまなマイノリティーの立場の人々にスポットを当て、アイデンティティーを問いかける作品をコメディータッチで描いた。日本初演。加藤が演じたのはクロストレッサーとも呼ばれるトランスベスドライター(異性装)。6、17日、東京・紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYA

・南河内万歳一座の座長をつとめる内藤裕敬が、2010年に初演された作品「びつくり仰天街」を大幅に書き直して再演。「作家としての軋機」になった作品。未熟だった部分を磨き上げ、より踏み込んだ展開にしたい」と語る。7、12日、大阪・一心シアター倶楽

・劇団青年座が劇作家・中津留章仁(トラッシュマスターズ)の新作「断罪」(伊藤大演出)を上演した。芸能事務所を舞台にいびつな管理社会に生きる人々を描いた。8、17日、東京・青年座劇場

・演劇ユニット「ブス会*」が谷崎潤一郎作「痴人の愛」を現代に変え、男女の設定も逆にした「男女逆転版・痴人の愛」を上演した。主宰のペヤンヌマキが脚本・演出を手掛けた。8、19日、東京・こまばアゴラ劇場

・横須賀市を拠点に活動するアマチュア劇団「横須賀市民劇場プロジェクト」が創立10周年を迎え記念公演「不思議の国のアリス」(羽賀義博代表演出)を

上演した。中学生から60代まで約20人が出演した。8、9日、横須賀市文化会館

・11日、「松本幸四郎」家の親子孫3代が2018年1月にそろって襲名するのに伴い、襲名興行の成功を祈願する「お練り」が浅草寺で行われた。高麗屋の3代襲名は37年ぶり。

・12日、18世紀フランス革命を題材にした新作能「薔薇に魅せられた王妃」現代能 マリー・アントワネット」が初演された。脚本・植田紳爾演出・植田紳爾、振付・梅若玄祥、長唄創作・藤岡勘十郎、アントワネットの亡霊(梅若玄祥)、恋の相手フェルゼン(福王和幸)。宝塚歌劇団出身の未沙のえる、北翔海莉も出演。東京・国立能楽堂

・彩の国さいたま芸術劇場のシエックスピア・シリーズ2代目芸術監督となった吉田鋼太郎が、33作目で、上演頻度の少ない「アテネのタイモン」に主演、演出も担った。15、29日

・16日、日本の「チェコ文化年」を記念し、横浜能楽堂は、特別企画公演「川本喜八郎の世界―人形劇・能・人形アニメーション」を上演した。演目は川本の人形アニメーション「火宅」、能「求塚」、そしてチェコのアルファ劇団による新作人形劇「トルンカのサーカス」・IS(イスラム国)の支配下で横行している「結婚ジハード」の一端を描いたリーディング舞台「朝のライラック

(ダライシユ時代の死について)」「ガンナム・ガンナム」作 眞鍋卓嗣演出が初演された。国際演劇協会日本センターが企画制作する「紛争地域から生まれた演劇」シリーズの一環。16、17日、東京芸術劇場アトリエウエスト

・「日本新劇俳優協会 F e s t i v a l 2017」が東京練馬区のプレヒトの芝居小屋を会場に開催された。一、会員による作品発表。二、協会企画の上演 立休朗読 永井荷風作「買出し」鶴澤秀行(文学座)構成・演出

★お話を聞く会 ゲスト・津嘉山正種(青年座)対談者・岩倉高子(青年座) 19日のみ 18、19日

・日中国交正常化45周年を記念して、日本と中国の伝統芸能が「楊貴妃」という同じテーマで競演した。19、20日、東京・国立能楽堂

・狂言師の野村萬斎。「狂言は笑いのためだけにあるわけではない。狂言の種類(囃)を示せる作品にしたい」と作家池澤夏樹台本の新作「狂言」に主演、演出した。萬斎は、「鮎に人格を与えて、自然と人間との調和を具現化させる。新しい発想だ」と話す。22、23日、東京・国立能楽堂

・ひきこもりや無職の若者たちが全13日間の演劇体験(合宿、ワークショップ、稽古や発表会など)で自立・就労支援につなげる「若者演劇ワークショップ」。日本劇団協議会が、文化

庁の委託事業として始めた。東京クラスは劇団銅鑼の俳優が講師をつとめた。23日、劇団銅鑼のアトリエで発表会があり「Big brother」（銅鑼の小関直人作）が上演された。終

戦直後、非行少年が出会いを通して立ち直っていく作品。20〜30代の男女6人が参加。
・大正末期に山春村（福岡県うきは市浮羽町）で医師だった安元知之が、農

民の修養や娯楽になるようにと村の青年たちと結成した日本初の農民劇団「嫩葉会」。約90年前に建設した野外円形劇場が復元された。

平成二十九年 雑誌掲載戯曲

2017年1月〜12月

演劇雑誌「悲劇喜劇」早川書房刊

・柳家喬太郎 新作落語五選「同棲したい」「ハンバーグができるまで」「抜げガヴァドン」「謀報員メアリ」「ハワイの雪」

1月号掲載
・「お勢登場」 作・演出||倉持裕 原作||江戸川乱歩（公益財団法人せたがや文化財団公演上演台本）

3月号掲載
・「キネマと恋人」 台本・演出||ケラリノ・サンドロヴィッチ（公益財団法人せたがや文化財団公演上演台本）

5月号掲載
・「怒りをこめてふり返れ」 作||ジョン・オズボーン 翻訳||水谷八也 演出||千葉哲也（新国立劇場公演上演台本）

7月号掲載
・「天の敵」 作・演出||前川知大（イキウメ公演上演台本）

7月号掲載
・「オーランド」 作||ヴァージニ

ア・ウルフ 翻案・脚本||サラ・ルーレル 翻訳||小田島恒志 小田島則子 演出||白井晃（KATAP×PARCOプロデュース公演上演台本）

9月号掲載
・「幻の国」 作||古川健 演出||日澤雄介（劇団昴ザ・サード・ステージ公演 Vol.1・35上演台本）

9月号掲載
・「ワーニャ伯父さん」 原作||アントン・チェーホフ 演出||ケラリノ・サンドロヴィッチ（ケラリノ・サンドロヴィッチ上演台本）

11月号掲載
・「わが兄の弟」 原作||アントン・チェーホフ 作||マキノノゾミ 演出||宮田慶子（劇団青年座第226回公演上演台本）

11月号掲載
演劇雑誌「テアトロ」カモミール社刊
・「挽歌」 作||古川健 訳||田尻陽一（トム・プロジェクト上演台本）

11月号掲載

2月号掲載
・「記憶のパスル」 作||森治美（森組芝居上演台本）

2月号掲載
・「海神の社」 作||野中友博（演劇実験室：紅王国 第拾四召喚式上演台本）

3月号掲載
・「ざくろのような」 作||中村暢明（第28回テアトロ新人戯曲賞・受賞作）

4月号掲載
・「芥島異聞」逆さ吊りの夢 作||響リュウ（萬国四季協会上演台本）

5月号掲載
・「白い花を隠す」 作||石原燃（Pカンパニー上演台本）

6月号掲載
・「新・盲人書簡」―野外劇 原作||寺山修司・岸田理生 改作・脚本||福田光一（ワーク・イン・プログレス 第11回岸田理生アバンギャルドフェスティバル上演台本）

6月号掲載
・「月読み右近の副業」（作||はせ

7月号掲載
ひろいち 劇団ジャブジャブサーキット・2017上演台本

7月号掲載
・「SCRAP」 作||シライケイタ（日本の演劇人を育てるプロジェクト 新進演劇人育成公演上演台本）

8月号掲載
・「海の凹凸」 作||詩森ろば（俳優座上演台本）

9月号掲載
・「神風―KAMIKAZE―」 作||田口萌（劇団球第20球真夏のプライベートル☆ジャージ公演）燃える魔球MOVIE75 上演台本

10月号掲載
・「よむだけ芝居」七月の夜の虹 作||阿藤智恵（えんげき）のじゅうじかん×caféゆいくと上演台本

10月号掲載
・「明日がある、かな」 作||中津留章仁（トム・プロジェクト上演台本）

11月号掲載
・「骨と肉」 作||中村暢明（JACROW#23上演台本）

12月号掲載

優秀新人戯曲集2018

劇作家協会編

・「精神病院つばき荘」 作⇨くるみざ

・「黒いらくだ」 作⇨ピンク地底人3号

・「アカメ」 作⇨八敏健之介

・「下校の時間」 作⇨長谷川彩

・「うかうかと終焉」 作⇨出口明、大田雄史

季刊雑誌「高校演劇」高校演劇劇作研究会刊

・「ドリームボックス」⇨柵の向こうの天使たち」 作⇨伊藤弘成 ・「回転、または直進」 作⇨福田成

樹・「海に浮かぶお菓子工場」 作⇨柳雅之 ・「記憶の匂い」 作⇨林寛祐 ・「エルドラード2」 作⇨新宮正一

・「Smaller Town Legend」 作⇨浅田孝紀 ・「先生の話」 作⇨村山大輔 ・「RUN」 作⇨中原久典 ・「みえない、いと」 作⇨緋岡篝 ・「はば、ないすとらぶる」 作⇨高原良明

240号 2017夏

・宮城大会上演作品特集

・「流星ピリオド」 作⇨コイケユタカ ・「どうしても縦の蝶々結び」 作⇨林彩音 構成⇨村端賢志 ・「ストレンジスノウ」 作⇨安保健 ・「白紙提出」 作⇨磯部千

241号

・「たゆとうモノたち」 作⇨鶴見充展

・「秘密の花園」 作⇨中村勉 ・「2020年ユリコの旅」⇨子育てマニユアル次世代版」 作⇨安部いさむ ・「いのり」 作⇨ことりみゆき ・「全員集合」⇨やりたくねえことやつてる暇はねえ」 作⇨川

242号 2017秋

・「シンコちゃんの世界」 作⇨畑澤聖悟 ・「約束」 作⇨宮島宏幸 ・「風が吹いている」 作⇨向井瞬

・「CONTENTS」目次」 作⇨のまたたか ・「エミリー」 作⇨奥山重美

243号 2018冬

平成二十九年 演劇関係新刊書

平成29年(2017年)1月~12月の間に刊行された主な演劇関係新刊図書

― 演劇論、演劇評論、随筆、芸談、戯曲集―を収録した。

※書名、著者・編集者名、税込価格、出版社名の順に記載

《1月》
「教師」になる劇場 演劇的手法による学びとコミュニケーションのデザイン」 川島裕子(編著) 3024円
フィルムアート社
「演劇のジャポニスム(近代日本演劇の記憶と文化)」 神山彰(編) 4968円 森話社
「げき児童・青少年演劇ジャーナル17 特集子どもと演劇の今 小特集乳幼児

と舞台芸術」 児童・青少年演劇ジャーナル(げき)編集委員会(編集) 1296円 児童・青少年演劇ジャーナル(げき)編集委員会
「俳優の教科書撮影現場に行く前に鍛えておきたいこと」 三谷一夫(著) 1944円 フィルムアート社
「ジェイクスピアと異教国への旅」 山貴之(著) 4536円 英宝社
「ステージスクエアエストラ17 堂

本光「『Endless SHOCK』/屋良朝幸×福田悠太×松崎祐介(HINODE MOOK)」 900円 日之出出版
「STAGEnavi vol.12(2017)(NIKKOMOOK Tvnaviプラス)」 1000円 産経新聞出版
「劇場ってどんなところ？」 フロランス・デュカトー(文) 1728円

西村書店
 「ライブパフォーマンスと地域伝統・芸術・大衆文化（シリーズ・21世紀の地域）」 神谷浩夫（編） 2808円 ナカニシヤ出版
 「中村獅童のいざ歌舞伎へ（NHKテキスト趣味ときごと）」 中村獅童（案内役） 1080円 NHK出版
 「かぶき手帖 最新歌舞伎俳優名鑑2017年版 特集歌舞伎の新しい世紀」 日本俳優協会（編集） 1601円 日本俳優協会
 「パセオフラメンコ2017年2月号 グラナダ/ヌメロの常識マルチメディア/第19回ビエナル/十月花形歌舞伎 GOEMON/ファン・ソト/平松加奈」 792円 パセオ
 「歌舞伎勝手三昧」 浜田侑子（著） 2592円 未知谷
 「地歌舞伎を見に行こう（大人の学び旅）」 産業編集センター（編著） 1296円 産業編集センター
 「知らざあ言つて聞かせやしよう 歌舞伎名調子による男声合唱組曲」 千原英喜（作曲） 1620円 全音楽譜
 「歌舞伎に行こう！ 手とり足とり、初めから」 船曳建夫（著） 1620円 海竜社
 「三代目扇雀を生きたる」 中村扇雀（著） 1728円 論創社
 「タカラツカスベシャル2016 Music Succession to

Next (タカラツカMOOK) 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「倉本聰戯曲全集5 ノクターン」 倉本聰（著） 2700円 新日本出版社
 「DOLL 如月小春精選戯曲集2 如月小春が遺した美しい7つの物語」 如月小春（著） 4104円 新宿書房
 「フジタの白鳥 画家藤田嗣治の舞台美術」 佐野勝也（著） 3240円 エディマン
 「舞台芸術マネジメント論 聴衆との共創を目指して」 志村聖子（著） 3456円 九州大学出版会
 「能・狂言の誕生」 諏訪春雄（著） 3780円 笠間書院
 「能面の見たか 日本伝統の名品がひと目でわかる（JAPONISME BO OK）」 小林真理（編著） 2592円 誠文堂新光社
 「高倉健の背中 監督・降旗康男に遺した男の立ち姿」 大下英治（著） 1944円 朝日新聞出版
 「2月」
 「革命伝説・宮本研の劇世界」 日本演劇学会分科会日本近代演劇史研究会（編） 3456円 社会評論社
 「アーサー・ミラー3 みんな我が子／橋からのながめ（ハヤカワ演劇文庫）」 アーサー・ミラー（著）

1620円 早川書房
 「ブルガーコフ戯曲集新装版1 ソーヤ・ペーリツのアバート（日露演劇会議叢書）」 ミハイル・ブルガーコフ（著） 3456円 東洋書店新社
 「ブルガーコフ戯曲集新装版2 アダムとイヴ（日露演劇会議叢書）」 ミハイル・ブルガーコフ（著） 3456円 東洋書店新社
 「Sparkle VOL.29(2017) 特集須賀健太×木村達成×猪野広樹×遊馬晃祐×小波津亜廉×安里勇哉×黒羽麻璃央×畠山遼×小沼将太／崎山つばさ／舞台パタリロ！」（メディアポロイMOOK） 1700円 メディアポロイ
 「浅草オペラ舞台芸術と娯楽の近代」 杉山千鶴（編） 3024円 森話社
 「ステージスクエアVol.25 滝沢秀明×三宅健／滝沢歌舞伎2017／『Endless SHOCK』（HI NODE MOOK）」 900円 日之出出版
 「土方巽衰弱体の思想」 宇野邦一（著） 5616円 みすず書房
 「FREECELL特別号 表紙巻頭特集「うたの☆プリンスさまっマジ LOVEレジェンドスター」／舞台『ノラガミ〜神と絆〜』（KADOKAWA MOOK）」 1500円 ブレビジョン
 「日本の伝統芸能を楽しむ 歌舞伎」 矢内賢二（著） 3240円 偕成社

「女を観る歌舞伎（文春文庫）」 酒井順子（著） 648円 文藝春秋
 「日本音楽のなぜ？ 歌舞伎・能楽・雅楽が楽しくなる（放送大業叢書）」 竹内道敬（著） 1998円 左右社
 「筒井康隆全戯曲4 大魔神」 筒井康隆（著） 3996円 復刊ドットコム
 「どこじゃ？ かぶきねこさがしかぶきかわかるさがしもの絵本（講談社の創作絵本）」 瀧晴巳（文） 1728円 講談社
 「仮名手本忠臣蔵実話をもとにした、史上最強のさむらい活劇（ストーリーで楽しむ日本の古典）」 石崎洋司（著） 1620円 岩崎書店
 「愛之助日和」 片岡愛之助（著） 1512円 光文社
 「宝塚辞典宝塚歌劇にまつわる言葉をイラストと豆知識で華麗に読み解く」 春原弥生（著） 1728円 誠文堂新光社
 「宝塚ファーストフォトブック5 愛月ひかる（タカラツカMOOK）」 1800円 宝塚クリエイティブアーツ
 「聖火（講談社文芸文庫）」 モーム（著） 1404円 講談社
 「アラ・ベーン 闊秀作家の肖像」 福岡利裕（著） 7020円 彩流社
 「タウリス島のイフィゲニエ（AK RAIKAWA COLLECTION）」 ヨハン・ヴォルフガン

- グ・フォン・ゲート(作) 1188円 松本工房
- 「谷崎潤一郎全集第9巻 愛すればこそお国と五平藝術一家言」 谷崎潤一郎(著) 7344円 中央公論新社
- 「オンデマンドブック」【大活字本】近代作家による王朝物文学選(五) 古代々中世の説話等を素材にした物語(響林社の大活字本シリーズ) 倉田百三(著者) / 芥川龍之介(著者) / しみじみ朗読文庫(編集) 3024円 響林社
- 「W!VOL.13 ドラマ&舞台」男水!完全SPECIALキャスト10人登場!! 巻末SP 鈴木拓樹x植田圭輔・東啓介・荒牧慶彦(廣済堂ベストムック) 1998円 廣済堂出版
- 「Unknown 古川雄輝写真集」吉田崇(写真) 3024円 宝島社
- 「Stamp! Act 03 (エンターテインメント) Star Creator's! PLUSS」 1620円 KADOKAWA
- 「世界は劇場 オペラシアターこん」にやく座ソング集1 林光(作曲) 2376円 全音楽譜出版社
- 「世界は劇場 オペラシアターこん」にやく座ソング集2 林光(作曲) 2376円 全音楽譜出版社
- 「フルートシネマ&ミュージカル名曲集」 3024円 ヤマハミュージックメディア
- 「アルトサクソシネマ&ミュージカル名曲集」 3024円 ヤマハミュージックメディア
- 「バイオリンシネマ&ミュージカル名曲集」 3024円 ヤマハミュージックメディア
- 「ミュージカル教室へようこそ! Adjustable劇団四季レポート」 増補改訂版 安倍寧(著) 3200円 日之出出版
- 「スタミュ」公式ビジュアルファンブック 高校星歌劇2 シルフ編集(編) 2484円 KADOKAWA
- 「Spoon, 2 Divol. 23 (KADOKAWA MOOK)」 1250円 プレビジョン
- 《3月》
- 「国際演劇交流セミナー2015」日本演出者協会国際部(編集) 1296円 日本演出者協会国際部
- 「唐十郎特別講義 演劇・芸術・文学」クワーストリー 唐十郎(著) 2376円 国書刊行会
- 「演劇的手法による日本語教育に関する理論的・実証的研究 中国人日本語学習者の情意要因を中心に (比較社会文化叢書)」 姚瑤(著) 2500円 花書院
- 「演出家ヒスコートの仕事 ドキュメンタリー演劇の源流 (明治大学人文科学研究所叢書)」 萩原健(著) 6264円 森話社
- 「インプロワークショップの進め方 ファシリテーターの考えること」 網川友梨(著) 2160円 晩成書房
- 「最新中学校創作脚本集2017」最新中学校創作脚本集2017編集委員会(編) 1296円 晩成書房
- 「小林秀雄対話集 (講談社文芸文庫 Wide)」 小林秀雄(著) 1512円 講談社
- 「戦後歌舞伎の精神史」 渡辺保(著) 2484円 講談社
- 「近代歌舞伎年表名古屋篇第11巻 大正八年(大正九年)」 日本芸術文化振興会国立劇場調査養成部調査記録課近代歌舞伎年表編纂室(編) 20520円 八木書店古書出版部
- 「人生の調律師たち 動的ドラマトゥルギーの展開」 藤川信夫(編著) 4860円 春風社
- 「STAGEnavi vol.13 (2017) (NIKKOMOOK TNavipラス)」 10000円 産経新聞出版
- 「寺山修司論 ハロックの大世界劇場」 守安敏久(著) 5832円 国書刊行会
- 「シェイクスピアとロマン派の文人たち (中央大学学術図書)」 上坪正徳(著) 3672円 中央大学出版部
- 「ステージグランプリvol.2 (主婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス(編) 1566円 主婦の友インフォス
- 「舞台芸術の魅力 (放送大学教材)」 青山昌文(編著) 3024円 放送大学教育振興会
- 「団十郎とは何者か 歌舞伎トップランダーのみつ (朝日新書)」 赤坂治(著) 886円 朝日新聞出版
- 「未刊江戸歌舞伎年代記集成 (新興社研究叢書)」 倉橋正恵(編) 30240円 新興社
- 「江戸の長者番付 殿様から商人、歌舞伎役者に庶民まで (青春新書INTELLIGENCE)」 菅野俊輔(著) 961円 青春出版社
- 「花鏡至町耽美抄 (講談社文庫)」 海道龍一朗(著) 994円 講談社
- 「キーワードで読むオペラ/音楽劇研究ハンドブック」 丸本隆(編) 5184円 アルテスパブリッシング
- 「うるわしの宝塚 塗り絵シアター (ブティック・ムック)」 白ふくろう(絵) 1400円 ブティック社
- 「日朝古典文学における男女愛情関係 17~19世紀の小説と戯曲」 山田恭子(著) 8640円 勉誠出版
- 「モロッコ人の手紙/饗夜 (ロス・クラシコス)」 ホセ・デ・カダルソ(著) 3456円 現代企画室
- 「鶴舞城の七人花 (K.Nakashima Selection)」 中島かずき(著) 1944円 論創社

- 「風呂 (マヤコフスキー叢書)」 マヤコフスキー (著) 1028円 土曜社
- 「舞台をまわす、舞台がまわる 山崎正和オーラルヒストリー」 山崎正和 (述) 3240円 中央公論新社
- 「読書空間、または記憶の舞台」 20世紀文学研究会 (編) 3024円 風濤社
- 「役者なんかおやめなさい 84歳、日本を代表する名優が語る、60年余の舞台人生 (THE INTERVIEW S)」 仲代達矢 (著) 1620円 サンポスト
- 「チャップリン自伝 若き日々 (新潮文庫)」 チャールズ・チャップリン (著) 767円 新潮社
- 「8人の女 今も輝き続ける女優たち 平凡プレミアムselection」 マガジンハウス・アーカイブス (編) 2970円 マガジンハウス
- 「日本の伝統芸能を楽しむ4 文楽」 岩崎和子 (著) 3240円 偕成社
- 「日本の伝統芸能を楽しむ2 能・狂言」 中村雅之 (著) 3240円 偕成社
- 「ピアノ・ボーカル・セレクション 美女と野獣ミュージカル 劇団四季」 3564円 ヤマハミュージックメディア
- 「ミュージカル男子。(びあMOOK)」 1620円 びあ
- 「Spoon. 2 Divoil. 24 (KA)」
- DOKAWA MOOK」 1250円 プレクション
- 「演出家ヒスカートアの仕事 ドキメンタリー演劇の源流 (明治大学人文科学研究所叢書)」 萩原健 (著) 6264円 森話社
- 《4月》
- 「歌舞伎メモランダム同時代の演劇批評」 大矢芳弘 (著) 3888円 森話社
- 「演劇・絵画・弁論術 一八世紀フランスにおけるパフォーミングスの理論と芸術」 アンジェリカ・グデン (著) 3996円 筑波出版会
- 「演劇年鑑2017」 日本演劇協会 (監修) 3240円 日本演劇協会
- 「王の舞の演劇学的研究」 橋本裕之 (著) 9720円 臨川書店
- 「ドキュメンタリー演劇の挑戦 多文化・多言語社会を生きる人たちのライフヒストリー」 松井かおり (編著) 3240円 成文堂
- 「兄弟喧嘩のイギリス・アイルランド演劇」 岩田美喜 (著) 3780円 松柏社
- 「アーサー・ミラー4 転落の後に/ヴィンシーでの出来事 (ハヤカワ演劇文庫)」 アーサー・ミラー (著) 1620円 早川書房
- 「あのころ、早稲田で」 中野翠 (著) 1620円 文藝春秋
- 「国ゆたかにして義を忘れ (河出文庫)」 井上ひさし (著) 691円 河出書房新社
- 「ステージスクエアvol. 26 横山裕妄想歌謡劇「上を下へのジレッタ」x安田章大俺節」 x大倉忠義「蜘蛛女のキス」 (HINODE MOOK)」 900円 日之出出版
- 「Sparkle VOL. 30 (2017) (メテアボーイMOOK)」 1700円 メテアボーイ
- 「権力と孤独 演出家蜷川幸雄の時代」 長谷部浩 (著) 2268円 岩波書店
- 「イメージその理論と実践」 浅沼圭司 (編著) 5616円 晃洋書房
- 「おんなのこはもりのなか」 藤田貴大 (著) 1404円 マガジンハウス
- 「中国21 Vol. 46 (2017. 3) 特集中国の芝居」 愛知大学現代中国学会 (編) 2160円 愛知大学現代中国学会
- 「地下室草号2」 地下室編集部 (編集) 702円 アンダースロー
- 「舞台芸術20 FEATURE」 (2020年以後)の舞台芸術」 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター (企画・編集) 1620円 角川文化振興財団
- 「歌舞伎研究と批評 歌舞伎学会誌58 特集1 歌舞伎の座元」 歌舞伎学会 (編集) 2516円 歌舞伎学会
- 「この一冊で芸術通になる大人の教養力 (青春新書INTERLIGEN)」
- 「研辰の系譜 道化と悪党のあいだ」 出口逸平 (著) 2160円 作品社
- 「宝塚おとめ2017年度版 (タカラMOOK)」 1620円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「宝塚Stage Album 2016年 (タカラMOOK)」 1620円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「ザ・タカラツカ 雪組特集7 (タカラMOOK)」 2300円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「倉本聰戯曲全集4 屋根/歸國」 倉本聰 (著) 2700円 新日本出版社
- 「文学のレッスン (新潮選書)」 丸谷才一 (著) 1512円 新潮社
- 「井上ひさしから、娘へ57通の往復書簡」 井上ひさし (著) 1728円 文藝春秋
- 「舞台男子 the document Stage Actor's Special Interview & Photos」 おいちようこ (著) 1728円 KADOKAWA
- 「こどもシエイクスピア」 齋藤孝 (著) 1620円 筑摩書房
- 「来てけつかるべき新世界」 上田誠 (著) 2160円 白水社
- 《5月》
- 「蜷川幸雄x松本雄吉 二人の演出家

の死と現代演劇

- 西堂行人(著) 2592円 出版社 作品社
- 「シアターアーツ61 2017春」 国際演劇評論家協会日本センター(編) 1404円
- 「国際演劇評論家協会日本センター」
- 「高校生が生きやすくなるための演劇教育」 いしいみちこ(著) 1620円 立東舎
- 「やさしい歌舞伎 一生モノの基礎知識(マンガで教養)」 清水まり(監修) 1296円 朝日新聞出版
- 「STAGEnavi vol.14 (2017) (NIKKOMOOK TVnaviプラス)」 1000円 産経新聞出版
- 「はだしのゲン誕生 中沢啓治自伝・母のゴンドラの唄が聞こえる 2017年バージョン舞台シナリオ」 中沢啓治(原作) 1836円 柘植書房新社
- 「舞台」剣豪將軍義輝「公式フォトブック(もっ)と歴史を深く知りたくなるシリーズ」 「もっ)と歴史を深く知りたくなるシリーズ」製作委員会(監修) 4000円 徳間書店
- 「Kと真夜中のほとり」 藤田貴大(著) 1836円 青土社
- 「マンガでわかる歌舞伎 あらすじ、登場人物のキャラがひと目で理解できる 歌舞伎の世界がますます好きになる!」 漆澤その子(監修) 1728

円 誠文堂新光社

- 「ものまね」の歴史 仏教・笑い・芸能(歴史文化ライブラリー) 石井公成(著) 1944円 吉川弘文館
- 「宝塚ファーストフォトブック6 彩風咲奈(タカラヅカMOOK)」 1800円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「捕虜のいた町 城山三郎に捧ぐ戯曲」 馬場豊(著) 1620円 中日新聞社
- 「これはあなたのもの 1943〜ウクライナ」 ロアルド・ホフマン(作) 1404円 アートデイズ
- 「トレプリンカ在地獄 ワシリー・グロスマン前期作品集」 ワシリー・グロスマン(著) 4968円 みすず書房
- 「WIVOL.14 鈴木拓樹×崎山つばさ完全SPECIALL舞台「刀剣乱舞」東啓介×橋本祥平×健人・黒羽麻璃央(廣済堂ベストムック)」 1998円 廣済堂出版
- 「ピアノ&ポピカルセレクション アラジノ/ブロードウェイ・ミュージカル版」 3564円 ヤマハミュージックメディア
- 「Spoon, 2 Divol. 26 (KADOKAWA MOOK)」 1250円 プレビジョン

- 「演劇概論オンテマンド版」 河竹登志夫(著) 3672円 東京大学出版会
- 「歌舞伎とはいかなる演劇か かぶき者・当代性・断片性・好色性・饗宴性・女方・見立て七つの視点から迫る歌舞伎の本質」 武井協三(著) 9504円 八木書店古書出版部
- 「出会い」という名の劇場演劇に生きて」 岡田正子(著) 2268円 春風社
- 「アーサー・ミラー5 代価/二つの月曜日の思い出(ハヤカワ演劇文庫)」 アーサー・ミラー(著) 1620円 早川書房
- 「伊澤蘭著 不世出の女優の生涯と文学」 演劇と文学研究会(編) 1944円 鼎書房
- 「ドナルド・キーン 知の巨人、日本美を語る!(和楽ムック)」 ドナルド・キーン(著) 2592円 小学館
- 「忘れられないひと、杉村春子」 川良浩和(著) 1944円 新潮社
- 「ステイジスクエアオーバー」 北山宏光「あんちゃん」/生田斗真+菅田将暉(HINODE MOOK) 900円 日之出出版
- 「ちやぶ台返し」の歌舞伎入門(新潮選書) 矢内賢二(著) 1296円 新潮社
- 「ライブ・エンタテインメントの社会学イベントにおける『受け手』part

- 「icipants」のリアリティ」 中川和亮(著) 2160円 五紘舎
- 「フハ八本舗を創った男喰始を語る」 タマ伸也(聞いた人) 1728円 ルーフトップ/ロフトブックス編集部
- 「寺山修司幻想劇集 新装版(平凡社ライブラリー)」 寺山修司(著) 1620円 平凡社
- 「田村俊子全集 復刻 第9巻 昭和11年〜昭和19年」 田村俊子(著) 18360円 出版社ゆまに書房
- 「ドラマ教育ガイドブック アクティブな学びのためのアイデアと手法」 ブライアン・ラドクリフ(著) 1728円 新曜社
- 「地下室草号3」 地下室編集部(編集) 810円 アンダースロー
- 「乙女のための歌舞伎手帖」 河出書房新社編集部(編) 1404円 河出書房新社
- 「日本の伝統芸能(「知」のナビ事典)」 日外アソシエーツ株式会社(編集) 9990円 日外アソシエーツ
- 「宝塚イズム35 特集さよなら早霧せいな&咲妃みゆ」 薮下哲司(編著) 1728円 青弓社
- 「朝夏まなと写真集『MANA』」 3600円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「早霧せいなメモリアルブック(タカラヅカMOOK)」 3000円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「RISING STAR GUIDE

2017 (タカラヅカMOOK) 2100円 宝塚クリエイティブアーツ
 『ピノキオ物語の研究日本における翻訳・戯曲・紙芝居・国語教材等(てらいんくの評論)』 竹長吉正(著) 4104円 てらいんく
 『戯曲集「往生際」他二篇』 岡晃太 648円 文芸社
 『日本文学の発生序説 改版(角川ソフィア文庫)』 折口信夫(著) 1037円 KADOKAWA
 『幕末疾風伝 MIBURO〜壬生狼』 伊緒里優子(著) 2160円 論創社
 『おたすけ進路 俳優編2018 俳優・声優になつた人が読んだ本です! (おたすけ進路シリーズ)』 佐藤正隆(著) 1000円 夏書館
 『高峰秀子と十二人の男たち』 高峰秀子(著) 1944円 河出書房新社
 『コラケンボウ』 浜畑賢吉(著) 1728円 田畑書店
 『人形浄瑠璃文案外題づくし』 鳥越文蔵(監修) 3240円 工作舎

『7月』
 『演劇名鑑 2018年度版』 3500円 カモミール社
 『全員が参加!全員が活躍! 学級担任のための学芸会指導ガイド』 日本児童青少年演劇協会(編著) 1944円
 円 明治図書出版
 『戦禍に生きた演劇人たち 演出家・八田元夫と「桜隊」の悲劇』 堀川恵子(著) 1944円 講談社
 『知盛の声がきこえる「子午線の祀り」役者ノート(ハヤカワ演劇文庫)』 嵐圭史(著) 1080円 早川書房
 『ステージスクエアサマー・スペシャル'17 Mr. KING JOHNNY'S YOU&ME ISLAND / SIXTONES x snowman (HINODE MOOK)』 900円 日之出出版
 『STAGEnavi vol.15 (2017)(NIKKOMOOK Tvnaviプラス)』 1000円 産経新聞出版
 『武智鉄二歌舞伎素人講釈』 武智鉄二(著) 2916円 アルファベータブックス
 『小林三は宝塚少女歌劇にどのような夢を託したのか』 伊井春樹(著) 3024円 ミネルヴァ書房
 『歌舞伎の解剖図鑑 イラストで小粋に読み解く歌舞伎ことはじめ』 辻和子(著) 1728円 エクスナレッジ

『倉本聰戯曲全集1 谷は眠っていた/走る』 倉本聰(著) 2700円 新日本出版社
 『鶴舞城の七人 鳥(K.Nakas hima Selection)』 中島かずき(著) 1944円 論創社
 『ひとりごと新装版』 市原悦子(著) 1728円 春秋社
 『ストーリーの解剖学 ハリウッドNo.1スクリーンプロクターの脚本講座』 ジョン・トゥルービー(著) 3240円 フィルムアート社
 『8月』
 『演劇に何ができるのか?』 妹尾伸子(著) 2700円 アルファベータブックス
 『演劇研究の核心 人形浄瑠璃・歌舞伎から現代演劇』 法月敏彦(著) 10584円 出版社八木書店古書出版部
 『フラボーイ いわき男子高校演劇部奮闘記 ミュージカルシナリオ』 天美幸(原作・作詞・脚本) 1836円 柘植書房新社
 『反・寺山修司論復刻版』 永山則夫(著) 3240円 アルファベータブックス
 『おはあさん(朝日文庫)』 獅子文六 972円 朝日新聞出版
 『大神家の人々 寺山修司幻想写真館愛蔵復刻版』 寺山修司(著) 10800円 復刊ドットコム

『ステージスクエアvol.28 堂本光一Endless SHOCK』 内博貴 x 前田美波里 / 森田剛 / 加藤シゲアキ (HINODE MOOK) 900円 日之出出版
 『STAGEnavi vol.16 (2017)(NIKKOMOOK Tvnaviプラス)』 1000円 産経新聞出版
 『新劇製作者 劇団青年座とともに』 水谷内助義(著) 2700円 一葉社
 『浮世絵細見(講談社選書メチエ)』 浅野秀剛(著) 1998円 講談社
 『子孫が語る「曾我物語」 曾我家と血縁関係のない「曾我物語」』 伊東祐朝(著) 1200円 垂井日之出印刷所
 『Takarakuka Revue 2017 (タカラヅカMOOK)』 2000円 宝塚クリエイティブアーツ
 『ザ・タカラヅカ 宙組特集7 (タカラヅカMOOK)』 2300円 宝塚クリエイティブアーツ
 『業音』 松尾スズキ(著) 1944円 白水社
 『Prince of STAGE 話題のミュージカル&2.5次元舞台を徹底特集! Vol.1 (ぶんか社ムック)』 1620円 ぶんか社
 『fabulous stage vol.03 表紙巻頭小栗旬 x ムロツヨシ』 ヤ

ングフランケンシュタイン」44ページ
 大特集!!(シンコー・ミュージック・ムック) 1620円 シン
 コミュニック・エンタテイメント
 「時代とフザけた男 エノケンから
 AKB48までを笑わせ続ける喜劇人」
 小松政夫(著) 1512円 扶桑社
 「我が人生の幕間に 劇団久喜座と
 私の二十六年」(Critical & Cre-
 ation Books) 小林登茂子
 (著) 2160円 土曜美術社出版
 販売
 「美しく響くピアノソロ (中級) シ
 ネマ&ミュージカル 『増補版』」
 2268円 ヤマハミュージックメ
 ディア
 「王様のピアノ 初・中級映画・
 ミュージカル賛沢アレンジで魅せるス
 テージレパートリー集」全音楽譜出
 版社出版部(編集) 1728円 全
 音楽譜出版社
 「グルト・ヴァイル 生真面目なカメ
 レオン」 田代權(著) 3780円
 春秋社
 「翔ぶ夢、生きる力 俳優・石坂浩二
 自伝」石坂浩二(著) 1620円
 廣済堂出版
 「高倉健 七つの顔を隠し続けた男」
 森功(著) 1728円 講談社
 「完本鷹赤兒自伝 憂き世戯れて候ふ
 (中公文庫)」 鷹赤兒(著) 972円
 中央公論新社

《9月》
 「ジャン・ジロドゥー トロイ戦争は
 起こらない (ハヤカワ演劇文庫)」
 ジャン・ジロドゥ(著) 950円
 早川書房
 「ステージランプリvol.3 (主
 婦の友ヒットシリーズ)」主婦の友イ
 ンフォス(編) 1566円 主婦の
 友インフォス
 「STAGEnavi vol.17
 (2017) (NIKKOMOOK
 Tvnaviプラス)」1000円
 産経新聞出版
 「舞台の上のジャポニスム 演じられ
 た幻想の(日本女性) (NHKブッ
 クス)」 馬淵明子(著) 1728円
 NHK出版
 「改訂を重ねる『ゴドーを待ちながら』
 演出家としてのベケット」堀真理子
 (著) 4104円 藤原書店
 「明治大学シエイクスピアプロジェクト!
 熱闘! Midsummer Ni-
 ghtmare」 井上優(編著)
 2160円 明治大学出版会
 「日本新劇全史第1巻 明治〜終戦」
 大笹吉雄(著) 3240円 白水
 社
 「若田健 小学校劇脚本集指導者の劇
 作り入門」 若田健(著) 3240円
 慶應義塾大学出版会
 「歌舞伎の源流 オンデマンド版 (歴
 史文化ライブラリー)」 諏訪春雄(著)
 2484円 吉川弘文館

「歌舞伎への誘い 日本人を魅了し
 た、400年の伝統と革新の世界
 (別冊宝島)」 1296円 宝島社
 「恋と歌舞伎と女の事情 (かもめの本
 棚)」 仲野マリ(著) 1998円
 東海教育研究所
 「舞うひと 草刈民代×古典芸能の
 トップランナーたち」 草刈民代(著)
 1944円 淡交社
 「鉄道会社がつくった『タカラヅカ』と
 いう奇跡 (ポプラ新書)」 中本千晶
 (著) 864円 ポプラ社
 「颯風のと 福田善之戯曲集」 福田
 善之(著) 2700円 三二書房
 「薄い桃色のかたまり/少女ミウ」 岩
 松了(著) 2376円 白水社
 「富美男の乱」 梅沢富美男(著)
 1404円 小学館
 「ミュージカル名曲選 中級 (保存版
 ピアノ・ソロ)」 2376円 シン
 コミュニック・エンタテイメント
 「昭和と師弟愛 植木等と歩いた43年」
 小松政夫(著) 1512円 KADO
 KAWA
 《10月》
 「ダイアログ 小説・演劇・映画・
 テレビドラマで効果的な会話を生みだ
 す方法」 ロバート・マッキー(著)
 3024円 フィルムアート社
 「歌舞伎と革命 ロシア一九二八年左
 団次一座訪ソ公演と日露演劇交流」
 永田靖(編) 5184円 森話社

「トム・ストッパード3 ローゼンク
 ランツとギルデンスターンは死んだ
 (ハヤカワ演劇文庫)」 1296円
 早川書房
 「児童・青少年演劇ジャーナル『げき』
 18」 児童・青少年演劇ジャーナル(げ
 き)編集委員会(編) 1296円 児
 童・青少年演劇ジャーナル(げき)編集
 委員会
 「ステージスクエアvol.29 生田斗
 真『ローゼンクランツとギルデンス
 ターンは死んだ』/森田剛(HIN
 ODEMOOK)」 日之出出版(著)
 950円 日之出出版
 「師父の遺言 (集英社文庫)」 松井今
 朝子(著) 691円 集英社
 「帝国と戦後の文化政策 舞台の上の
 日本像」 朴祥美(著) 2484円
 岩波書店
 「モーパーッサンの修業時代 作家が誕
 生するとき」 足立和彦(著)
 5400円 水声社
 「SWITCHVOL.35 NOV.11
 (2017NOV.) 襲名前夜松本金
 太郎」 972円 スイッチ・パプ
 リッシング
 「懐古放談」 たがみしこう(著)
 1080円 鶴書院
 「小林二三 天才実業家と言われた男
 (ロング新書)」 小堺昭三(著)
 1080円 ロングセラーズ
 「紅 KURENAI 紅ゆるる写真
 集 (タカラヅカMOOK)」

3600円 宝塚クリエイティブアーツ
 「朝夏まなとメモリアルブック(タカラヅカMOOK)」 30000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「倉本聰戯曲全集2 昨日、悲別で」 倉本聰(著) 27000円 新日本出版社
 「パトリルビーズ/たった一人の戦争(坂手洋二戯曲集)」 坂手洋二(著) 2376円 彩流社
 「シエイクスピア全集29 アテネのタイモン(ちくま文庫)」 シエイクスピア(著) 864円 筑摩書房
 「火の後に 片山廣子翻訳集成」 片山廣子(訳著) 4968円 幻戯書房
 「寺山修司研究第10号 国際寺山修司学会設立10周年記念10号」 国際寺山修司学会(編) 27000円 文化書房博文社
 「文学とアダプテーション ヨーロッパの文化的変容」 小川公代(編) 3456円 春風社
 「シエイクスピアの面白さ(講談社文芸文庫)」 中野好夫(著) 16200円 講談社
 「fabulous stage vol. 04 表紙巻頭山崎吾三郎ミュージカル『レディ・ベス』36ページ大特集!!(シンコー・ミュージック・ムック)」 16200円 シンコーミュージック・エンタテイメント
 「これで眠くならない! 能の名曲60選 眠くならない指紋上演頻度の数で

わかるおススメ度付き」 中村雅之(著) 1944円 誠文堂新光社
 「無辺光 片山幽雪聞書」 片山幽雪(著) 3564円 岩波書店
 「ていだん」 小林聡美(著) 1728円 中央公論新社
 「私が愛した渥美清」 秋野太作(著) 1728円 光文社
 「x植田圭輔 植田圭輔10周年MOOK 出会った出会えた147人とのCROSS(廣済堂ベストムック)」 2160円 廣済堂出版
 「吉本興業五十年史」 11340円 吉本興業
 《11月》
 「イギリス演劇における修道女像宗教改革からシエイクスピアまで」 安達まみ(著) 5616円 岩波書店
 「中国の伝統劇入門 季国平演劇評論集」 季国平(著) 3024円 晩成書房
 「変革者フレイト オルタナティブの演劇を求めて」 内藤猛(著) 2700円 續文堂出版
 「STAGEnavi vol. 18(2017)(NIKKOMOOK TNavivプラス)」 10000円 産経新聞出版
 「2・5次元舞台へようこそ ミュージカル『テニスの王子様』から『刀剣乱舞』へ(星海社新書)」 おちようこ(著) 994円 星海社

「宮本研エッセイ・コレクション 11957-167」 宮本研(著) 3240円 一葉社
 「歌舞伎研究と批評 歌舞伎学会誌59特集1 歌舞伎と浮世絵」 歌舞伎学会(編集) 2516円 歌舞伎学会
 「そろそろ、歌舞伎入門。(pen BOOKS)」 ペン編集部(編) 1836円 CCCメディアハウス
 「スーパースター歌舞伎II『ワンピース』偉大なる2巻セット」 四代目市川猿之助(監修) 3456円 集英社
 「みる・よむ・あるく東京の歴史2 通史編2 江戸時代」 池幸(編) 3024円 吉川弘文館
 「江戸の異性装者たち セクシユアルマイノリティの理解のために」 長島淳子(著) 3456円 勉誠出版
 「大江戸文化ヘタイルワープ(歴史漫画タイムワープシリーズ) 市川智茂(マンガ)」 1296円 朝日新聞出版
 「義経千本桜(講談社の創作絵本かぶきかわかるねこづくし絵本)」 吉田愛(著) 1728円 講談社
 「父、中村富十郎 その愛につつまれて」 渡邊正恵(編) 4104円 富山房インナーナショナル
 「陽だまり他一篇戯曲」 倉石清志(著) 756円 Opus Majus
 「星の息子/推進派(坂手洋二戯曲集)」 坂手洋二(著) 2376円 彩流社

「3月の5日間 リクリエイテッド版」 岡田利規(著) 2160円 白水社
 「鶴腰城の七人 月(K.Nakashima Selection)」 中島かずき(著) 1944円 論創社
 「ミュージカルへのまわり道」 石塚克彦(著) 3780円 農山漁村文化協会
 「ピアソロロ ミュージカル『刀剣乱舞』幕末天狼傳」 ピアノ・セレクション」 2700円 ヤマハミュージックメディア
 「キャストサイズVol. 18(2017Nov) 黒羽麻璃央/崎山つばさ/玉城裕規/和田琢磨/猪野広樹/北川尚弥/財木琢磨(三オムツク)」 1700円 三オブックス
 「中島かずきのマンガ語り」 中島かずき(著) 1296円 宝島社
 「高倉健 ラストインタヴュー」 高倉健 1728円 プレジデント社
 《12月》
 「演劇を問う、批評を問う ある演劇研究集団の試み」 平井正子(編) 3240円 論創社
 「戦後ミュージカルの展開(近代日本演劇の記憶と文化)」 日比野啓(編) 5184円 森話社
 「ステージスクエアVol. 30 Mr. KING x Prince x HiHiJ et x 東京B少年」 JOHNNY'S Happy New Year is LA

- ND』／堂本光一（HINODE MOOK） 日之出出版（著） 950円 日之出出版
- 「手塚治虫 シェイクスピア漫画館」 シェイクスピア（原案） 1944円 実業之日本社
- 「別役実の混沌「コント」 別役実著 2376円 三一書房
- 「新・舞台芸術論 21世紀風姿花伝」 小池博史（著） 2700円 水声社
- 「俳優の演技術 映画監督が教える脚本の読み方・役の作り方」 富樫森（著） 2160円 フィルムアート社
- 「英米文学に描かれた時代と社会 シェイクスピアからコントラッド、ソロ」 川成洋（編） 3780円 悠光堂
- 「若手歌舞伎」 中村達史（著） 1836円 新読書社
- 「ニッポンの伝統芸能 能・狂言・歌舞伎・文楽（エイムックDiscover Japan CULTURE）」 2160円 柘出版社
- 「世界のミュージカル・日本のミュージカル（横浜市立大学新叢書）」 岩崎徹（編） 2700円 横浜市立大学学術研究会
- 「宝塚イズム36 特集さよなら朝夏まなと」 藪下哲司（編著） 1728円 青弓社
- 「ザ・タカラヅカ 星組特集7（タカラヅカMOOK）」 2300円 宝塚
- クリエティブアーツ
- 「優秀新人戯曲集2018」 日本劇作家協会（編集） 1944円 ブロンプス新社
- 「國語元年新版（新潮文庫）」 井上ひさし（著） 497円 新潮社
- 「アジア遊学216 日本文学の翻訳と流通」 河野至恩（編） 3024円 勉誠出版
- 「中国飛翔文学誌 空を飛びたかった 綺麗な人たちにまつわる十五の夜囁」 武田雅哉（著） 6696円 人文書院
- 「Prince of STAGE 話題のミュージカル&2.5次元舞台を徹底特集！Vol.2（ぶんか社ムック）」 1620円 ぶんか社
- 「古川雄大30thANNIVERSARY BOOK Free&Easy」 キセキミチコ（撮影） 3000円 シンコーミュージック・エンタテイメント
- 「のれんをくぐると、佐藤二朗」 佐藤二朗（著） 756円 イコロ
- 「ハリー・ポッターと呪いの子 第一部・第二部 舞台脚本 愛蔵版（「ハリー・ポッター」シリーズ）」 J.K.ローリング（著） 2376円 静山社
- 「予約一名、角野卓造でございます。京都編」 角野卓造（著） 1598円 京阪神エルマガジン社
- 「万事正解」 角野卓造（著） 1296円
- 「咲き定まりて 市川雷蔵を旅する」 清野恵里子（著） 2592円 集英社インターナショナル
- 「私はテレビに出なかった（朝日文庫）」 松尾スズキ（著） 1015円 朝日新聞出版

平成二十九年演劇関係物故者一覽

▼**神山繁氏** 俳優。1月3日、間質性肺炎のため死去、87歳。東京都出身。

1952年、文学座に入り演出助手を務めた後、俳優に転じた。63年に現代演劇協会劇団「雲」の設立に参加。75年に演劇集団「円」の旗揚げに加わる。65年にスタートしたテレビドラマ「ザ・ガードマン」で人気を集めた他「踊る大捜査線」シリーズ、「アウトレイジ ビヨンド」などに出演し、名脇役として知られた。英語も堪能でハリウッド映画「トラックレイン」(89年)にも出演。

▼**ニコライ・ゲッター氏** スウェーデンのオペラ歌手。1月8日、心臓発作のため死去、91歳。20世紀後半を代表するテノール歌手の一人として知られる。

▼**本間英孝氏** 能楽シテ方宝生流。1月10日、心不全のため死去、83歳。新潟県佐渡市出身。

▼**ウィリアム・ピーター・ブラッティ氏** 米作家。1月12日、骨髄腫のため死去、89歳。ニューヨークでレバノン系移民の夫婦のもとに生まれた。空軍などの勤務を経て作家となる。悪魔に取りつかれた少女を描いたホラー小説「エクソシスト」(71年)などで有名になる。同作の映画化では脚本を担当し記録的ヒットとなり、アカデミー賞脚色賞を受賞した。

▼**露の雅氏(本名・和氣雅子)** 上方落語家。1月16日、急性虚血性心疾患のため死去、35歳。三重県津市出身。近畿大学文学部を卒業し、2007年に露の都に入門した。

▼**松方弘樹氏(本名・目黒浩樹)** 俳優。1月21日、脳リンパ腫のため死去、74歳。東京都出身。時代劇スター近衛十四郎の長男として生まれた。高校時代に父と同じ東映に入社し、1960年に映画主演デビュー。73年の深作欣二監督「仁義なき戦い」に始まる実録やくざ路線では、あくの強い暴力団幹部を熱演。「柳生一族の陰謀」を初めとする大型時代劇でも活躍した。テレビでは「人形佐七捕物帳」「大江戸捜査網」「名奉行遠山の金さん」などで人気を博した。また、バラエティ番組「天才・たけしの元気が出るテレビ!!」では笑い上戸キャラで人気を呼んだ。釣り好きでも知られ、300キロを超す巨大マグロを釣って話題となった。弟は俳優の目黒祐樹。俳優の仁科亜希子は元妻。

▼**佐伯隆幸氏** フランス文学、演劇研究者。学習院大学名誉教授。1月21

日、急性虚血性心疾患のため死去、75歳。三重県津市出身。劇団「黒テント」の創立メンバーの一人としてアングラ演劇の隆盛に関わった。のち、演劇評論家として活躍。フランス文学者として駒沢大学教授を経て学習院大学教授を務めた。著書に「現代演劇の起源 60年代演劇的精神史」など。第9回AICT演劇評論賞を受賞。

▼**中村志氏(本名・中村修一郎)** 映画美術監督。1月21日、肺炎のため死去、89歳。東京都出身。1948年に東映入社。その後フリーに転身。「麻雀放浪記」(84年)、「マルサの女」(87年)で日本アカデミー賞美術賞を受けた。

▼**岩崎令兒氏** 舞台照明家。1月23日、死去、89歳。日本照明家協会の技能認定試験委員や協会賞の審査員など協会活動に長く貢献した。著書に「初歩の舞台照明シリーズ」美しい光を得るために、がある。

▼**藤村俊二氏** 俳優。1月25日、心不全のため死去、82歳。神奈川県鎌倉市出身。早稲田大学文学部の演劇科を中退後、東京宝芸能学校舞踊科に入学。モダンバレエやタップダンスを学び、日劇ダンシングチームを経て振付師に転身。その後、コメディアンや司会者としてテレビで活躍。ザ・ドリフターズの人気番組「8時だヨ!全員集合」の振り付けを担当。俳優としても軽妙でとぼけた味の演技が人気を呼んだ。テレビドラマ「王様のレストラン」や映画「ラヂオの時間」など、三谷幸喜作品の常連俳優としても活躍した。ヒョイと姿を消すことから、「おヒョイ」と呼ばれ親しまれた。著書に「オヒョイのジジ通信」など。

▼**メアリー・タイラー・ムーア氏** 米女優。1月25日、肺炎による心肺停止のため死去、80歳。ニューヨーク生まれ。70年代に7期にわたって放映されたテレビのコメディ番組「メアリー・タイラー・ムーア・ショー」で名をはせた。女優業のみならず、チャリティ活動家、政治家運動家でもあった。

▼**ジョン・ハート氏** 英俳優。1月27日、死去、77歳。膝臓がんで闘病していた。映画「エレファント・マン」(80年)で主役を演じ、「ミッドナイト・エクスプレス」(78年)や、「ハリイ・ポッター」シリーズなどにも出演した。

▼**エマニエル・リバ氏** 仏女優。1月27日、死去、89歳。がんの治療中だった。

た。広島を舞台にした日仏合作映画「二十四時間の情事」(59年)、「ヒロシマ・モナムール」に主演。「テレーズ・デスケルウ」(62年)でベネチア国際映画祭主演女優賞を受賞した。

▼近藤晋氏 テレビ・映画プロデューサー。2月2日、誤嚥性肺炎のため死去。87歳。神戸市出身。NHKのプロデューサーとして大河ドラマ「黄金の日」・「山河燃ゆ」などを担当。退職後もドラマ「失楽園」や映画など多くの作品の企画、制作に携わった。

▼高橋弘氏 能楽シテ方観世流。2月2日、肺がんのため死去。70歳。東京都出身。

▼三浦宋門氏 作家、元文化庁長官。2月3日、肺炎のため死去。91歳。東京都出身。東京大学卒。同人誌に発表した「画鬼」(冥府山水図に改題)で文壇デビュー。「第三の新人」の一人として活躍した。1953年に曾野綾子と結婚。キリスト教の洗礼を受けた。「おしどり夫婦」と呼ばれた。85年に文化庁長官に就任。99年文化功労者。2004から14年まで日本芸術院の院長も務めた。日本芸家協会理事、日本芸術文化振興会会長、日韓文化交流会議座長などを歴任し、教育・文化行政に力を尽くした。

▼吉村芳之氏 テレビディレクター、映画監督。2月5日、心不全のため死去。70歳。三重県出身。NHKで大河ドラマ「独眼竜正宗」「北条時宗」など、時代劇を中心に数多くのドラマの演出を手掛けた。

▼森治美氏(本名・米廣治美) 劇作家、脚本家。森組芝居主宰。2月6日、肺がんのため死去。68歳。奈良県出身。文学座付属演劇研究所(第9期生)を経て同劇団演出部研究生。1981年、戯曲「じ・て・ん・しゃ」で80年度文化庁舞台芸術創作奨励特別賞を受賞。舞台・ラジオ・テレビなどの脚本を執筆。日本脚本家連盟理事、日本大学芸術学部放送学科 非常勤講師などを務める。

▼中山美保氏(本名・石田美保子) 吉本新喜劇役者。2月7日、肺血腫による呼吸困難で死去。78歳。徳島市出身。1967年に吉本興業に入り、新喜劇で「吉本のミボリン」と呼ばれて活躍した。

▼土屋嘉男氏 俳優。2月8日、肺がんのため死去。89歳。山梨県出身。俳優養成所時代に映画デビュー。1954年の黒沢明監督の「七人の侍」に出演。以後も用心棒「椿三十郎」「赤ひげ」などに出演。同監督作品の常連となった。また、「ガス人間第一号」「マタンゴ」、ゴジラシリーズの「怪獣大戦争」など特撮映画への出演も多数。著書に「クロサワさん!」「思い出株式会

社」など。

▼青木玲子氏(本名・児玉玲子) 俳優。2月13日、心不全のため死去。83歳。東京都出身。東宝現代劇1期生として1957年に初舞台。故森光子主演の舞台「放浪記」(61〜69年)に、共演者として唯一、全2017回にわたり出演した。

▼鈴木清順氏(本名・鈴木清太郎) 映画監督。2月13日、慢性閉塞性肺疾患のため死去。93歳。東京都出身。学徒出陣で応召。復員後の1948年、旧制弘前高校を卒業し、松竹に入社。54年に日活に移籍し、56年「港の乾杯」勝利をわが手に監督デビュー。80年「ツイゴイネルワイゼン」でベルリン国際映画祭審査員特別賞を受賞。ほかに「東京流れ者」「殺しの烙印」「夢」など。第58回カンヌ国際映画祭で栄誉上映特別作品として招待された2005年の「オペレッタ狸御殿」が遺作となった。俳優としても活躍した。元NHKアナウンサーの鈴木健二は実弟。90年紫綬褒章。

▼桐竹紋壽氏(本名・寺田嘉彦) 人形浄瑠璃文楽人形遣い。2月16日、死去。82歳。兵庫県洲本市出身。1950年3月、二代桐竹紋十郎に入門。桐竹紋若と名の。同年10月、桐竹紋寿と改名。賛助につぐ女方の重鎮として活躍した。ミュージシャン宇崎竜童、故吉田文吾らと「ロック曾根崎心中」を共演した。03年、芸術選奨文部大臣賞。04年、紫綬褒章。05年、八尾市文化賞。09年、旭日小綬章。著書に「文楽・女方ひとすじ」。

▼スタニスラフ・スクロパチエフスキ氏 米指揮者・作曲家。2月21日、死去。93歳。脳梗塞を起こし、闘病を続けていた。1923年、ポーランドのリポフ(現在はウクライナ)生まれ。11歳でピアニストとしてデビューしたが、第2次大戦中の空襲で手を負傷したため、指揮と作曲の道に専念した。60年にミネアポリス交響楽団(現・ミネソタ管弦楽団)の音楽監督に就任。19年間にわたって務めた。90年代からNHK交響楽団にしばしば客演し、07〜10年は読売日本交響楽団の常任指揮者。その後は同楽団の桂冠名誉指揮者になった。ブルックナーの演奏で特に知られた。

▼関根祥六氏 能楽シテ方観世流。2月22日、脳出血のため死去。86歳。埼玉県越谷市出身。1951年に二十五世宗家観世左近に内弟子として入門。美しい型と格調高い芸風で、「卒塔婆小町」「隅田川」などを得意とした。96年に紫綬褒章。2002年に日本芸術院賞、10年に旭日小綬章。16年に観世流から、功績の顕著な能楽師にのみ許される「雪号」を授与され、祥雪を名乗っていた。国立能楽堂能楽研修の主任講師を務め、後進の育成にも尽力した。

▼**ビル・バクストン氏** 米俳優。2月25日、手術による合併症のため死去、61歳。米テキサス州生まれ。ニューヨーク大学で演劇を学び俳優に。映画「ターミネーター」や「エイリアン」シリーズのほか、「アポロ13」「タイタニック」などに出演した。

▼**横井茂氏** 振付家。舞踊作家、大阪芸術大学名誉教授。2月27日、多発性肝がんのため死去、86歳。東京都出身。東京バレエグループを主宰し、沖繩戦を題材にした「さとうきび畑墓標」やシェークスピア作品などを手がけた。76年芸術選奨文部大臣賞、94年紫綬褒章受章。

▼**井之上隆志氏** 俳優。3月4日、死去、56歳。宮崎県出身。俳優で演出家の中村育二主宰の「劇団カクスコ」に創立メンバーとして参加。テレビドラマや舞台を中心に活躍。TBS「渡る世間は鬼ばかり」の劇中では角野卓造らと「渡鬼おやしバンド」を結成。CDデビューも果たした。

▼**クルト・モル氏** ドイツのオペラ歌手。3月5日、死去、78歳。西部ケルン近郊生まれ。1970年のザルツブルク音楽祭への出演を機に国際的に活躍。モーツァルトやワーグナーのオペラで高い評価を得た。

▼**アルベルト・ゼツダ氏** イタリアの指揮者、音楽学者。3月6日、死去、89歳。1928年ミラノ生まれ。57年に伊の国際コンクールで優勝。60年代以降、ロッシニの再評価を志す「ロッシニ・ルネサンス」を指揮者のクラウディオ・アバドとともに牽引。ロッシニの生誕地、ペーザロで「ロッシニ・オペラ・フェスティバル」を創設し、長く音楽監督を務めた。藤原歌劇団や東京フィルハーモニー交響楽団にもたびたび客演した。

▼**尾上寿鴻氏(本名・木田靖男)** 歌舞伎俳優。3月9日、心不全のため死去、77歳。東京都出身。1956年、二代目尾上松緑に入門し、松四郎を名乗り初舞台。74年、寿鴻に改名した。ベテラン脇役として活躍。2015年11月の歌舞伎座が最後の舞台となった。

▼**松本亮氏(本名・松本洋)** 日本ワヤン協会主宰。詩人、舞踊評論家、翻訳家。3月9日、多臓器不全のため死去、90歳。和歌山県出身。大阪外国語大学フランス語学科卒業。金子光晴に師事後、インドネシアなどを旅してジャワの影絵芝居「ワヤン」に出会い日本に紹介。普及に務めた。バレエ「白狐の湯」「荒野聖(松山バレエ団で上演)の台本・演出を担当した。1998年、インドネシア共和国文化功勳章受章。

▼**渡瀬恒彦氏** 俳優。3月14日、多臓器不全のため死去、72歳。兵庫県淡路島出身。1969年に東映入社。翌年「殺し屋人別帳」で主演デビューし、東

映やぐざ映画で活躍した。80年「震える舌」などでキネマ旬報主演男優賞を受賞。「セーラー服と機関銃」「南極物語」「時代屋の女房」など人気作に数多く出演した。「十津川警部」「警視庁捜査一課9係」などの刑事ドラマは長期シリーズとなった。

▼**デレク・ウォルコット氏** カリブ海の島国セントルシアの詩人・劇作家。3月17日、死去、87歳。英国領時代のセントルシアに生まれ、18歳で詩人デビュー。トリニダード・トバコで演劇の発展に尽くすかたわら、詩作を続け、92年ノーベル文学賞を受賞した。作品を通じて植民地や奴隷の歴史を持つカリブ海諸国の文化発信に貢献したとして、2016年、セントルシアが創設したナイト爵位を授与された。

▼**危口統之氏(本名・木口統之)** 演出家。3月17日、肺がんのため死去、42歳。岡山県倉敷市出身。劇団「悪魔のしるし」を主宰。巨大物体を建物内に搬入するパフォーミング作品「搬入プロジェクト」などで注目を集めた。

▼**山崎三郎氏** 劇団静芸代表。3月17日、死去、85歳。

▼**トリシャ・ブラウン氏** 米振付家。3月18日、死去、80歳。1970年、ニューヨークで舞踊団を設立し、既存の枠を超えるダンスの可能性を追求した。「建物の壁を歩く」や「ルーフ・ヒース」などで知られた。

▼**肉倉正男氏(本名・肉倉宝正)** 劇団民藝俳優。3月29日、肺炎のため死去、83歳。東京都出身。1961年に劇団民藝俳優教室に入り、「アンネの日記」や「炎の人」などの舞台に出演した。

▼**金森和子氏** 歌舞伎研究家。4月3日、急性心筋梗塞のため死去、69歳。東京都出身。清泉女子大学文学部国文科卒業。「季刊歌舞伎」(松竹演劇部発行)の編集を経て、1976年からフリーランサーとなり、執筆、講演、編集などで歌舞伎の普及に貢献した。著書に「歌舞伎座百年史」「歌舞伎を支える技術者名鑑」「すぐわかる歌舞伎の見どころ」「歌舞伎ファッショ」など多数。元日本演劇協会会員。

▼**大岡信氏** 舞台劇协会会员。4月5日、誤嚥性肺炎のため死去、86歳。静岡県三島町(現三島市)出身。文学をはじめ音楽、演劇、美術など多彩な分野で評論活動を行った現代日本を代表する詩人。明治大学や東京芸術大学の教授、日本ペンクラブ会長などを歴任。朝日新聞の人氣コラム「折々のうた」の業績で菊池寛賞。恩賜賞・日本芸術院賞、マケドニアの国際的なストルガ詩祭で金冠賞、朝日賞、文化功労者、国際交流基金賞、文化勳章、仏レジオン・ドヌール

勲章オフィシエなどを受賞。2009年、三島市に「大岡信ことば館」が開館した。

▼京唄子氏(本名・鶴島ウタ子) 女優、漫才師。4月6日、死去、89歳。京都市出身。鳳啓助とのめもと漫才で人気を得た。「渡る世間は鬼ばかり」やNHK連続テレビ小説「おんなは度胸」「やんちゃやくれ」など女優としても活躍した。1997年、国際芸術文化賞。2008年、上方芸芸資料館による「上方演芸の殿堂入り」表彰を「唄子・啓助」で受けた。

▼杵屋佐之志氏(本名・廣瀬忠夫) 長唄三味線方、前進座邦楽責任者。4月6日、死去、87歳。著書に「黒御簾談話」。

▼ドン・リックルズ氏 米コメディアン、俳優。4月6日、腎機能性障害のため死去、90歳。ニューヨーク出身。1950年代からカジノやナイトクラブでコメディアンとして活動し、「カジノ」(95年)などの映画やテレビドラマにも多数出演した。

▼ペギー葉山氏(本名・森シゲ子) 歌手。4月12日、肺炎のため死去、83歳。東京都出身。青山学院女子高等学校在学中から進駐軍のクラブで歌い始める。卒業後の1952年、「ドミノ」でジャズ歌手としてデビュー。59年、「南国土佐を後にして」が空前の大ヒット。64年には「学生時代」がロングセラーとなった。ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」の劇中歌「ドレミの歌」を邦訳詞した。女性初となる日本歌手協会7代目会長も務めた。93年芸術選奨文部大臣賞、95年紫綬褒章、2004年旭日小綬章。

▼松本俊夫氏 映像作家、映画監督。4月12日、腸閉塞のため死去、85歳。名古屋出身。前衛的なドキュメンタリーなどの映像作品で知られた。1967年の「母たち」でベネチア国際記録映画祭のグランプリを得た。日本映像学会会長や京都造形芸術大副学長も務めた。主な著書に「映像の発見など」。

▼双葉由紀子氏(本名・一色ユキ子) 漫才師。4月14日、「心不全のため死去、76歳。山口県岩国市出身。1968年に漫才コンビ「二葉由紀子・羽田たか志」を結成し、夫婦漫才師として活躍した。

▼中田明成氏 漫才作家。4月16日、敗血症のため死去、73歳。京都市出身。夢路いとし・喜味こいし「花嫁の父」や、横山やすし・西川きよし「男の中の男」など数多くの漫才台本を執筆。上方お笑い大賞秋田実賞、NHK放送文化賞を受賞した。

▼酒井広氏 元NHKアナウンサー。4月20日、心不全のため死去、91歳。東京都出身。NHK退職後、フリーアナウンサーに。1980年代に日本テ

レビ系で放送されたワイドショー「酒井広のうわさのスタジオ」で司会を務め、人気を集めた。

▼三遊亭團歌氏(本名・中澤円法) 元落語協会会長。4月23日、結腸がんによる腸閉塞のため死去、88歳。東京都出身。国鉄に勤務していたが、1945年、二代目三遊亭円歌に入門し歌治。48年に二つ目、二代目三遊亭歌奴に。58年に真打昇進、70年に三代目圓歌を襲名した。85年に56歳で出家して話題になった。96〜2006年まで落語協会会長を務めた後、同協会最高顧問に就いた。71年度の芸術祭優秀賞、92年度の浅草芸能大賞などを受けた。02年に勲四等旭日小綬章を受章。歌奴時代に創作し、自らの吃音の経験を表現に生かした「授業中」、大勢の高齢者と同居する家族模様を題材にした「中沢家の人々」などの新作落語で人気を集めた。ほかにも「浪曲社長」「月給日」などテンポの良い自作の落語を送り出した。

▼ジョナサン・テミ氏 米映画監督。4月26日、死去、73歳。「羊たちの沈黙」(1991年)で、アカデミー賞監督賞を受賞した。

▼斎藤智恵子氏 浅草ロック座「名誉会長」。4月28日、胃がんのため死去、90歳。宮城県出身。1947年開業のストリップ劇場「浅草ロック座」を、70年代から運営してきた。北野武監督の映画「座頭市」の企画にも携わった。

▼月丘夢路氏(本名・井上明子) 女優。5月3日、肺炎のため死去、95歳。広島市出身。1937年に宝塚音楽学校に入學。娘役スターとして活躍していた42年、「新雪」で映画デビューし、端麗な美貌で人気を集めた。宝塚退団後、大映、松竹で活躍し、日活映画へ。その間100本以上の映画に出演し、その後フリーとなり、主にテレビドラマや舞台で活動した。2014年には「宝塚歌劇の殿堂 100人」に選ばれた。代表作に映画「美徳のよるめき」(二十四の瞳)ドラマ「華岡青洲の妻」「犬神家の謎」舞台「マイ・フェア・レディ」など。映画「ひろしま」には、宝塚進学まで爆心地近くで暮らしたため「微力でも平和につながる作品に出たい」と無償で出演した。

▼坂野義光氏 映画監督。5月7日、くも膜下出血のため死去、86歳。愛媛県今治市出身。東京大学卒業後、東宝に入社。黒澤明監督などの助監督を経て、1971年に「ゴジラ対ヘドラ」で監督デビュー。日本テレビの紀行番組「すばらしい世界旅行」の制作にも携わった。著書に「ゴジラを飛ばした男」がある。

▼村上博氏 俳優。1月中旬頃死去、5月9日に自室で発見。67歳。熊本県八代市出身。1974年俳優座入団。「桜の園」「どん底」などに出演。最後

の舞台は「常陸防海尊」(2016年の稽古場)。

▼鳥居秀行氏(本名・鳥居督平) 舞台照明家。5月12日、死去、90歳。和歌山県出身。万博・花博をはじめ多数のイベントの設計・演出照明等幅広いジャンルのプランを担当。「北島三郎45周年特別公演特別功労賞(御園座)」を受賞。

日本演劇協会会員

▼日下武史氏(本名・日下孟) 俳優。5月15日、療養先のスペインで誤嚥性肺炎のため死去、86歳。東京都出身。慶応大学中退。1953年、同じ弘文科の浅川慶太らと劇団四季を結成。翌年の旗揚げ公演「アルデル、知的な演技(ジャン・アヌイ作)の伯爵ガストン役で初舞台。的確な役作り、又なる演技で同劇団の看板俳優として活躍した。舞台の代表作的に「ヴェニス」の商人(紀伊国屋演劇賞)「エクウス」この生命誰のもの「ハムレット」鹿鳴館「ひかりごけ」など。「鬼平犯科帳」「剣客商売」などのテレビドラマに出演し、声優やナレーターとしても活躍した。90年度芸術選奨文部大臣賞、96年紫綬褒章、2002年勲四等旭日小綬章。14年に東京都港区の自由劇場で上演された「思い出を売る男」が最後の舞台となった。

▼能見達也氏(本名・能見毅) 俳優。5月18日、死去、47歳。東京都出身。

1989年、佐藤B作らが率いる劇団東京ヴォードヴィルショーに入団。岸谷五朗と寺脇康文による演劇ユニット「地球ゴージャス」の公演に多数出演した。テレビ朝日「五星戦隊ダイレンジャー」でシレンジャーこと「天幻星大五」を演じた。

▼ロジャー・ムーア氏 英俳優。5月23日、死去、89歳。がんで闘病中だった。1927年ロンドン生まれ。ボンド役の3代目として知られ、73年の「死ぬのは奴らだ」から85年の「美しき獲物たち」まで、歴代のボンド役俳優の中で最多となる計7本の「007」シリーズで主演した。国連児童基金(ユニセフ)親善大使も務めるなど慈善活動にも積極的に関与。功績が評価され、2003年に英エリザベス英女王からナイトの爵位を授与された。

▼麻鳥千穂氏(本名・島崎淳子) 元宝塚歌劇トッパスター。6月2日、大動脈瘤解離のため死去、80歳。神戸市出身。1953年に宝塚歌劇団に入団し、歌唱力の高い端正な男役スターとして人気を集め、花組や星組で活躍した。「カンさま」の愛称で一時代を築いた。退団後は宝塚音楽学校の音楽講師として後進の指導をしたほか、OG組織「宝友会」の会長も務めた。「宝塚歌劇の殿堂」の一人に選ばれている。

▼アダム・ウエスト氏 米俳優。6月9日、白血病のため死去、88歳。西部

ワシントン州出身。1966年1月に始まったテレビドラマ「バットマン」で主役のバットマン役を務め、人気を集めた。多くの映画にも出演したほか、テレビアニメの声優も務めた。

▼野際陽子氏 俳優。6月13日、肺腺がんのため死去、81歳。富山市出身。立教大学卒業後、1958年にNHKにアナウンサーとして入局。62年に退職し、フリーアナウンサーとしてTBS「女性専科」の司会を務めた。63年にTBS系ドラマ「赤いダイヤ」で俳優デビューした。68〜73年放送のTBS系「キイハンター」に出演し、「一躍人気を得た。共演した千葉真一と結婚。94年に離婚した。90年代には、母親や姑役で数多くのテレビドラマに出演した。2007年に橋田賞を受けた。

▼稲葉対介氏 舞台監督。6月13日、死去、69歳。グループ演劇工房。

▼ジョン・G・アビルドセン氏 米映画監督。6月16日、膵臓がんのため死去、81歳。1935年、イリノイ州生まれ。広告制作などを経て映画業界に入る。76年のボクシング映画「ロッキー」を手がけ、アカデミー賞の作品賞や監督賞を受賞した。脚本・主演のシルベスター・スタロロンを大スターに押し上げた。

▼堀本能礼氏 俳優。6月18日、病気のため死去、46歳。北海道出身。「劇団青組」で、活動後、舞台を中心に、映画やテレビドラマにも多く出演した。

▼三浦大四郎氏 映画館「文芸坐」経営者。6月21日、心不全のため死去、89歳。東京都出身。東京・池袋にあった名画専門の映画館「人生坐」「文芸坐」などを経営した。

▼長谷川元吉氏 映画カメラマン。6月25日、肺炎腫のため死去、77歳。満鉄職員長谷川四郎の長男として北京に生まれる。母親と共に満州より引き揚げる。多摩美術大学デザイン科を卒業。映画カメラマンになる。吉田喜重監督の「エロス+虐殺」「戒厳令」やホイチョイ・プロダクション原作の「私をスキーに連れてって」などの撮影を手がけた。

▼鍋木岑男氏(本名・松岡岑男) 能楽ワキ方宝生流。6月27日、死去、86歳。愛宕神社名誉宮司。

▼高津一郎氏 「劇団麦の会」元代表。6月29日、虚血性心疾患のため死去、93歳。横浜市出身。敗戦後、捕虜として中国にとどまっていた時に余興で芝居を上演。その脚本を手がけ、表現の面白さを知る。1946年に復員。「戦争・横浜・市民」を題材にしたオリジナル作30編を執筆、上演。80作品を演出した。神奈川県内のアマチュア演劇界をリードした。

▼藤信初子氏 浪曲曲師。7月1日、老衰のため死去、98歳。兵庫県尼崎市出身。浪曲の三味線伴奏を務める、現役最高齢の曲師として活動した。戦後の浪曲界の重鎮・初代京山幸枝若の曲師を長年務めた。

▼後藤美代子氏 元NHKアナウンサー。7月5日、全身塞栓症のため死去、86歳。東京都出身。お茶の水女子大卒業後、テレビ放送が始まった1953年にテレビ1期生のアナウンサーとしてNHKに入局。「N響アワー」「オペラアワー」など音楽や古典芸能番組で司会を担当。同局初の女性チーフアナウンサーとなり、女性アナウンサーの地位向上に努めた。退職後はフリーアナウンサーとして活躍した。徳島文理大学教授も歴任した。

日本演劇協会会員

▼中嶋しゅう氏 俳優。7月6日、東京芸術劇場シアターウエストで上演されていた寺島しづの主演の舞台「アザ・デザート・シテイズ」の第一幕上演中に舞台上から転落、救急搬送先の病院で死去、69歳。急逝大動脈解離を発症していたことが発表された。東京都出身。劇団NLT出身。「ヘンリー6世」炎 アンサンディ「ニュールンベルグ裁判」「キーン」などに出演。「BLUE/ORANGE」と今は亡きヘンリーモズで紀伊國屋演劇賞を受賞。

▼安西愛子氏(本名・志村愛子) 歌手、元参院議員。7月6日、老衰のため死去、100歳。東京都出身。東京音楽学校(現・東京芸大)卒。1944年に童謡「お山の杉の子」が大ヒット。49〜64年にNHKラジオ番組「歌のおぼさん」に松田トシと出演し、「朝はどこから」「ぞうさん」「めだかの学校」などの童謡を広めた。71年から自民党の参院議員を3期18年務めた。

▼矢部修治氏 新劇制作者。7月9日死去、45歳。文学座企画事業部を経て2017年4月世田谷パブリックシアター劇場部で活躍した。

▼砂川啓介氏(本名・山下啓一) 俳優。7月11日、尿管がんのため死去、80歳。東京都出身。NHKの幼児番組「おかあさんといっしょ」の「体操のおにいさん」として親しまれた。アニメ「ドラえもん」の声で知られる妻、大山のぶ代との認知症の介護を続けていた。著書に「娘になった妻のぶ代へ」「カミさんはドラえもん」。

▼マーティン・ランドー氏 米俳優。7月15日、合併症のため死去、89歳。ニューヨーク出身。大衆紙の風刺漫画家を経て俳優に。テレビドラマ「スパイ大作戦」で、変装が得意なスパイを演じて人気が出た。ティム・バートン監督の映画「エド・ウッド」では落ちぶれた元有名俳優を演じてアカデミー賞の助演男優賞を受けた。

▼ジョージ・ロメロ氏 米映画監督、脚本家。7月16日、肺がんのため死去、77歳。ニューヨーク出身。カーネギーメロン大で美術を学んだ。死者がよみがえって「ゾンビ」となり、人間を襲う「ナイト・オブ・ザ・リビング・デッド」で監督としてデビューし、熱狂的なファンを獲得。「ゾンビ映画の父」と呼ばれる。

▼安福建夫氏 能楽大鼓方高安流宗家預り。7月17日、肺がんのため死去、78歳。東京都出身。人間国宝で父の故春雄に師事。国立能楽堂の三役養成研修の主任講師を長年務めた。1993年の観世寿夫記念法政大能楽賞を受賞。98年に人間国宝。

▼日野原重明氏 東京・聖路加国際病院名誉院長。7月18日、呼吸不全のため死去、105歳。山口市出身。「生活習慣病の予防や、終末期医療の充実などに取り組んだ。音楽、演劇、著述など文化面でも幅広く活躍した。命の大切さを伝えた絵本「葉っぱのフレディ」のミュージカル用の脚本の原案を書き、俳優としても出演し子どもたちと一緒に踊った。公演は、国内や米国ニューヨークで2014年までに計159回に及んだ。公賞は、国内や米国「新老人の会」(熊本支部)で上演した劇「ジョン万次郎」(11年)にジョン万次郎役として出演もした。医療現場に音楽を取り入れる音楽療法の普及にも尽力した。勲二等瑞宝章(93年)、文化功労者(99年)、文化勲章(2005年)。

▼堀禎一氏 映画監督。7月18日、くも膜下出血のため死去、47歳。兵庫県たつの市出身。東京大学文学部仏文科卒業。助監督を経て2003年ピンク映画で監督デビュー。代表作「妄想少女オタク系」「魔法少女を忘れない」など。「夏の娘たち ひめごと」が公開中だった。

▼ジョン・ハード氏 米俳優。7月21日、米カリフォルニア州パロアルトのホテルで死去、72歳。ニューシントン出身。舞台俳優を経て映画に進出。世界的にヒットした映画「ホーム・アローン」(90年)と「ホーム・アローン2」(92年)で主演のマコーレ・カルキン氏の父親を演じた。

▼平尾昌晃氏 作曲家、歌手。7月21日、肺炎のため死去、79歳。東京都出身。慶応義塾高中退。1958年に歌手デビュー。ミッキー・カーチス、山下敬二郎とともに「ロカビリー三人男」として日劇ウエスタンカーニバルの看板スターとなった。66年に作曲家に転身。「霧の摩周湖」「よこま・たそがれ」「瀬戸の花嫁」など多くのヒット曲を生んだ。宝塚歌劇団を代表するミュージカル「ベルサイユのばら」の楽曲の一部も手がけた。福祉施設への慰問や寄付、障害があるミュージシャンへの音楽活動支援なども行った。03年

に紫綬褒章を受章。日本作曲家協会や日本音楽著作権協会(JASRAC)の役員も歴任した。

▼増尾昭二氏 アニメーター、アニメーション演出家。7月24日、死去、57歳。東京都出身。アニメ映画「超時空要塞マクロス 愛・おぼえていますか」「機動戦士ガンダム 逆襲のシヤア」などの作画を担当。「エヴァンゲリオン 新劇場版」の特技監督を務めた。

▼神田紅葉氏(本名・矢光純子) 講談師。7月25日、胆嚢がんのため死去、66歳。長野県松本市出身。講談師の神田紅に50歳で入門。2016年、戦後最年長となる65歳で真打に昇進した。

▼サム・シエバード氏 米劇作家、俳優。7月27日、筋萎縮性側索硬化症の合併症により死去、73歳。1943年、イリノイ州生まれ。劇作家としては「埋められた子供(79年)でピューリッツァー賞を受賞した。俳優としては「ラストスタッフ(83年)でアカデミー賞助演男優賞にノミネートされた。

▼ジャンヌ・モロー氏 仏女優。7月31日、死去、89歳。1928年パリ生まれ。国立高等演劇学校で演技を学んだ後、40年代に映画デビュー。「死刑台のエレベーター(57年)「突然炎のごとく(62年)などに主演し、知性と品格を兼ね備えた「ヌーベルバーグ(新しい波)を象徴する女優の一人に数えられた。「雨のしのび逢い(60年)でカンヌ国際映画祭の最優秀女優賞を受賞。

▼大賀寛氏 声楽家、前日本オペラ協会総監督。7月31日、死去、88歳。京都市出身。東京藝術大学声楽科卒業後、多くのオペラに出演。「春琴抄」「天守物語」よきこい節」など日本の作曲家によるオペラの制作や、日本歌曲の演奏会などに尽力した。1958年、日本オペラ協会を設立。90年に紫綬褒章、00年に旭日小綬章。

▼西村昭五郎氏 映画監督。8月1日肺炎のため死去、87歳。滋賀県出身。1954年に京都大卒業後、日活に入り63年「競輪上人行状記」で監督デビュー。71年から日活ロマンポルノ路線の主要監督として80本を超える作品でメガホンを取った。テレビの2時間ドラマの演出も多数手掛けた。

▼ロバート・ハーティ氏 英俳優。8月3日、死去、91歳。1925年、イギリス・チェルトナム生まれ。24歳のときに、舞台俳優としてのキャリアをスタート。児童文学を映画化した人気映画シリーズ「ハリー・ポッター」で魔法大臣コーネリウス役を務めた。又、ウインストン・チャーチル役を数多く演じてきた。81年、大英帝国勳章CBEを受賞した。

▼岩田信市氏 画家、演出家、元・劇団「スーパードール」主宰。8月6日、大

腸がんのため死去、81歳。名古屋出身。1960年代に街頭裸体パフォーマンスで知られる「ゼロ次元」を結成。79年から2008年までロック歌舞伎の「スーパードール」で活動した。欧州公演を成功させ、名古屋の大須演芸場で「大須師走歌舞伎」と「大須オペラ」を定期公演して人気を呼んだ。

▼中島春雄氏 俳優。8月7日、肺炎のため死去、88歳。山形県酒田市出身。1954年、シリーズ第1作となる映画「ゴジラ」から着ぐるみの中に入ってゴジラを演じ、シリーズ12本で同役を務めた。映画、テレビで多くの怪獣役を務めた。ゴジラを演じた俳優として海外でも知名度が高く、米ロサンゼルス市から栄誉賞を受けた。12年には出身地の山形県酒田市から酒田ふるさと栄誉賞を受賞した。著書に「怪獣人生 先祖ゴジラ俳優・中島春雄」がある。

▼橋岡佐喜男氏 能楽シテ方観世流。8月8日死去、49歳。東京都出身。千葉県印西市山田の「成田射撃場」で8日夜、散弾銃を抱きかかえるようにして、敷地内の芝生にうつぶせの状態で倒れていた。

▼真理明美氏(本名・須川久美子) 女優。8月8日、肝細胞がんのため死去、76歳。岩手県出身。1969年、74年に放映された人気テレビドラマ「ブレイカール」などに出演した。夫は映画監督の故須川栄三。

▼出光元氏 俳優。8月8日、肺腺がんのため死去、82歳。佐賀県出身。TBS「水戸黄門」「大岡越前」「Gメン75」、NHK連続テレビ小説「まんてん」など数々のドラマや映画に出演した。

▼瀧能礼子氏(本名・玉置礼子) 俳優。8月8日死去、84歳。東京都出身。アニメ「スプーンおぼさん」で主人公の声を演じた。劇団「テアトル・エコー」の舞台でも活躍した。

▼中村京紫氏(本名・松本祥康) 歌舞伎俳優。8月9日、舌がんのため死去、52歳。福岡県出身。1986年、国立劇場歌舞伎俳優研修修了。同年4月、本名で初舞台。87年2月、四代目中村雀右衛門に入門し、同4月、歌舞伎座で中村京紫を名乗る。しつとりとした、美しい色気のある女方として活躍した。

▼孫福剛久氏(本名・孫福弘幸) 舞台美術家。8月10日、心不全のため死去、93歳。北海道根室市出身。劇団「テアトル・エコー」芸芸演出部に所属。小劇場を中心に舞台装置を手掛けた。伊藤嘉朗賞、芸術祭賞優秀賞、勲四等瑞宝章受章。

▼林喜右衛門氏(本名・林喜一郎) 能楽観世流シテ方。8月15日、胆嚢がん

のため死去、76歳。京都市出身。江戸時代から京都で観世流の謡の師範を務めた京観世五軒家のうち、唯一現在も続く林家の13代当主。

▼藤沢薫氏 劇団京芸代表、俳優、演出家。8月18日、誤嚥性肺炎のため死去、86歳。滋賀県出身。龍谷大学卒業後、1953年に劇団京都芸術劇場(後の京芸)に入団。俳優、演出家として活動。63年に代表就任。代表作に「西陣のうた」(雪崩)など。90年、京都市芸術功労賞。07年、京都府文化賞功労賞受賞。「京都演劇人九家の会」の呼びかけ人の一人。

▼ジェリー・ルイス氏 米喜劇俳優。8月20日、老衰のため死去、91歳。1926年、東部ニュージャージー州で、両親とも芸人の家庭に生まれ、5歳から舞台に立った。46年、急場しのぎに組んだ故ディーン・マーティンとの「底抜けコンビ」が人気を博し、「一躍スター」となった。49年に映画に初出演し、56年にコンビを解消するまで多くのコメディ映画に出演した。全身の筋力が低下する筋ジストロフィー患者を支援するテレビのチャリティー番組の司会を40年以上にわたって務めた。喜劇俳優としてだけでなく脚本家、監督などもこなした。

▼仲良太郎氏(本名・香取宏昭) 俳優。8月22日、間質性肺炎のため死去、73歳。東京都出身。「赤ひげ診療譚」「渡る世間は鬼ばかり」など、舞台を中心に活躍した。

▼トビー・フーパー氏 米映画監督。8月26日、死去、74歳。米テキサス州オースティン生まれ。「悪魔のいけにえ」「ホルターガイスト」などホラー映画の監督を務めた。

▼ラッキー幸治氏(本名・水香幸治) 太神楽曲芸師。8月26日、急性硬膜下血腫のため死去、77歳。大阪市出身。6歳で東京の曲芸師、豊来家宝楽に入門。独立後は大阪で関西の第一人者として活躍した。妻の優と「ザ・ラッキー」を結成。弟子を育てて、途絶えていた豊来家一門を再興した。2016年度の文化庁芸術祭優秀賞を受賞した。

▼バーナード・ボメランス氏 米劇作家。8月26日、がんのため死去、76歳。1940年、ニューヨーク生まれ。シカゴ大で学んだ後、ロンドンで活動。19世紀の英国で見世物小屋の出し物にされていた男性の実話を基にした劇作「エレファント・マン」が世界的に評価され、トニー賞最優秀演劇作品賞(79年)を獲得した。

▼ミレイユ・タルク氏 仏女優。8月28日、死去、79歳。脳出血などにより、長い間、治療中だった。1938年、南東部トゥロン生まれ。60年代

から映画に出演し、俳優のアラン・ドロンの共演をきっかけに十数年間、愛人関係にあった。代表作に「狼どもの報酬(71年)」などがある。

▼古田信幸氏 声優。8月29日、気管支動脈破裂のため死去、59歳。神奈川県出身。海外ドラマ「HEROES」などで吹き替えを務めた。格闘技「リングス」のリングアナウンサーを務めた。

▼青井陽治氏 演出家・翻訳家。9月1日、膀胱がんのため死去、69歳。神奈川県出身。国際基督教大を経て1969年劇団四季演劇研究所に入り、俳優・翻訳家として活動。76年フリーとなり、多くの現代劇やミュージカルの翻訳、演出を手がけた。主な作品に「真夜中のパーティー」「陽気な幽霊クラブ・レターズ」など多数。日本演劇協会会員。

▼吉井順一氏(本名・田中順一) 能楽シテ方観世流。9月1日、心不全のため死去、85歳。福井県出身。

▼永曾信夫氏 富山市民文化事業団オーバードホール元芸術監督。9月1日、死去、87歳。滋賀県出身。俳優座演劇研究所講師や桐朋学園短期大学教授、東京藝術大学大学院などを歴任。俳優の育成に務めた。

▼黒沢栄子氏(本名・下田栄子) 舞踊家。9月4日、死去、84歳。青森県八戸市出身。夫の黒沢輝夫とともに黒沢・下田モダンバレエスタジオを主宰。「水上勉シリーズ」で文化庁芸術祭優秀賞、指導した多くの生徒が全国コンクールで優勝。舞踊教育への貢献で、財団法人松山バレエ団の教育賞を受賞。

▼ピーター・ホール氏 英国の演出家。9月11日、死去、86歳。1960年、ロイヤル・シエクスピア劇団を創設し、ロイヤル・ナショナル・シアターの芸術監督として長年活躍した。「英演劇界の父」とも称された。

▼フランク・ピンセント氏 米俳優。9月13日、死去、80歳。東部マサチューセッツ州生まれ。マーティン・スコセッシ監督の「レイジング・ブル」や「グッドフェローズ」「カジノ」などに出演。マフィア役を多く演じた。

▼田村丸氏(本名・田村武之) 劇作家、演出家。劇団フジ代表。9月14日、死去、74歳。東京都出身。

▼ハリー・ティーン・スタントン氏 米俳優。9月15日、老衰のため死去、91歳。南部ケンタッキー州生まれ。「エイリアン」「パリ、テキサス(カンヌ国際映画祭の最高賞パルムドールを受賞)」「ストリート・ストーリー」「グリーンマイル」など数多くの作品に出演した。音楽活動もおこなっていた。

▼永久保一男氏(本名・山本一男) 劇団新派俳優。9月17日、膀胱がんのため死去、80歳。東京都出身。1956年10月、明治座「女の勲章」で初舞台。

代表作に「婦系図」坂田礼之進、「鶴橋鶴次郎」早川など。

▼橋本雅夫氏 元宝塚歌劇団プロデューサー。9月19日、感染症のため死去、92歳。大阪市出身。阪急電鉄から宝塚歌劇団に転向してプロデューサーを務め、社史・宝塚歌劇80年史なども担当した。著書に「宝塚歌劇今昔物語」「阪急電車青春物語」。

▼梶柳二氏 声優。9月29日、うつ血性心不のため死去、89歳。東京都出身。アニメ「天才バカボン」のレレレのおじさん、アニメ映画「天空の城ラピュタ」の老技師や「仮面ライダーアマゾン」のモグラ獣人などの声を演じた。テレビドラマや洋画の吹き替え、舞台、CMなども活躍した。

▼アン・ビヤゼムスキー氏 仏女優、小説家。10月5日、乳がんのためパリで死去、70歳。1947年、ベルリン生まれ。パリに留学中、ロベール・ブレッソン監督の「バルタザールどこへ行く」でデビュー。67年ジャンリュック・ゴダール監督の「中国女」で主演を務め、同年ゴダールと結婚。その後、ゴダールの「東風」「万事快調」などに出演。ゴダールとは79年に離婚した。近年は小説家として活動していた。

▼梅田邦久氏 能楽観世流シテ方。10月5日、死去、86歳。名古屋を代表するシテ方として活躍した。

▼橋本力氏 俳優、元プロ野球選手。10月11日、肺がんのため死去、83歳。北海道出身。プロ野球毎日オリオンズ(現ロッテ)の選手として活躍。ケガをきっかけに、俳優に転身した。特撮時代劇映画「大魔神」シリーズのストゥアクターや「ドラゴン怒りの鉄拳」でブルース・リーの敵役として道場の館長役を演じた。

▼タニエル・ダリユー氏 仏女優。10月17日、死去、100歳。1917年、仏南西部ポルドー生まれ。14歳でデビューし、「うたかたの恋」で世界的人気を得た。キャリアは約80年に及び、100本以上の映画に出演した。カトリヌ・ドヌーブと共演した「8人の女たち」(02年)で、ベルリン国際映画祭銀熊賞を受賞した。

▼和栗由紀夫氏 舞踏家。10月22日、膵臓がんのため死去、65歳。東京都出身。前衛芸術「暗黒舞踏」の創始者、故土方巽に師事。舞踏グループ「好善社」を主宰し、国内外で公演した。「舞踏譜」を用いた作舞法の継承にも力を注いだ。

▼秤屋和久氏 劇団民藝演出部所属の照明家。10月27日、膀胱がんのため死去、87歳。東京都出身。62年に民藝に入団。長年にわたって照明プランナー

として活躍。93年には上海人民芸術劇院との初の日中合同公演に参加し、日中演劇の架け橋としても貢献した。代表作は「アンネの日記」「炎の人」など。2014年には第23回日本照明家協会賞特別賞を受賞した。

▼常磐津松尾太夫氏(本名・福田和夫) 元常磐津協会会長。10月28日、老衰のため死去、90歳。東京都出身。祖父は3代目松尾太夫。6歳から常磐津を習い、1943年に常磐津清勢太夫を名乗り、明治座で初舞台を踏む。91年に4代目松尾太夫襲名。97年、文化庁芸術祭優秀賞、97年勲五等双光旭日章。

▼カリン・ドール氏 独女優。ドイツのメディアによると11月8日までに南ポミュンヘンの介護施設で死去、79歳。1938年西部ウィースバーデン生まれ。「007は二度死ぬ」(67年)に主役ジェームズ・ボンドの敵役のヘルガ・ブランドとして出演。ドイツ女優で唯一、ボンドガールを務めたことで知られた。

▼鶴ひろみ氏 声優。11月16日夜、首都高速上の車内で意識不明の状態で見つかり、死亡していたことがわかった。運転中の大動脈剥離のため死去、57歳。北海道生まれ。横浜市出身。「それいけ!アンパンマン」のドキンちゃんや「ドラゴンボールシリーズ」のブルマなどの声優として知られている。

▼岡田和夫氏 作曲家、指揮者。11月20日、死去、86歳。東京都出身。演劇や映画のための音楽の作曲と、日本語の言葉をわかるように歌う俳優の音楽指導に注力した。50年を越える演劇活動で係わった作品は270作品ほど。主な演劇作品「風の子」「花盗人前進座」「ホモイの涙」新人会「ヘレンケラー」とサリヴァン先生「劇団銀河鉄道」白雪姫と七人のこびと、赤ずきん。前進座の付属養成所の講師も務めた。「第17回日本舞台芸術家組合賞」を受賞。

▼デビッド・キャシディ氏 米俳優、歌手。11月21日、肝不全のため死去、67歳。1950年、ニューヨーク生まれ。69年にブロードウェイ・ミュージカルでデビュー。舞台やテレビで活躍。70〜74年の連続ドラマ「パトリック・フアミリー」で二躍有名になる。音楽活動でも知られ、番組で歌った曲も大ヒットを記録。

▼デイミートリー・ホロストフスキー氏 ロシアのバリトン歌手。11月22日、死去、55歳。シベリアで、母と祖母が声楽家、父がピアニストの家庭に生まれた。日本でもたびたび公演。03年、ロシアのマリンスキー歌劇場の来日公演でチャイコフスキー「エフゲニー・オネーギン」のオネーギンやプロコフィエフ「戦争と平和」のボルコンスキー公爵を歌った。

▼海老一染之助氏(本名・村井正親) 伝統芸能「太神楽」の曲芸師。12月6

日、肺炎のため死去、83歳。東京都出身。1945年、二代目海老一海老蔵に入門して、2002年に死去した兄の染太郎とコンビを結成。「お染ブラザーズ」の愛称で「おめでと〜うざいま〜す」と言いながら和傘の上で毬を回す芸が人気を博した。

▼早坂曉氏(本名・富田祥資) 脚本家、作家。12月16日、腹部大動脈瘤破裂のため死去、88歳。愛媛県松山市出身。日本大学芸術学部卒業。「七人の刑事」「天下御免」や「事件」シリーズなどのドラマを手がけた。妹が被爆死したりした体験から生と死をテーマにした作品が多く、社会派と呼ばれた。広島で胎内被曝した温泉芸者を描いた「夢千代日記」は吉永小百合(NHKドラマ)や前進座の今村文美が演じた。生まれ育った商家を舞台にした「花へんろ」シリーズが人気を集めた。自伝的小説「ダウンタウン・ヒーローズ」は山田洋次監督によつて映画化された。94年に紫綬褒章、2000年に旭日小綬章を受けた。芸術選奨文部大臣賞、向田邦子賞、新田次郎文学賞など受賞多数。著書に「戦艦大和日記」「山頭火」「公園通りの猫たち」など。元日本演劇協会会員

▼笑福亭仁勇氏(本名・山澤健二) 落語家。12月16日、脳出血のため死去、59歳。大阪市出身。1977年、三代目笑福亭仁鶴に入門。78年、うめだ花月で初舞台。

▼末利文氏 演出家。12月17日、食道がんのため死去、78歳。中国・北京生まれ。学習院大学文学部仏文科卒業。1963年に演出家として活動開始。俳優小劇場などの活動を経て、72年に別役実らと「手の会」を結成。80年の木山事務所創立に参加した。演出した代表作は「世阿弥」「はるなつあきふゆ」「仮名手本ハムレット」など。95年、読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。2004年から10年まで大阪芸術大学舞台芸術学科教授を歴任した。著書に「私の花伝書」がある。

▼薄井憲二氏 前日本バレエ協会会長、舞踊史研究家。12月24日、悪性リンパ腫のため死去、93歳。東京都出身。バレエダンサーとして数々の舞台で主演。振付も担うなど、古典から創作まで幅広く活躍した。モスクワ、バルナ、ジャクソンというバレエの世界3大コンクールの審査員を歴任した。2015年まで約10年間日本バレエ協会会長を務めた。ロシア国立モスクワバレエアカデミーの名誉教授にも就いた。16年、ロシアの舞踊誌が主宰する「踊りの魂賞」を受賞。著書に「バレエ千一夜」など。

▼深水三章(しんすい・さんしゅう)氏(本名・深水三章) ぶかみ・みつあき

俳優。12月30日、虚血性心不全のため死去、70歳。熊本県出身。劇団・東京キッドブラザースに所属した後、劇団・ミスタースリムカンパニーを創立。映画や舞台、テレビドラマなどで名脇役として活躍した。NHKドラマ「阿修羅のごとく」「大河ドラマ」「炎立つ」などのほか、映画「樋山節考」「うなぎ」など故今村昌平監督作品に数多く出演した。

▼真屋順子氏(本名・高津詔子) 俳優。12月28日、死去、75歳。大分県出身。1961年に俳優座養成所に入った。76年開始のテレビの人気バラエティ「欽ちゃんのどこまでやるの!」で萩本欽一の妻役で人気を集めた。ドラマ共演で知り合った俳優の高津任男と結婚。劇団樹間舎を設立し、舞台でも活躍した。2000年に脳出血で倒れ、夫婦の共著で闘病記「ありのまま」を出した。